

ふるさと上越ネットワーク会報

めざせ No. 33 2012.08

安全第一

試験運転。供給力確保で期待に応えよう。
「がんばろう上越火力!!」

1-1 539MW

1-2 223MW

761MW

2-1 0MW



巻頭言

インターネット理事

杉臣 武 (幸町出身)



値上げ上等夏の陣

根が単純な性格なので他人の言うことに簡単に乗ってしまうことが多かったが、昨年の地震と原発騒ぎ以来どうも疑い深くたって来た。庶民の情報源が新聞とNHKしかなかった昔と違って、今はパソコンの前に座ってキーボードを叩けば世界中から瞬時に情報が入ってくる。インターネットの情報は社会的な地位や立場を問わない。現役バリバリの切れ者だろぅがボケが気になる後期高齢者だろぅが、好奇心のおもむくままにキーを打つとんでもない情報が入って来てひそかに優越感に浸ることがある。愕然としてコピーをこぼすこともある。情報は好奇心と暇のある人に集まってくる。一日あくせく働いて家に帰れば一杯飲んでボタンキューのエリートサラリーマンの方が肝心の情報から遮断されていることが多いのはあるまいか。地震発生直後にライブカメラが捉えた一号炉の水素爆発、三号炉の核爆発はNHKよりも海外の報道の方が早かった。政府

や東電が日本人向けに報道管制を敷いていたからではなからうか。それ以来僕は日本国内で流される公のニュースが信用できないと情けないことである。二ユースが信用できないと情けないことである。

去年四月アメリカの「フェアウインズ」というエネルギー教育サイトで三号炉の解説をしていると教えてくれた人がいた。アーニー・ガンダーソンという人が解説していて、ビデオ画面には三号炉が閃光に続いて大爆発を起こし黒煙が上空高く吹き上がる様子が写っていた。「これは衝撃波が音速を超える爆発 (detonation) で音速以下の爆発 (deflagration) と区別される。燃料棒の破片があちこちに飛び散り、粒子ウランがハワイ、西海岸はおろかニュー・イングランドでも観測されたのが核爆発の証拠だ」云々。今年四月震災一周年ということで内外のメディアが来日して特集を組んでいたが、ドイツのテレビ局ZDFが四号炉の現場取材したルポを流していたのを見てびっくりした。日本で四号炉が週刊誌などの話題になるのは五月に入ってからである。多分この映像を見て驚いたからではなからうか。ドイツ

人のチームは外人と分らないように特大のマスクをつけて白の作業服に身を包み、日本人の技術会社社長の車に便乗して現場に乗り込んで東電の責任者にインタビューしていた。こんな強引な取材は日本人にはできない。一蹴されて引き返すのがオチである。

原発については分からないことが多すぎる。そこへ今度は低電圧利用者への料金値上げの要請だ。

「火力発電の燃料費等の大幅な増加により…」と言うが本当か。廃炉が決まって資産価値がなくなれば銀行も融資してくれない。儲からない事業に莫大な資金を投じなくてはならぬ。各社で値上げ申請が続くのではないか。でも考えて見れば一部の慎重居士を除けば、僕らみんな鉄腕アトム以来原子力の未来を信じ原発に頼って過剰な消費生活を楽しんできたのだ。一種の共犯者でもある。だからこの夏は極力節電に励んで必要な所に電気をまわし、原発なしでも暮らせることの証明を国民的課題にすればいい。オール電化を勧める業者に「エネルギー源の分散が僕の哲学」と断って来たのが役にたった。娘もその気になってDIY店からいろんな武器を集めてきた。設置十年の太陽熱温水器も「まだまだお役にたちますぜ」と張り切っている。我が家の夏の陣がこれから始まる。

「洛中洛外図屏風」を追って

杉並区 岡田 幹治（高田出身）

京都の全景を一双（一对）の屏風に描いた「洛中洛外図屏風」に興味を持ったのは、山形県の伝統ある三都市、米沢・酒田・鶴岡への小旅行を夫婦で計画したのがきっかけだった。2年前のことだ。

下調べをしたら、現在百近く残っている洛中洛外図のうち最高傑作（「上杉本」と呼ばれる「国宝」を米沢市上杉博物館が所有し、その複製が常設展示されている）が分かった。

上杉本は、室町幕府の十三代将軍・足利義輝が、上杉謙信に上洛して管領になってほしいというメッセージを伝えるため、当時二十歳を過ぎたばかりの絵師、狩野永徳に描かせたが、完成直前に義輝は非業の死を遂げる。死後完成された屏風を上洛した織田信長が見だし、同盟関係が必要としていた謙信に贈ったものとされている。

だから屏風の左隻（させき）には、謙信（と推定される人物）が輿に乗って花の御所（幕府）に向かう行列が描

かれている。御所には出迎えようとしている義輝（推定）が見える。

このような成立事情は上越生れのものにとつて実に興味深いが、それはこの屏風の魅力の一部にすぎない。縦一・六メートル、横三・六メートルの屏風一双には、当時の御所や武家屋敷の様子とともに、春夏秋冬の風物や行事、さらには庶民たちの生業（なりわい）が生き生きと描かれている。

その描写は実に細かく、登場する人物はさまざまな身分や職種にわたっており、合計二千四百八十五人。床屋の様子から当時、月代（さかやき）は剃るものでなく、毛抜きで抜くものだったことが分かるという。

だが、期待に胸を膨らませて上杉博物館に着いた私たちは肩すかしをくらう。模様替えのため常設展示が一時閉鎖中だったのだ。

念願がかなう機会は翌春やってきた。群馬県立歴史博物館（高崎市）が「洛中洛外図屏風に描かれた世界」という



上杉本 洛中洛外図屏風 右隻／米沢市上杉博物館所蔵



講演中の岡田幹治さん

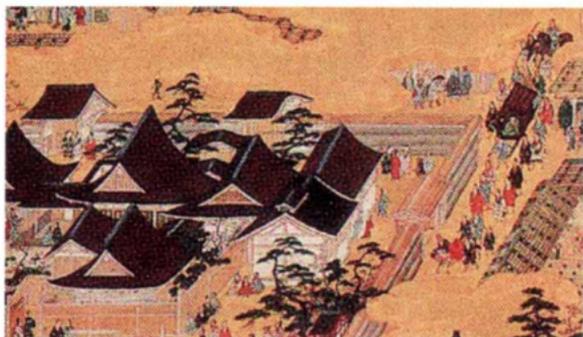
展覧会を開き、上杉本を含む計五双の洛中洛外図屏風が展示されたからだ。もともと上杉本の原本の展示は、五週間余りの会期のうちわずか五日間だから注意しなければならない。

会場で上杉本の前に立つと、画面いっぱい金色の雲が広がら、その合間に建物や人物が描かれた壮大な絵巻が目に見え込んでくる。とても華やかで、しかも人々のエネルギーを感じさせる。会場には高精細なデジタル映像も用意されていて、人々の表情やしぐさも細かく見ることができた。

続いて今春は、国立歴史民俗博物館（歴博＝千葉県佐倉市）が開いた「洛中洛外図屏風と風俗」展に出かけた。ここでは歴博がもつ六双の屏風を中心に展示が行なわれていた。歴博の教授によるギャラリートークも聴

き、洛中洛外図の変遷が理解できた。上杉本は歴博所有の複製の展示だったが、これも良くできている。上杉本やはり華やかさや情報の豊富さで抜きん出ている。

次はぜひ、〇八年に上越市で発見された「御所参内・聚楽第行幸図屏風」（こしよさんだい・じゅらくていきょうこうずびようぶ）を観たいと思っている。



上杉謙信（推定）の花の御所へ向かう行列



上杉本 洛中洛外図屏風 左隻／米沢市上杉博物館所蔵

《高田城の桜》がCNNの

世界五大花見に選ばれて

—海外からの観光客の増強に向けて

小金井市 伊藤 利彦 (本町一丁目出身)

ご存じの方も多いだろうが、今春、《高田城の桜》が、CNNの観光や旅行の情報サイトで、今が旬の世界五大花見の一つとして紹介された。三月二十九日の掲載だった。

《高田城の桜》についての記事の内容は以下の通り。桜ロードに沿って数千のぼんぼりに照らされた高田城の桜は、とてもロマンチック(美しく幻想的)であり、日本三大夜桜のひとつとして知られる。新潟県観光地域振興課の秋山氏によれば、今年は、天候が寒く、開花が四月中旬から下旬にずれ込むと予想。花見には、たこ焼きや焼き鳥の屋台も三百店も並ぶし、最終日の花火は必見。

この《高田城の桜》記事は、東京支局が新潟県庁に電話で取材し、アトランタのCNN本社において、他の支局からの取材と合わせて、アジア系米国人が取りまとめたものだといふ。

ちなみにCNNは、ニュース専門放送局で米国最大手のひとつ。このサイトも全世界に向けて公開されている。今回の

五大花見のヒット数は明らかではないが、数十万はあったのではないかとのことだった。

あらためて言うまでもなく、この記事の持つ意味の重要さは、《高田城の桜》が、今が旬の世界五大花見として取り上げられたことにある。他の四つとは、チューリップで有名なオランダのキューケンホフ公園、イギリス・ロンドンの王立植物園、中国・上海の南匯区の桃園、そして、フランス・プロバンスのラベンダールロードである。

いずれも国レベルで誇れるガーデニングや花の名所である。とりわけ、前者二ヶ所は、地理の教科書にも載るほどよく知られている。

それらと肩を並べての紹介は、とんでもなくすごいことなのである。おおげさかもしれないが、高田の桜も、彼らに負けないだけの世界的有数の器量を持つ花見とお墨付きをいただきたいようなものだ。言葉の良し悪しは別として、国レベルで誇れる有力な観光資源

といっても過言ではないのだ。翻って、今年の高田の花見をみてみると、上越市役所観光振興課によれば、一〇五万人以上が訪れたそうである。上越観光コンベンション協会による推計では、地元への経済効果は三十五億円以上で、見物客による消費額は二十四億円超にのぼるといふ。しかし、見物客の八割弱が県内からで、二・五割は市内の住人である。県外

からは二割強にすぎない。それも、長野、富山、東京程度である。海外から花見客ともなると、ほぼ皆無に近い。それでも、日中国交正常化四〇周年事業として中国南京市より一二〇名もの訪問客があつたことは、特筆しておきたい。

宿泊客となると見物客のうち一割程度で、そのうち上越市内に宿泊したのは宿泊客の四割、つまり、見物客全体

3. Takada Castle cherry blossoms, Joetsu, Japan



When: April 6-22

Viewing blossoms is not just a daytime activity.

Takada Park in Niigata prefecture offers a romantic option for nocturnal visitors. Cherry blossom viewing in Takada Castle is one of the three biggest night hanami events in Japan.

The [tourism website](#) shows you how to hanami like a Japanese.

Takada Park's 4,000 blooming cherry trees will be lit up by thousands of bombori lanterns (traditional small oval-shaped lanterns) along the "Sakura road."

"Because of cooler weather this year, cherry blooms will start a little bit later than usual," Kazuyuki Akiyama from International Tourism Office of Niigata Prefecture estimates. "I would say mid-to-late April will be the best time to see cherry blossom at Takada Castle."

Traditional Japanese food and local food specialties like yakitori and takoyaki will be sold from 300 outdoor stalls at the event during the festival.

Also, don't miss the firework on the final day.

Takada Park. Opens daily until 10 p.m. (evening hanami starts after sunset). Free (within the park) and ¥200 (US\$2.4) for entering Takada Castle's turret. [enjoyniigata.com](#)

CNNの記事「5 blooming great flower festivals」



オランダのキューケンホフ公園のチューリップ

COURTESY KEUKENHOF



中国上海の南匯区の桃園

COURTESY SHANGHAI BOTANICAL GARDEN/NANHUI PEACH BLOSSOM VILLAGE



英国ロンドンの王立植物園

COURTESY RBG KEW



フランス・プロバンスのラベンダー

COURTESY ALPES-DE-HAUTE PROVENCE, TOURISME

の四%の四万人程度である。だが、消費単価でみると、日帰り客は二〇七・一円に対して、宿泊客は八五〇・八円。やはり、宿泊客を増やしていきたいところである。

その意味では、今回のCNNでの紹介は、国内外、とりわけ海外へのPRの強力な後押しとなる。観光客増大に努めている上越市にとっては、ビッグチャンスである。

アンケート調査では、CNNでの紹介を見物客の一例が知っていたというが、今年は、市としてはこれを充分活かすことはできなかった。掲載は三月末のことでもあり、マスコミへ情報提供や上越観光コンベンション協会のHP等での紹介にとどまった。民間とし

ても何か特別の対応があったとは聞かない。もちろん、来年に向けては、パンプなどへの今回のCNN記事掲載などいろいろと策を練っておられることだろう。

こうなると、上越出身の我々としても、お世話になった故郷のために、少しは、知恵を絞るのが浮き世の義理というものであろう。

私の場合、花見客増強などと大上段に構えて、もの申すような立場でもなければアイデアもない。ただ、東南アジアと豪州に十年ほど暮らし、中堅旅行会社経営に十年弱携わってきたという経験がお役に立てるかもしれない。国内や海外一般からの観光客増強は

私の生活したアジアや豪州の人々に対するプロモーションに絞って、ささやかながら考えているところを述べてみたい。

○本当に、桜は、外国人にとって、魅力があるのか。

今年、米国ワシントンに桜が贈られて百年ということだが、年々人気が高まってきた彼の地の「桜まつり」が盛大に行われたと聞く。前述の南京市からのお客様たちも、高田公園の夜桜を堪能し、中国にはこのような桜の公園がなく初めて見たと大変喜んだという。私のつたない経験でも、香港、マレー

シア駐在時代に、現地の人から、一生に一度は、日本の桜を観たいという声を数多く聞いた。豪州では、紫の花が木を覆うように咲くジャカラランダの木がある。あまりにも見事なので褒めたところ、日本の桜には敵わないと軽く一蹴されてしまった。

やはり、桜には魅力があり、相当な数の外国人は、機会があればぜひ観たいと思っている。高いレベルの高田の桜は、大いに有望である。自信を持っていえることだ。

○それでは、アジア・豪州からの観光客を増やすには、なにが足りないのか、どうすべきか。

1. 知名度のアップ

旅行会社勤務の頃も、東京からの送客は、地方の桜では、高遠、三春、青森が先行し、高田へは殆どなかった。大手旅行会社に高田の桜を紹介したことがあるが、反応がいま一つだった。まして、海外での知名度は皆無に等しかったと想像できる。

この点、今回のCNNの取り上げは強力な助っ人である。大いに活用すべきた。海外客呼び込みのインバンド旅行社への売り込みに加えて、後述するが、環境が整えば国の力も利用することも考えられる。

2. 観光インフラの整備

① 交通の便は大幅に改善。

北陸新幹線の開通で東京とは二時間の距離で、さらに富山空港とは一時間の距離となる。観光の点からは、誠に嬉しいかぎりだ。

② 桜だけでいいのかわ。

一回限りの観光客を自当てとするなら、桜だけでも売り込める。しかも、四月という時期を考えると、地方の桜としての主な競争相手は、高遠の桜くらいでもない。彼らに対しては交通の便でも優位に立ててよかった。

しかし、桜の季節だけで受け入れ施設や体制を維持はできないだろう。年

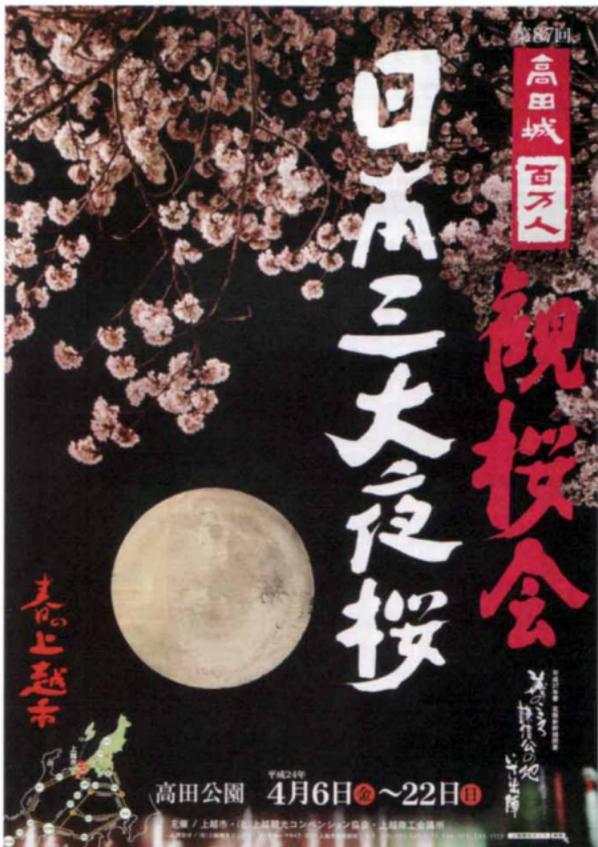
中通しての観光客を呼び込む必要がある。

お隣の妙高市では豪州からの観光客が増えているそう。彼ら豪州人の場合は、スキー、トレッキング（高校で過酷な訓練あり）、ゴルフ、マリンスポーツなどに魅かれる。盆栽、お茶、生け花にも興味を持つ。それに、ワイン（豪州人はワインが自慢）は見逃せない。上越には、山も海もあり、岩の原葡萄園もある。坂口記念館でのお茶も楽しめそう。食事だって海山ともに材料は豊富で新鮮だ。妙高や国際リゾート地の二セコに負けず、いろいろとタネはあると思う。

③ 宿泊施設不足はどうすべきか

確かに上越では、アメリカ型のホテルの室数は限られている。そう簡単に増やせるものではない。

しかし、いま日本では、ホテルではなくとも、豪州や欧米人が興味をもつ宿が増えている。例として挙げれば、敵島神社のある富島の「ゲストハウス菊かわ」だ。部屋は、和室と洋室があ



Jネット理事「柴田長俊画伯」制作の観桜会ポスター

るが、町家風旅館と称する通り、古い町家の部屋を改装したものでとても狭い。そこに一名から三名くらいまでは、親切なご主人とともに外国人の人気を得、口コミでも知れ渡っている。リピーターも多いと聞く。予約はネットで、手頃な宿泊代をベースとして、食事代を上乗せしていくスタイルだ。

これは、高田の町家を連想させる。あるいは、桜の季節だけに限っては、上越に連なる大型民家への民泊にも応用で

④ 言葉の問題の克服

観光パンフや看板やサインにも外国語表示が必要であるし、通訳のできる案内人も要るだろう。

こうしたことは、思っている以上に簡単なことである。通訳だって、キリとなる単語さえキチンと把握しておれば、それほど難しくはない。問題は、

自分の伝えたいことが意外にわかっていないことが多い、この点が必要者が事前で勉強しておくことが必要だ。タクシー運転手にiPadを持たせて、外国人観光客とコミュニケーションを図っているというところもある。

3. 国の支援を得られないか

このほど、政府は、二〇二〇年までの成長戦略を盛り込んだ『日本再生戦略』の原案を公表した。この中の観光立国施策では、訪日外国人観光客の目標を二五〇〇万人としている。昨年の四倍である。

観光庁によれば、いろいろな支援策を用意しているとのことだ。地域おこしのために、専門家の知見活用、文化芸術事業の推進、エコツーリズムの取組支援、特産品作りやイベント支援、町の魅力アップ支援とその基盤整備、それに歴史文化遺産を生かした観光振興などを支援する用意があるので、ぜひ手を挙げてほしいと言っている。

高田の桜は有力な観光資源という意味においても観光庁には興味はあるとの感触を得た。但し、大事なことは、まずは、地元でどうやりたいのかを固めることだ。そのうえで国に持ち込み、あくまでも地元の方針に沿って国の手を借りるのがいいと思う。ご存じの通り、国任せは進まない。

○最も大切なこと——自信を持って自分たちの持つものを披露してほしい。

以上、独断と偏見でいろいろと書いてみましたが、最後にもうひとつ、かなり独断に満ちたことを二つほど申し上げたいと思う。

その第一は、一般的にみて、中国人を除いて、アジア人や豪州人は、欧米人と較べてとてもウエットなメンタリテイ（心情）を持ち、それは、我々と共通しているということだ。中国人は、私の偏見では、少し欧米人に近いかもしれない。

かつての超人気番組「おしん」はアジアや豪州でも放送され、高視聴率を得た。マレーシアにいた私にも、日本人とわかると、おしんに同情し、おしんが貧乏に負けず頑張っているという言葉をいくつもかけられた。もっとも、あれはYストアの創業者がモデルだということも多少白けたが。

豪州でも、隣家の老夫人は熱烈なファンだった。夜帰宅したばかり私を捕まえて、おしんの境遇に同情し、涙を流してくれた。余談だが、これを機会に、その町内会の集まりに誘われた。そこでの様子は、昔、幼い頃に見た、高田での近所の寄り合いの思い出させるものだった。数年前まで日本で言われていた「勝ち組、負け組」とは程遠く、極めて人情的なものだった。

彼らは我々と同じメンタリテイをもち、共通することも多い。お互いにすつきりとコミュニケーションがとれる土壌があるのだ。もし、巧みかかないのであれば、問題は我々が心の中に間違っ

た壁を作っていることだと思う。

独断に満ちた、もうひとつは、「おもてなしの心」である。上越人のもつ優しく、人をもてなしたいと思う心である。

旅行業界では、お客様は、有名な城や歴史的建造物、自然の絶景など名所旧跡への観光は一度限りで同じ場所を再度訪れることは稀れと言われている。実際、その通りだった。ところが、気に入った添乗員がいるとその添乗員のツアーには盲目的に参加するというとても眼にしてきた。ファンが付くというケースである。

これを、私は『ハードは一見（いちげん）、ソフトはリビート』と呼んでいる。城や桜だけなら一回見れば充分しかし、そこに人間らしさを感じるという度にも触れなくなるということだ。

実際にお訪したのだが、季節外れの高額旅行が、途中で、南ドイツへの大雨に襲われた。川が氾濫して、道もふさがれ、ツアーは宿泊予定のホテルには辿りつけそうもない。そこで、添乗員は、お客様の了解をとって途中の宿屋に泊ることにした。

なんとか、小さな宿屋を見つけたものの全員分のベッドは確保できない。初夏なのにとても寒く、旅行者たちからは不満が出た。停電で、しかも、夕食もついていない。添乗員は、雨の中、食料を買いに外に出たが、夜も遅く閉店していても手に入らなかつた。すると、見るに見かねた宿屋の老夫婦は、パンとサラミ、それに、自分たち

のためにとっておいたリンゴを出してくれた。

その晩は、お年を召した旅行者八名と添乗員は、ダイニングで毛布をはおり、ろうそくを囲んで、リンゴをかじって過ごした。自然とお互いの話も出た。

帰国後、添乗員は、クレームの嵐を覚悟していたが、会社に届いたのは、感謝の手紙ばかりで、クレームは一切もなかつた。皆、親切な宿屋の老夫婦に感謝し、あの暗い夜の中でリードしてくれた添乗員のことをひたすら褒めていた。この添乗員のツアーは今でも定評があるという。

そう、「おもてなしの心」こそが、最高にして最強の観光資源である。そして、その心が、上越人には備わっていると私は信じている。

外国人とは、ひと言でも話が出来れば通じえるものだ。向うもそれを見てのなかにある。「しようしい気持ち」だと思ふ。「おもてなしの心」で「しようしい気持ち」を乗り越えてほしいと願っている。

上越人は、十分に自信をもって、自分たちの持つものを、自分たちだけのオリジナルリティを披露していただきたいということである。

平成二十四年度 総会報告

五月二十六日(土)十五時よりアルカディア市ヶ谷(東京都千代田区九段)の五階「大雪の間(東)」で総会が開催されました。なお、この総会に先立ち十三時三十分より七階の「吉野の間」で理事会が開催されました。

総会には九十八名の方に参加いただきました。今回の総会ではお茶のサービスとお茶菓子(高橋孫左衛門商店提供の翁飴)が用意されました。また、上越タイムス社から提供頂いた最新の新聞も配付されました。

小坂恵美さんの司会で総会が始まり、和久井会長の挨拶に続き上越市の自治・市民環境部の笹川桂一部長にご挨拶を頂きました。

規定により会長が議長を務め、平成二十三年度の事業報告と決算報告、平成二十四年度の事業計画と予算の四議案に

ついて運営委員を代表して岡村普さんから説明がありました。これらの審議の結果、いずれの議案も承認されました。



司会の小坂恵美さん

平成24年度 ふるさと上越ネットワーク総会



上越市の笹川桂一部長

平成24年度 ふるさと上越ネットワーク総会



挨拶する和久井会長



質問する大滝さん(大手町出身)



質問する松本さん(東本町4丁目出身)

議事と事業計画

◇議案

提出された議案は左記の四議案です。
 第一号議案 平成二十三年度事業報告
 第二号議案 平成二十三年度決算報告
 第三号議案 平成二十四年度事業計画
 第四号議案 平成二十四年度予算
 提出された四議案とも総会で承認されました。

◇平成二十四年度事業計画(案)

- 一 会員募集事業(目標会員数七百人)
- ①新規会員の募集
 - ・毎月の「たより」に「ご紹介ハガキ」を同封
 - ・各区郷人会等への働きかけ(「Jネット」開催事業への参加案内)
 - ・役員、運営委員などによる定期的な勧誘活動の実施
 - ・高校同窓会への勧誘活動(総会時のチラシ配布など)
 - ・同窓会名簿への広告掲載。
 - ②会員のメリットとなる施策検討
 - ・郷人会の事務作業のサポートなど。
- 二 広報事業(上越市の紹介)
 - ①定期便を会員宛に毎月一回送付
 - ・「広報しようえつ」(1日号、15日号)(広報の送付を希望しない会員には送付しない)。
 - ・上越市やJネットの情報を提供する「たより」の発行

- ・会員の近況を紹介する「お元気ですか」の発行
- ・イベント情報チラシ、特別賛助会員からのお知らせなど送付
- ②「Jネット会報」の作成
 - 年二回発行(七月、十二月)
- ③「ふるさとカレンダー」の作成
 - 来年度版は十一月中発送予定
- ④ホームページの充実
 - ・従来のホームページを廃棄し、新たなホームページを稼働。
 - ・総会やふるさと市場などの情報を掲載。毎月更新。
 - ・過去の会報記(バックナンバー)具体的なホームページの案については本文記事を参照してください。

三 交流事業の実施

- ①ふるさと交流会の開催
 - 平成二十四年四月十五日(日)～四月十七日(火)に実施しました。
 - 村山上越市長に参加頂いた「なかしま食堂」でのお花見会には四十九名の参加頂きました。
 - 一泊目の「金型あかくら荘」は二十九名、二泊目の「くわどり湯つたり村」は二十八名とこれまでで最大の参加者数になりました。
 - 見学は君の井酒造、高田小町、世界館、宇喜世での昼食、春日山神社、林泉寺、(備)しようえつ東京農大の圃場などを見学、マリンドリーム能生、阿かの屋での昼食、上越物産センターの

後、直江津駅、高田駅で解散しました。



村市長を相手にカズさんのテーブルマジック



金型あかくら荘で宴会を前に記念撮影

○秋の交流会

平成二十三年十月二十一日(日)～二十三日(火)に実施予定です。
 今回の交流会は「体験ツアー」を主題に計画しました。
 概ね以下の行程で実施します。

- 【十月二十一日(日)】
- ・直江津駅集合(十三時三十分)
- ・頸城観光の大型バスで「くわどり湯つたり村」へ直行。
- ・くわどり「市民の森」をガイド付きで案内。広大な「ぶな林」の素晴らしい景色と森林浴を楽しむ。(高齢者には別の見学コースも用意)
- ・「くわどり湯つたり村」に宿泊。宴会のあと「民俗学の宝庫くわどり」にぐわい講師を予定。

【十月二十二日(月)】

- ・春の交流会で好評だった「朝市」と「朝食バイキング」。
- ・九時に出発し、名立の道の駅「うみでらす」へ行き、昼食の食材を仕入れます。
- ・十時に高田の朝市「二七の市」を見学。ここでも食材を仕入れます。
- ・十一時に正善寺工房。昼食の用意。仕入れた食材で天麩羅パーティー。
- ・昼食後「味噌作り」「漬物作り」。後日できた味噌や漬物を自宅に配達。
- ・頸城観光の大型バスで柿崎へ行き「吉川杜氏の郷」を見学。
- ・日本海に沈む夕日が見れる「マリノホテルハマナス」に宿泊。

【十月二十三日(火)】

・朝食は近所の養鶏場の前日取りの卵と柿崎産コシヒカリで「たまご掛け御飯」。

・朝食後、浜辺で地引網。

・網が上がったら取れた魚を使って浜汁。

・近所の楞厳寺(りょうこんじ)(上杉四天王、柿崎和泉守影家が建立)、「大潟水と森公園(県立)」をガイド付きで散策。

・近所の公民館の調理場を借りて昼食。浜汁とおにぎり、漬物。

・バスで上越物産センター。
・直江津駅十四時三十分解散。高田駅に十五時〇〇分着の予定。

概ね各施設は了解済。申し込みハガキは六月の「たより」に同封。

② Jネットサロンの開催

・名古屋サロン

平成二十四年十月上旬を予定

参加者一人あたり千円をJネットが助成(約四百円程度の上越のお土産を検討)

・近畿地区サロン

平成二十四年十一月上旬を予定

参加者一人あたり千円をJネットが助成(約四百円程度の上越のお土産を検討)

・東京サロン

毎月第二水曜日の一七時三〇分

東京渋谷道玄坂の運営委員会

事務局にて開催。

会費千円で上越市の酒蔵を順に選び、お酒を中心に話を聞く会を検討

③ 勉強会の開催

・年二回程度、原則として上越市にゆかりのある施設等を見学

ただし、最近では会員相互の交流に主眼をおき、「上越とのゆかり」についてはあまりこだわらないことで実施。内容については運営委員会で協議。

四 総会等開催事業

① 平成二十四年度総会

平成二十四年五月二十六日(土)

に「アルカディア市ヶ谷」にて開催され、平成二十三年度事業・決算報告及び平成二十四年度事業計画・予算等について審議し承認された。引き続きアトラクション及び懇親会を開催されました。(本文中の報告を参照してください。)

② 理事会の開催

第一回理事会

平成二十四年五月二十六日(土)

に開催された総会に先立ち開催。平成二十四年度総会議案について審議した。

第二回理事会

平成二十五年一月二十日(日)

に開催される「文化講演会」に先

立ち開催。平成二十四年度事業中間報告、平成二十五年事業計画

(案)等について審議。

③ 運営委員会

毎月第二水曜日十五時三十分から渋谷道玄坂のJネット運営委員会事務局で定期的に開催。

個別事業計画の内容検討や事業執行への協力等について協議。

五 ふるさとのまちづくり支援

① ふるさと市場事業の実施

・米を中心とした通信販売

・新規商品(食料品以外も含め)の採用

・産直商品の推薦(各区の総合事務所)毎月チラシの発行

・Jネットのオリジナル商品の開発

② 上越市への協力

・「ふるさと納税」支援事業

・専門員や各種委員会の委員として協力

・首都圏でのイベントに参加協力

③ 文化講演会の開催

・第二回理事会開催時

・次回講演会の講師案検討

④ ふるさと越後大使事業

・ふるさとPR用の名刺作成と配付

⑤ 絵葉書の発行検討

今年度のカレンダーで使用した写真を絵葉書で欲しいとの意見があり制作を検討。五枚セットで五百部作成して九万二千九百二十五円。一部あたり百九十円。

⑥ 法被の作成

これまで上越市や新潟県人会などから借用。制作を検討。最小ロット十枚で概ね一枚五千円。

⑦ その他

・各郷人会との連携

現在、上越市に開設した郷人会の催しには積極参加。郷人会の事務局会議室使用は無料。郷人会の事務代行。準会員等の検討(運営委員会)

・県人会との関連

Jネットの会長は東京新潟県人会の常任理事(充て職)となつている。県人会施設の有効利用、県人会報への投稿など。

・在京企業等の紹介

上越市の企業等と在京の企業を結ぶ交流(商工会議所等を経由)

・会員への定期的アンケートの実施

「Jネットに期待すること」「上越市に何を望むか」「その他…」

平成24年度 ふるさと上越ネットワーク予算(案)

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

■収入

(単位:円)

科目	平成24年度 予算額	平成23年度 決算額	差引増減	予算額内訳
会費	2,422,300	2,272,300	150,000	・個人会員(3,000円) 1,584,000 ・個人会員(2,900円ほか) 488,300 ・賛助会員 350,000
負担金	2,502,000	1,593,000	909,000	・総会参加者 400,000 ・文化講演会参加者 407,000 ・春のふるさと交流会参加者 613,000 ・秋のふるさと交流会参加者 550,000 ・名古屋・近畿・東京サロン 500,000 ・勉強会 20,000 ・ふるさと越後大使 12,000
交付金	5,000,000	5,000,000	0	・市交付金
通信販売	150,000	121,013	28,987	
繰越金	130,944	808,995	△ 678,051	
雑入	220,500	107,142	113,358	・預金利子 122 ・ふるさとカレンダー、他 107,020
合計	10,425,744	9,902,450	523,294	

■支出

(単位:円)

科目	平成24年度 予算額	平成23年度 決算額	差引増減	予算額内訳
広報事業	3,185,000	3,160,788	24,212	
会員募集事業	395,000	148,875	246,125	・広告、会員募集チラシ 340,000 ・通信運搬費 ・会員証印刷代 55,000
広報事業	2,790,000	3,011,913	△ 221,913	・市広報購入費 280,000 ・会報(年2回)、カタログ作成 600,000 ・ふるさとカレンダー印刷 450,000 ・定期郵便物配送料 900,000 ・封筒他印刷 160,000 ・消耗品・通信運搬費ほか 400,000
交流事業	2,199,840	1,646,348	553,492	・春のふるさと交流会 900,559 ・秋のふるさと交流会 800,000 ・名古屋・近畿・東京サロン 474,281 ・勉強会 25,000
ふるさと支援事業	1,161,310	1,161,310	0	・講演会事業 881,285 ・ふるさと大使事業 38,685 ・通信販売 241,340 ・消耗品・通信運搬費ほか 0
総会開催事業	964,442	964,442	0	・理事会 36,080 ・総会 579,597 ・懇親会 348,765
事務費	2,838,618	2,838,618	0	・人件費、交通費 1,716,780 ・運営委員会事務局費 710,000 ・運営委員交通費助成 298,260 ・会費手数料、郷人会、通信他 113,578
次期繰越金	76,534	130,944	△ 54,410	
合計	10,425,744	9,902,450	0	

アトラクション・懇親会

総会に引き続き会場を隣の「大雷(西)」に移動し、アトラクションは待望の真打ちに昇格された瀧川鯉橋師匠です。勝島副会長の司会で直江津出身の瀧川鯉橋師匠の紹介があり、出囃子に乗って特設の高座に上られました。「流石は真打ち」と熱演に大きな拍手が寄せられました。Jネットからは真打ち昇進のお祝いに「謙信掲紅紫(かちこうし)」で染めた楽屋暖簾を藤田さんから鯉橋師匠に手渡しました。(鯉橋さんについては勝島さんの書かれた本文をお読みください。)

続いて四階の「鳳凰の間」に移り懇親会が開かれました。会場に入るとまずウエルカムドリンクです。「岩の原ブルーティプラン」を楽しみながら開宴を待ちます。懇親会はまず、松川副会長、榎原顧問、佐久間初代会長のご挨拶に続き、上越市の太田課長の乾杯で開宴となりました。

毎回好評の丸茄子にゲンギョ、平八の蒲鉾にこの季節は竹の子と鮭缶が入った謙信汁が用意されました。大鍋二杯の謙信汁が瞬く間に空になりました。お酒も今年は本数を増やした「どぶろく卓」、雪中梅、君の井酒造の「酔鬼」が用意されいすれも大好評でした。恒例の抽選会では岩の原ワインの「深雪花」や上越の日本酒(四合瓶)、高橋孫左衛門さんの話合せ、農大の有機無農薬の乾燥野菜セット及び毎回好評の「かんすり」など多くの賞品が用意され

ました。又、鯉橋師匠からは飛び入りで扇子や手ぬぐなどが入ったグッズを四点ほど提供いただきました。

また、今回、受付で販売をした本『プロ野球審判ジャッジの舞台裏』の著者山崎夏生さんが飛び入りで挨拶をしてくれました。本は三十冊用意されましたが完売でした。

恒例の全員へのお土産として、「閑じょうえつ東京農大」の有機無農薬のお米三合をお持ち帰り頂きました。三日前に渋谷の事務所で精米したものです。



アトラクションの司会をする勝島副会長



瀧川鯉橋師匠の高座





榊原相談役の挨拶



松川副会長の挨拶



上越市の大山課長の音頭で乾杯





元プロ野球審判の山崎夏生さんが飛び入りで挨拶



新真打「瀧川鯉橋」 師匠誕生

副会長 勝島 敏明（直江津出身）

平成二十四年五月、落語芸術協会（会長 桂歌丸師匠）から五人の真打が誕生した。その一人がわが故郷出身の落語家「瀧川 鯉橋」（本名 高原 隆）である。

新作落語を演じる若い落語家が多い中で、彼は古典落語を演じている。最近富みに落語が上手になってきたなあと、思っていたら、真打である。嬉しい限りである。

瀧川 鯉橋は直江津出身である。

平成元年に直江津高校を卒業している。その後、日大に進んだとのことだが、卒業はしていないようだ。親父さんは「米来軒」というラーメン屋をやっていた。その長男である。

お父さんは高校時代野球をやっていたとのこと。スポーツマンだったようだ。そのお父さんの友人の佐藤敏（さとうさとし）さんのお世話で鯉橋はこの業界に入ったようである。佐藤敏は我々にとって是有名人である佐藤策次さんのお子さんで、若いころ「小さん

師匠に弟子入りしたこともある粋人で、今は藤間流の名取であり、上越市会議員でもある。

十四年前の平成十年に「春風亭昇昇（後 瀧川鯉昇）の門をたたき、前座は「鯉奴」（こいぬ） 四年後に二つ目となり「瀧川 鯉橋」と改め、今回入門から十四年目にして真打に昇進したわけである。アルコールは至って好きで強く、煙草もやるし、賭けこともやるのではないかと想像しているが、性格は明るく、真面目で好感の持てる好青年（いや中年？）である。

一年半ほど前に突如結婚して、周りを驚かせたが、その奥さんが、なんと「永六輔」の姪御さんであった。その姪御さんが「鯉橋」のファンでよく寄席に来て前の方で聞いていたのだそう。そんなことから仲良くなって、結婚ということになったとのこと。真打ち昇進披露パーティで永六輔さんが「私が大事にしていた姪御を奪ったやつがいた。それが鯉橋であった。」といった趣旨の

お祝いの言葉を述べられていた。そういえば最近「ラジオの番組の「永六輔その新世界」に「鯉橋」が何度か出演していたので、お聞きになった人もいらつしやるであろう。

いずれにしてもこれから益々芸に磨きがかかり、大落語家になっていくものと期待している。直江津高校同窓会としても、その活躍を大いに期待し、応援して行くつもりである。会員の皆

も是非応援していただきたいと思っ
ている。上越ネットワークからは「楽屋のれん」をお祝いとして贈ったが、直江津高校同窓会関東支部役員有志が「紋付羽織袴」を贈った。真打ち昇進披露公演ではその羽織袴を着て高座に上がった。

なお、毎日新聞の五月二十八日の夕刊に掲載された記事は、面白いし参考になるので、転載させていただきます、永

落語芸術協会披露
真打ち昇進披露
(7日、未だ亭・上席夜の部)



瀧川鯉橋—横井洋司撮影

寄席

喜びに満ちた鯉橋のトリ

席で、5人がまとめての春風亭昇太、後見役

コンニャク屋のわが坊主に諸国行脚の備が神問答を挑む。備が両手の親指と人差し指で輪を作り胸の中を回すと、お前店のコンニャクはこのくらいだろうと勘違いしたにわか坊主は両手で大きな円を描いて「このくらいだあ」と無言の問答。ジェスターのよう

桂歌丸会長の落語芸

昇進するのだから、ト

に動きの多い一席で、

拵協会から5人の新真

リは順番で二回ずつ。あ

備が負けてしまおうか

打ちが誕生した。番盤

鯉橋のトリの番を見

しさがにじみ出た。鯉

順に昔昔亭健太郎改め

た。この日はトリの前

亭桃太郎が居並ぶとい

春風亭愛橋、柳太改め

に芝菜が「箱問答」と

を裏面に演じた切った

春風亭柳城、昔昔亭笑

愛橋が「動物園」を披

き出すのつまが、

海改め柳亭芝菜、瀧川

露した。

した鯉橋が良かった。

披露興行は新宿・末

打ちのとき、こうして

初めて主任（トリ）責

御祝

永六輔、落語界にうといわけではない。

生家の寺の門を出て、左の突き当りは寄席の「鈴木」、右へ行けば「浅草演芸ホール」、途中の白鷺高校は、生徒全員に三味線が用意されている。近所の銭湯の昼下がり、売れない芸人さん達が噂話をしている。そんな町で育った、永六輔、落語界にうといわけではない。

寄席好きの父に連れられて、時には須田町や、人形町に出かけ、可楽や三木助に間に合った。岡本文弥の一言、「戦争はいやでございませう、あれは散らかしますから。」は忘れられない。談志の小五郎、小三治のさん治もおぼえている。

好江姐さんに頼まれて、柳昇師匠から「アタシを師匠にさして下さい。」と云われ、その後弟子入り。昇太を「あにさん」と呼ぶ破目にもなった。

だから落語にうといわけではない。父が憧れていた「席亭」を実現して、親考行も出来た。沢山の前座が真打に育っていった。だから落語にうといわけではない。

その永六輔が「瀧川鯉橋」を知らなかった。この頃落語に興味を持ち始めた姪がいるので聞いた。「鯉橋師とは、昨日よりもおとつい。明日よりはあさつて」という時間枠に居そうな人。レコードでいうならB面の気配を持つひと。今度紹介します「僕が実家へ帰った時、その男は住職のように出迎えた。たしかにB面の風情だった。」

一方、永六輔は転倒が続いてパーキンソン病。早くリハビリから卒業して、パーティにも参加したい。リハビリ仲間の野坂昭如サンから云われたことがある。「時代が怪しい。これからは、米どころに親戚があることが大切だ。」

鯉橋に出身を聞くと「越後・直江津」なんという目出たい結論。やれ目出たい。メデタイ。永六輔、落語界にうとい。

平成二十四年 三月吉日

永六輔



「謙信 藤田 謙信」について解説する理事の藤田香代さん

ホームページの再開について

横浜市 中村真和（直江津町出身）

「ふるさと上越ネットワーク（愛称「Jネット」）の会（以下本会という）は、一九九七年七月に設立して以来一五年になります。その間、毎年総会を開催し、一九九八年から「ふるさと交流会」、二〇〇四年から「文化講演会」を、二〇〇五年から「勉強会」を開催するなど活発に活動してきました。また、首都圏だけでなく、一九九九年から「名古屋地区サロン」、二〇〇一年から「近畿地区サロン」などが開催されています。「東京地区サロン」は、毎月第二水曜日に定着して一〇年以上になります。それらの活動内容は、毎年二回発行される「会報」や毎月発行の「たより」などで報告されています。

しかし、途中から入会した人は、古い会報などを所有していないし、最初から入会していた人も、すべての資料を保存している人は少ないのではないかと思います。そこで、この度、今

までのホームページを三年ぶりに完全にリニューアルし新規に作成することになりました。

本会の今まで積み重ねてきた歴史を毎月一日に更新することを原則として、タイムリーな情報の提供を考えています。現在及び未来の情報については、優先的に記載することとし、過去の情報については順次充実させていく予定です。

本会のホームページのアドレス（URL）は、今までと同じであり、「図1」のとおりです。そのページの「Jネット ホームページ」をクリックすると本会の「トップページ」に移行します。最近（七月一日）の「トップページ」の見本は、「図2」のとおりです。検索ソフト「ヤフー」や「グーグル」などで探す場合はキーワードとして「ふるさと上越」で検索すると上位に表示



されます。

「トップページ」の構成は次のとおりです。

- ①「Jネットニュース」は、最近三か月間のニュースと未来の情報です。
 - ②「当面の行事予定」は、今後三か月先までの予定です。
 - ③「今後の主な行事予定」は、その後一年間の主な予定です。
 - ④基本情報や過去の記録などは、リンク先の別のページに用意し、順次充実してゆきます。
 - ⑤新規に作成した内容や一部変更した内容などについては、更新履歴のページに明示し分かるようにしています。
- 過去の記録のページや今後の予定について、次のように考えています。
- ①「総会」については、一九九七年の設立総会以降毎年の開催日・会場・参加者数などを明示し、その内容や写真も提示します。
 - ②「文化講演会」については、開催日・演題・講演者などを明示します。
 - ③「ふるさと交流会」については、開

<http://www.joetsu.gr.jp/>

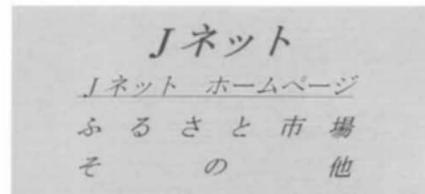


図1 ホームページアドレス（URL）とその内容

- ⑦「通信販売」や「会員登録」のページも、開設できるように検討します。（二〇〇二・二七・二五）
- ⑧「参加者数」については、開催日・テーマ・参加者数などを明示します。
- ⑨「サロン」については、「名古屋地区サロン」や「近畿地区サロン」などの開催日・会場・参加者数などを明示し、その報告内容や写真も提示します。
- ⑩「会報等」については、会報のすべての内容を収容し、引用できるように工夫したいと考えています。

ふるさと上越ネットワーク（愛称：J ネット）



本日は、2012年7月1日(日)です。

- | | | | | |
|-----|-------|------|------|-------|
| 総会 | 文化講演会 | 交流会 | 勉強会 | その他行事 |
| サロン | 会報等 | 通信販売 | 会員募集 | |



J ネット ニュース

- 来年のカレンダーの写真を募集しています。(8/31締切)
- 「J ネットのホームページ」を全面的にリニューアルしました。(4/1)
- 「夏の交流会」を実施しました。(4/15~17)
- <おまけ>金曜日直(動物)(5/21)
- 「堂野五木花見」に高田の夜桜を選出。<CNNGQ>掲載
- 「平成24年度総会」を実施しました。(5/26) 開催

スケジュール

◆ 当面の行事予定

7/11(水)	東京地区サロン(渋谷)	
8/1(水)	勉強会「鉛筆製造会社」見学	募集中
8/8(水)	東京地区サロン(渋谷)	
9/12(水)	東京地区サロン(渋谷)	

◆ 今後の主な行事予定 (●は来年を表す)

	名古屋地区サロン	
10/21(日)~23(火)	秋の交流会	募集中
	近畿地区サロン	
● 1/20(日)	文化講演会「山崎夏生さん」	
● 4/14(日)~16(火)	春の交流会	
● 5/25(土)	総会	



1125

更新日：2012-7-1

what's new Site Map

J ネット事務局 (岐阜)
〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂
1-18-8 二葉ビル8F-88
TEL:03-6415-6277
FAX:03-6415-6299
Mail: jnet_tokyo@albatros.co.jp

- 設立目的
- 規約
- 会費と特典
- 会員の挨拶
- 役員
- 事業内容

- 賛助会員
- リンク

図2 トップページの見本

<http://www.joetsu.gr.jp/>

春の交流会に参加して

昭島市 佐藤 光子（東城町二出身）

Jネットは平成九年に発足し、春・秋年二回の「ふるさと交流会」も今回で二十二回になる。

こうして北城高校時代の友人「四人組」（今回はその内の一人、新山芳子さんは所属している趣味の会の行事と重なって、残念ながら不参加）と交流会参加で、ふるさとの駅に降り立つのは、もう十回になるだろうか。

今年は例年になく低温が続き、交流会の初日の四月十五日は、桜の蕾は膨らんではいないものの、桜はほんのちらほらだ。企画して下さった方達はどんなに気がもめたことだろうと、ご苦労に感謝しながら、高田駅から花見会場行きバスに乗った。

この交流会に参加する前、平成元年頃から「四人組」は毎年観光や温泉を巡って二泊する旅行を続けていた。当時勤めをもっていた私の都合に合わせて、期日は八月の末に決まっていた。旅行が終って別れる時には、もう

来年の旅行先は決まっているほど、息が合っていた。頭の回転が速く行動的で、旅館の交渉も上手な塚田恵美子さんに、いつも旅行の詳細を任せていた。

退職して日にちに制約が無くなった時、Jネットのこの企画に一度参加してみた。「ああこういう旅行、なかなかいいわねえ」と、高田在住の塚田さんと一緒に参加するようになった。

彼女は、新潟県卓球連盟上越支部常任理事、日本視覚障害者卓球連盟公認審判官で、県内外のイベントや、卓球教室の手伝いで、今も殆ど休み無しの生活だ。実技でも、県シニアの部で三本の指に入る実力者なので、指導者に引つ張り嵐の様子。それだけに、ゆったりとした交流会に参加できるのは嬉しいという。三日間の交流会では、どうしても審判や県外の大会への引率、指導の日と重なる。が、やりくりして一泊でもと参加している。

この交流会の目的は、上越で生まれ



塚田恵美子さん（お姉さんは和久井会長の小学校の担任）

育って故郷を離れた人達を対象に、「新上越市を探索・紹介」するもので、「今はこんな所までも上越ですよ」、「こんなに立派な施設もあるんですよ」と連れていつてもらっている。

ある年は、「平成二十七年の三月に開業する北陸新幹線工事は、今こまに進んでいます」と、長靴に履き替えてトンネルの中へ案内してもらった。おかげで、工事の進捗状況や規模の大きさが実感出来た。

またある年は、「直江津港では、中部電力・東北電力で建設を担当して、こんなに大きな火力発電所の工事をやっています」（会報三十一号参照）と、ヘルメットを被って内部を見学させてもらった。原発が問題になっている折、火力発電の事業は先見の明と大変心強い。

蕎麦打ちや味噌作りの体験などもあり、有意義な二泊の旅行だ。塚田さんは、

地元においても知らないことが多いので、この機会を大変楽しみにしている。

上越ネットワークを支援して下る企業や、和久井会長の顔の広さ、理事さん達の人脈で、普段は見られないような所が見学出来る。

この年齢になると、生まれ故郷が懐かしくなる。しかし、故郷を離れて生活していたために、「上越の生家はもう無い」「お墓も移してしまっ、生まれ育った上越とは縁が切れた。帰りたいも帰る足場が無い」と嘆く友人を何人も知っている。

そういう人には、是非Jネットの会員になって、進展、変貌する故郷を見てほしいと思い、入会を勧める。けれど、思いはあっても手続きするまでには至っていないのが歯がゆい。現在は七百人には欠ける会員数だが、交流会の呼び掛けに応えて参加する人は大体三十人程。しかも、参加したことのある人は、まだ行きたいという気持ちになるので、半分はリピーターである。企画する事務局では、一人でも多く、新しい人の参加を期待している様子だ。

Jネットのご苦労に対して日頃思っていることを書き、すっかり横道へ逸れてしまった。

※

今回の交流会は、各自お花見をしてから、北城町の「なかしま食堂」に二時集合である。

羽生市から参加の関根安子さん、花見会場の入り口でバスを下車。日曜



雷の下でのお花見

なので人出が多く、屋台も並んでいて賑やかだ。桜の木の下には花筵が並んでいて、「花は雷でも関係ない」と、どの筵も盛り上がっている。

筵の用意のない私たちは、アイスクリームを買い求めると、リュックを下ろし、小高い土手の石に腰かけて、幾つか花が開きかけている桜の木を見上げた。

道端の頃あひの石初桜

光子

子供の頃の素朴な花見の思い出などをのんびりと話をし、花見気分に出た。気がつくとも集合時間が迫っていた。



村山上越市長の歓迎の挨拶

慌てた。「なかしま食堂」へ行く途中の城址の中に、母校の中学がある。

新制中学になったばかりの当時、中学校とはいうものの、校舎が無くて兵舎をそのまま使い、運動場も無かった。儀式は少し離れている小学校の講堂で行われたが、先生たちはともかく、私たちは少しも不自由を感じなかった。むしろ棟続きの新潟大学の芸能科へは渡り廊下で繋がっていたので、昼休みや放課後はピアノの練習をしている学生たちの所へ行ったり、描きかけの油絵のキャンバスを覗いたりして、学生とお喋りをするのが楽しかった。

今思うと随分自由な空気だった。芸術系の大学生の影響もあってか、今の



お墓参りを兼ねて参加された瀬尾さんの御一行

中学生と比べると、みんな大人びていたような気がする。演劇なども先生の手を煩わせることなく、生徒が全て工夫をし、市内の高校演劇発表会に参加の交渉などとして、発表の場を得ていた。その頃私は『少女の友』や『少女倶楽部』に詩や、啄木を真似た短歌などを作って、せつせと投稿していた。思い返すと、まさに——空に吸はれし十五の心で、一番夢を抱いた時期であった。

今は、ありふれた校舎になっているので、気持ちは懐かしいが、建物に対しては何の感慨も無い。

校庭の前の道が行き止まりになっていた当時と違い、前を横切って上越地域振興局の方へ抜けられるようになって



奥田なつこさんによる「乾杯！上越」の歌唱指導

いたので、「なかしま食堂」はぐんと近くなって、開会時間に間に合った。会場は、しっかりとした建物の二階会場の、ちよつと心配になるほどの盛況だ。

私たちを歓迎して、村山秀幸上越市長や市役所関係の方達、地元企業の方達も揃っていた。テーブルには地酒や地元の食材を使った美味しそうな料理も並べられてあった。

明治四年に、高田藩医師瀬尾玄弘氏によって西城町に知命堂病院が設立されたのだが、今回はその子孫の方達が、墓参りを兼ねて各地から九人も参加されたのが異色だった。

温かい歓迎の言葉の後、乾杯。つっぱりふるさととは良い。アルコール



マジシャンKAZU(お手伝いは瀬尾隆さんの奥さんの優里子さん)



金型あくら荘での宴会前の記念写真

ルが回ったせいもあり、自然に越後訛りになって会話が飛び交う。

こういう楽しい時に歌うのに相応しい歌『乾杯!上越』が、漸く出来たと紹介された。

藤田香代理事の娘さんの、声楽家奥田なつこさんの歌唱指導で、全員で歌った。覚えやすい歌詞とメロディで、気軽に歌える。上越の四季を称えた夏の章で、東洋一の蓮の花に触れていないのが少し残念だったが、合併後の上越は広くなったので、高田に偏らない歌詞にしないかならないと、苦勞されたためだろう。

皆で同じ歌を繰り返し歌っている、自ずと連帯感が生まれ、歌の持つ力が実感された。

マジシャンKAZUの手品も不思議で、楽しかった。

交流会の序章ともいえる二時間程の楽しいひと時を過ごし、四時には頸城観光の大型バスで、その夜の宿『金型あくら荘』へ向って出発。自家用車の人もいたの、バスには空席もあり、ゆったりとしている。大方の人は、心地好げにおやすみだ。

私たちは、かつて朝夕仰いだ妙高の雄姿、穏やかな南葉の山容を窓から堪能した。

一時間程で赤倉に着る。

この『金型あくら荘』は、会員の榎野利介氏の設計になるもので、贅沢な建材が存分に使われている。一室に

大きな洋室と二間の和室があり、広々として立派な宿である。

この宿はとても好評で、去年の春も来ている。地震の後だったので、私は参加しなかったが、夏の『会報』に田中幸子さんが、その素晴らしい書きをいわれる。湯量の豊富な温泉に入り、六時から宴会。

初めて参加の人、一人で参加した人も、堅苦しい挨拶を強いられる事なく、和気藹々と宴会が楽しめるのも、濃やかな気配りされる和久井会長のお人柄によるものであろう。

宴会の後は、皆さん期待のカラオケルームへの移動。寝不足だった私は、早々に部屋の方へ失礼したが、宴会以上に楽しい時間だったという。

〈十六日高田へ戻る〉

「いもり池」の散策の予定は、時間の都合で短縮。バスから降りると、雪解風が強く冷たい。思わず襟元をかき合わせた。

澄みきった空気に深呼吸した程度の時間だったが、気持ちがいちよしとした。

降り立ちて踏糞と踏みぬ雪解風

光子

『君の井酒造』

田中常務の案内で酒蔵見学である。去年の秋の交流会では、スキー正宗の『武蔵野酒造』を見学した。こども酒造りの歴史は百六十年とか。恵まれた自



高田小町、世界館と本町七丁目界隈を見学

然、良い米、良い水を使い、越後杜氏の優れた技術によって、新潟県を代表する名酒として評価されている。試飲や購入も出来、男性の参加者には殊の外喜ばれる見学スポットである。

次の『高田小町』へ向かう途中、司令部通りでバスを降り、歩いて第十三師団の旧師団長官舎を観る。師団長の長岡外史中将は、レルヒと共に日本に初めてスキー技術を広めた人物としても知られている。

『高田小町』と『高田世界館』

明治時代に建築された町屋『高田小町』の見学。「旧小妻屋」でそれを再生、活用した施設。吹き抜けがあり、その



日本最古の映画館「高田世界館」



老舗料亭「宇喜世」での昼食

特徴を上手に活かされて、落ち着いた雰囲気である。畳や椅子の手頃な部屋が幾つもあり、四年前に開つた「連の花のコンサート」の会議で何回か使わせてもらって、馴染みでもある。

その前の通りを隔てて『高田世界館』がある。

百年も続いている日本最古の映画館で、近代文化遺産に認定されているという。館内の建材はしっかりしていて、今の建物にないレトロな造りである。椅子に腰掛けると、高校生の頃、学則を破って映画を観にきたことなどが思い出された。私たちのために、特別に短編の「のらくろ」を上映していた。

私は毎月第四日曜日に、江東区の芭蕉庵で開かれる句会に参加しているが、その近くに「のらくろ通り」というのがある。そこは、昔の高田の本町通りや、南本町・北本町・東本町通りを思わせて、懐かしい雰囲気か漂っている。

『宇喜世』

昼食は、高田の老舗料亭『宇喜世』。江戸時代末期に遡る由緒ある書院造りの荘厳な建物。二階の大広間は百五十三畳もある。

国登録の有形文化財にも指定されていて、城下町・越後高田の歴史の一端を担っている。高田で高校生の時までを過ごしたのだが、このような高名な料亭の玄関を

入る機会は無かった。立派なお庭を見ながら、ミニ昼会席をいただいた。路の蔭、コゴミ、蓬、山菜の天麩羅、ウルイの酢味噌和え……お刺身も新鮮で美味しい。老舗だけに器も上等で、目と口との至福の時間だった。

『春日山神社参拜』

童話作家小川未明の父・澄晴が上杉謙信を祀るために創建したもの。「新潮日本文学アルバム60」の、小川未明の昭和三十年代の写真は、小・中学の同級生で、早生した富樫啓君が早稲田大学一年の頃から写したものが多く使われている。未明の後輩の高田高校の方達も、彼



春日山城の謙信公像の前で「謙信おもてなし隊」と記念写真

のNHKでの報道活動を知っておられる方も多いに違いない。

『林泉寺』

謙信公が七歳から十四歳まで文武の修行を積んだ寺。広々とした境内をゆつくり歩く。古刹だけに、大きな杉の木があり、それを揺らして吹く雪解風が肌に寒い。杉の落葉が積もっていてうっかりすると、滑ってしまう。浅い側溝には、雪解けの水が音立てて流れており、お寺の外に広がる畑には、よく見ると十センチ程の土筆が一面にびっしりと頭を揃えている。

『被褥風立つたびに寝たりた』

光子

『くわどり湯つたり村』

そこから約一時間、その夜の宿「くわどり湯つたり村」へ。この宿は、鄙には稀なお洒落なお料理が出るので、個人的にも友人を誘って何回か来ている。評判が良くて、希望する日がなかなか取れない宿である。

宴会場に入ると、一泊だけ参加の岩間順雄氏の姿があった。

岩間氏のことは、会報三十号で拙文「言葉は易しく思いは深く」で、新潟日報の俳壇で中原道夫、黒田杏子選を受けて活躍している人として、氏の俳句も紹介している。既に日報俳壇賞佳作を二回受けておられたのだが、去年の十月には、

まんざくもてまんざく括り山下りろ

のおお

が黒田杏子選で、第百二十六回日報俳壇賞を受賞された。



岩間順雄さん(中央)と黒田杏子・監生主宰、中原道夫・鑑化主宰

席が離れている私の所へ来て、短冊状の紙に書かれた句を置いていかれた。

雪解川右と左は山毛櫛の山

のおお

今日の喉目吟である。

私はお酌に行つて氏と俳句の話をしたと思つたのだが、中学時代の同級

生という四人の美女のガードが堅固で近づけず、諦めた。

副会長の松川太賀雄氏は岩間氏と親友で、いつも岩間氏の俳句情報を私に届けてくださっている。七月九日に、「今週はなんと、

朝刈りし露夕には加羅羅に

のおお

が黒田選

小判算ならばさ庭に雪るほど

雁木

で中原選。二句入選しました」とメールが届いた。その半月後

六月や凡太句集の渚の色

のおお

が「黒田杏子選の一席になりました」とめでたいメールが。選者評は、「齋藤凡太さんの句集『磯見漁師』が六月下旬角川から刊行され好評です」だけだったという。

俳句は無愛想に、投げ出すように詠まれていて、「ん？」と思わせ、あれこれ考えるのが楽しい。分かる人には分かる句。皆に分かる句は、句会で点が入るけど、「高地点に佳句なし」と言われている。

主宰に「俳句はイメージを詠むことだ」と教えられている。

私は凡太なる俳人は知らない。凡太という、くすりと笑いを誘うような

とほけた名前が良い。「海の色」と言うだけで、何も説明していないが、真つ青な海の広がりが見える。

この句には、これだけで「句集を読んでみたい」と思わせる力があると思った。短い言葉で、そう思わせるのは、凄じいことだ。私の所属する『岳』の俳誌六月号に、

裸木は女体バックカスの要索

構井 明子

まなうらは記憶の棲みかたぐくら

岩味 さら

という句があり、衝撃を受けた。

椽など、葉を落とした清らかな木肌の裸木は、まさに女体。ギリシャ神話の酒の神バックラス。そして自在に伸びた枝から、饗宴への連想。なんとという感性なのか」と。



佐藤光子さん(中央)と宮坂静生「岳」主宰、現代俳句協会会長(右)、小林貴子「岳」編集長

その次の句は、印象深く残ったイメージの在り処を、「まなうらは記憶の棲みか」と受け止めている。それに感心するのだが、「夕ざくら」という季語の働き。季語によって、この場面の作者をいろいろと想像させるが、読み手の記憶の「夕ざくら」をも喚起させる。

この二句は、いずれも名詞だけで表現されている。用言(動詞、形容詞、形容動詞)や副詞を用いていないことで、説明や読者への押しつけがなく、ぶっさらぼうの様でいて、読み手をたづみり楽しませてくれる。後で、岩間氏から「凡太は日報俳壇の常連。毎週のように選ばれていて羨ましい」とメールがあった。

七月二十三日の朝日俳壇の下の「風信」に、この句集が紹介されていた。

「新潟県出雲崎に住む八十六歳の現役漁師。海とともにある生活をいきいきと詠む。一水に浮くわが身も灼くる大暑かな」。

この欄に取り上げられるのは、俳壇で注目されるに値する句集なのだ。岩間氏は六十五歳から俳句を始め、古希を過ぎた人とは思えない柔軟な感性の持ち主だ。

氏に関する俳句情報は、おおいに私の刺激になっている。

〈十七日〉

桑取の雪解川音燕夜せり

光子

この時期に桑取に来ることが多いせいか、側溝を勢いよく流れる雪解け



藤本彰三農大教授による「じょうえつ東京農大」の活動の説明

の川音をいつも聞いていた。この宿を巡るようになってやはり細くて浅い川があったので、ひたひたという川音に寝落ち、目覚めた。

大半の人は早起きして雪渓を踏んできた様で、生き生きとした表情で食堂に集まってきた。

朝食は、地元で採れる山菜などを中心とした和食バイキング。これは、今回初めての試みだという。ここで穫れたお米や味噌、漬物が美味しいので、それだけで十分と思われたが、自由に取分けられる山菜の炒め物や胡麻和えなどが美味しくて、お代わりする人が多い。このバイキングはなかなか好評だった。

食事を済ませて食堂を出ると、楽し

みにしていた朝市が開かれていた。切り餅、笹餅、ぜんまい、こごみ、ふきのとう、蔵の塩漬け、保存の利くものを買い込む。宅急便はJネットでも担してもらえるところがあるので、重い物も安心して購入した。

『じょうえつ東京農大』訪問

東京農業大学では、学術フロンティア研究において、平成十七年から桑取谷浜地域で有機栽培実験を行い、研究成果の実用化と地域振興を目指して、平成二十年四月に株式会社『じょうえつ東京農大』を設立した。

桑取谷浜地区には多くの耕作放棄地が存在しているという。その中の十ヘクタールを再開発して有機農場経営を開始したそうだ。

この取り組みは全国評価を受け、平成二十三年五月に、第三回耕作放棄地発生防止・解消活動表彰事業で、全国農業会議所会長賞を受賞している。

社長でもある藤本彰三教授（会報三十一号で巻頭言を書いておられ、この会社の立ち上げ、活動について詳しく述べておいて）は、東京での教授会を欠席して、今回の私たちの訪問を待って下さった。

土地が粘土質のため、耕作に苦労がある事、今は経営が苦しい。けれど、熱心な学生達と一緒に有機農業に取り組んでいる、と熱く語っておられた。話をして下さっているテーブルに、Jネットの広告で馴染みになっていた品々が並べられていた。試食も出来る

大根の漬物にも数種あり、地酒をいただきながら味比べをする。

「旨い、旨い」と声上がり、その声に藤本教授は満足そうに微笑んでおられる。

「乾燥野菜は水に戻さないでも、煮立ったところへパッと入れればいいの。そのまま豚汁に使えるし、便利よ」と言っていたことのある人が自慢するようになっている。

「雪下踊り」と名づけられている真っ白な大根の乾燥野菜は、雪の下から甘味を増した大根を掘り出して、手を掛けて作ったもので、イチ押しものだといふ。緑と黄色の色鮮やかな乾燥ポチャ。炒め物にびつたりで直ぐに使え、緑色のズッキーニなど、本来の色がそのままの乾燥野菜は、どんどん売れていた。プリントされたレシピも用意されていた。それを参考にすれば美味しくいただける。

なにしろ有機農業での野菜ということで、台所を預かっている主婦には、安心で魅力ある品々ばかりである。ボン酢四兄弟や真昆布しょうゆ、農味噌なども次々手が伸びる。

そうだ、地震などへ備えての保存食にも適している。Jネットのカタログは、スーパーのちらしなどで見る商品の値段と比べると高いので、二の足を踏んでしまう。しかし、現地で見るとみると、真昆布しょうゆやドレッシングは、確かに味が深い。手のかかる有機農業で大量生産出来る



4名の農大生による「大根踊り」

ないために、その値段は仕方がない。実物を友人達に送って実感してもらったことが、応援する私たちの役割だ。

農大の「大根踊り」は有名である。それを披露してもらえらる事になった。それを披露された男女の学生さん達は、毎日広い畑の土を踏んで気持ち清浄になっている？ためか、東京の繁華街などで見掛ける若者の表情とは全く違うのだ。どの人も穏やかで、感じが良い。

それに、少しも恥ずかしがらずに堂々と踊る姿に嬉しくなって「こういう人達が、日本の農業をリードしてくれるなら……」と名前も知らない隣にいる人に、思わず囁いた。その人も何度も大きく頷いた。

大学の有機農場つばめ来る

光子

『マリンドリーム能生』

ここで、私は京都に住む息子の家族宛にずい蟹を送ろうと楽しみにしていた。家の近くの三多摩市場でも買って送ることはあるが、やはり産直ものには適わない。

友人が推薦してくれた店で、吟味した。

選りてみて指挟みたる蟹とせり

光子

掴んだ途端、鉄を振り回し、指を挟むほど元気の良い蟹を人数分選ぶと、即、店の奥で茹でてもらった。

茹で上がった姿と色に満足し、宅急便。家にも、蟹とゲンギョを買う。

「マリンドリーム能生」は、以前「マリンドリーム」と呼ばれていた。

平成十三年の三月十一日に、当時所属していた俳句結社「麓」の同人総会で吟行した地である。その年は雪が多く、まだ雪が降っていた。この建物の裏手には、海まで足跡の全くない雪景色が広がっていた。そこへ踏み出して、

海にもっと近づきたく雪を踏み

光子

の句を得た。

「海」に置き換えられる思いは深い。

齋藤美規主宰は、「無垢の雪」と読めたことが私には嬉しかった。雪国に永く間住んでいて、こないのです。海は故郷の海、そして無垢の雪。それが羨ましい」と、特選に。

後に、詩人の高野喜久雄氏は、「ぼくもこの句は好きです。骨太で、したかな自己凝視があった、打たれまじる露に外へ出さないように胸打たれまじる。どうか、エネルギーを分散させずに、精進してください」と書いてくださった。

「あれにも、これにもと手を出していは駄目です」という忠告だ。

しかしながら、その忠告は今も未だ

生かされていない。

『割烹阿かの屋』

日本海の磯料理が自慢というお店で、海の物尽しの昼御飯。

見た事のある方が、お酒を提げて：と思つたら、Jネットの創設当時、市役所で担当して、お世話下さった三浦さんだった。当時はお若いと思つていたのに、もう定年になられたのか、と歳月を感じた。

三浦さんは、「ここ数日、海にイルカの大群が押し寄せて、それに追われた鯨が名立の浜などに打ち上げられてい。お陰でここ数日美味しい鯨を食べているよ」とのこと。

もしかししたら、その光景が見られる

かと海を透かしてみたが、霞んでいて見えなかった。

良宵の母恋ひの佐渡おぼろかな

光子

『上越観光物産センター』
旅の終わりは、上越の物産・特産を展示販売している物産センターである。

関根さんは行くところ、行くところ目についたお酒を買って宅急便で送っている。自由に旅行に出してもらえ、お酒好きなご主人への土産だという。「これだけ送っておけば、主人は行つては駄目って言わないでしよう」と、言いながら。

この物産センターでは、かんずり、運めん、ワイン、麩、漬物の他、ル・レクチエのクッキー、羊羹、れんこんチップなどのお菓子を、一抱えレジに運んでいる。これは、息子さんが開いている医院の看護師さん達や、普段お世話になっているご近所さんへの土産



三浦元二さん（上越市の元企画部長）の近況報告



「お元気で！」バスに手を振ってくれた三浦さん



佐藤光子さん、関根安子さん、塚田恵美子さん

とか。

買う時には、あれこれと迷わず「これと、これと、これと、これ」と即断即決。(こういうお金の使い方をするのは、「おとな買い」というのだと、京都生まれの嫁が言っていたっけ) 見ていても気味が良い。

「なんだって、お土産は上越のものが喜ばれるのよねえ」「これは、帰った時に直ぐに食べる物だから手に持って……、これは、宅急便にして……と、えり分けるのに忙しい。

そして、「ああ、あ。お財布軽くなっちゃった。どうしよう。明日から当分、みそ汁とお漬物で御飯だわ」と、皆を笑わせる。

ふるさとに山や海があることは素晴らしい。このように健康で気楽に旅に出られるのは、周囲の理解があるからで、感謝しなければならぬ。

否、このようなふるさと訪問が出来るのは、「Jネット」という素晴らしい組織あるからで、なんとも有り難く幸せな事だ。

買い物済ませてバスに戻る時、雨が当たってきた。旅行の間は傘を差さずに済んだことも、幸運だった。

今年は、高田城址の四千本の満開の桜を観ることが出来なかったけれど、今このセンター辺りの桜は三分咲き。初々しい桜に出会えた。

直江津駅でバスを下車。お世話になった交流会担当の方達に深く頭を下げて、三時二分の一はくたか十五号一に乗るた

めに、改札口へ急いだ。

明日開く花の蕾に雨瑠璃

光子

(六元)

春の交流会はどこも思い出になっていますが、「どこが一番？」と訊かれたら、私は『じゃうえつ東京農大』訪問を挙げます。髭の素敵な藤本教授が、有機農業を熱く語られたまなざし。



「くわどり湯ったり村」で見送ってくれた瀬尾さんグループ

請われるままに、作業服で大根踊りを披露してくれた学生さん達のさわやかさは、三ヶ月過ぎた今も鮮やかです。
買い求めた「真昆布だし」は、そうめんをいただく今の季節に、焼き肉のたれはस्ताミナ補給に、とても重宝しています。



「くわどり湯ったり村」宴会場での集合写真

あらためて高田（上越市）

ありがとうとう「春の交流会」

瀬尾 隆（鎌倉市在住）

内藤実さんから突然の電話をいただいたのは昨年の正月だった。そのときから私のなかの高田に変化が起きた。

私が高田の土を初めて踏んだのは、第二次大戦の戦局が緊迫の度を増しはじめた昭和十九年（一九四四年）だった。緑故疎開を選んで高田師範附属国民学校の三年に編入させてもらい約一年半余りを西城町で過ごした。

東京に生まれ育ち幼稚園にも小学校にも市電で通っていた私には、どこへ行くにも足で歩く高田の暮らしはかなりのカルチャーショックであった。とはいえ新しい学校で怖ろしい思いや友だち関係に悩まされたという記憶はまったくくない。むしろ、朝の登校時に迎えにきてくれる近所の友だちや川遊びなどに誘ってくれる友人がいて東京にいては知ることもなかっただろうことをいえる教わった。

いま思えば担任の先生や近隣の大人たちのいろいろな気遣いがあったのだからと思う。

夏の日照りのなかで人目を忍んで畑に入って食べた胡瓜の甘さ、菱池での鮎釣り、田んぼでのイナゴ取りと乾煎りしたイナゴの味などが思い出される。

高田での初めての冬は記録破りの大雪だったが、スキーの手ほどきや知命堂の石垣に雪を積んでスロープをつつて遊んでくれた友だちがいたことは覚えていて。金谷山にも麓靴でフットフェルトのスキーを担いで行った。

こうしたことはその良し悪しにかかわらず臉上に光景として焼き付いているのだが、終戦まもなくに東京に戻ったことで高田での記憶や経験を反芻できた友だちを失ったことよって小学五年生の頭から彼らの名前も姿も静かに消えていった。

以来はぼ七十年の歳月が流れたが、この間に四の辻近くの楽器店の福田さん（故人）に銀座のヤマハでばったり出会っただけで附属の友人に連絡をとるつもりもないままにいまに至っ

ていた。

そこにかかつてきたのが内藤さんの「ようやくお前さんを掘り出した」、附属同期の新年会をやるから出ておいで」という電話だった。

七十年の空白が果たして埋まるものかどうかと考えながらおそろおそろのグランドアーク半蔵門に出かけた。

東京なのに四十名近い参加者がいることにも驚かされたが、内藤さんの顔すら知らないし、どなたのお顔にも覚えがないという有様だった。

それでも私が高田に疎開していたことを覚えていて声をかけて下さる方が何人かあった。臉にかすかに浮かぶ断片的な光景以外、音も香りもな自分史の空白に何がしかの肉付けができるかも知れないといううかすかな希望がわいた。

そのことから上越ネットワークとの出会いが生まれ、昨年末には東京での附属の忘年会に次いで宇喜世での「喜寿の会」、上越ネットの「春の交流会」となった。

私のなかの高田はこの二年で少なからぬ変化を見せ始めたのである。

前説がやたら長くなったが、このついででもう少しお付き合いをいただきたい。

瀬尾円瑞が榊原政永公に従って姫路から高田に移ってきたのは寛保二年（一七四二年）とわが家には伝わっている。

以来約二百七十年になるわけ

だが御典医の「家」を守るために当家の先祖は代々大変に苦労したらしい。蘭方医の家であったからうだが嫡子に恵まれず高田に来てから連続五代にわたって養子を迎えている。四代目になったときに廃藩置県となり、ご維新のもので瀬尾家は高田で医家を開業して一般診療を始め、洋式の病院「知命堂」を創建した。

その関係から瀬尾家では五代目に当たる代に五人の養子を迎えた。当然そこで高田、新井、直江津の地域に親類縁者が増えたのである。だが、養子となって医学を修めに東京などに出了ものの多くは高田に戻らなかった。



妙高山をバックに瀬尾さんグループ（従姉妹会）の記念写真

本家の五代目を継いだ私の祖父はドイツ留学のあと函館病院などに勤めて高田に戻った。高田出身の嫁との間に男二人女三人の子をもうけたが四十歳で病を得て早世した。その五人の子のうち医師になったのは長男である私の父だけだったが、高田中学を出て東京の大学で医学を学び、そのまま大病院に残った。

東京で生まれた私と妹は縁故疎開で初めて高田に住んだ。学童疎開が始まった頃はおそらくもともと瀬尾家の親類縁者が大勢高田に参集していると思われる。四の辻と五の辻には再び瀬尾家を三軒数えるにいったが、終戦とともに二軒は東京に戻った。親類縁者に当たる家でも同じように大半が東京に戻ってしまった。

父の兄弟姉妹は成人する頃には皆県外に出てしまった。次男は工学系の道を選び北海道に、姉妹三人はそれぞれ嫁ぎ台湾、米子、東京などに暮らした。この五人兄弟姉妹の子つまり私と従兄弟姉妹関係にある者は全員で十人になるが、学童疎開と戦後の海外からの引揚げで一時高田に住んだのは四人。

残りはもちろんその連れ合いたちは父母から聞かされた以上の高田を知らないのである。父の兄弟姉妹は皆長命で齢九十を数える天寿をまっとうした。後に残った私らの従兄弟姉妹たちも、いや成人した孫がいる年齢になり、仕事も退いて時間ができたこともあって父母から伝え聞いた高田に自分たちのルーツを辿ってみたいという想いを抱くようになってきた。しかし、だから

といって十歳に満たない頃に一年半ほど高田で過ごした私に彼ら彼女らと呼び寄せて高田を案内する力は彼底ない。父亡き後に続けた最低年一回の墓参りも、多かつたはずの親類縁者もほとんどないなかで金谷山と菩提寺に立ち寄るだけが終わっていた。

三軒の瀬尾家の累代の位階がある菩提寺での私の知る住職からすてに二代後のお孫さんの代になつていく。

疎開当時の友人知己を辿るすべも道もなく、高田のことについて唯一の頼りとしていた大叔父も一昨年に他界してしまった。

一連の附属の会への参加と上越ネットの「春の交流会」へのお誘いは、そういうなかでまたとなし貴重で有難い機会を私に与えてくれるものになった。

ことに交流会は従兄弟姉妹夫婦と私の息子夫婦を高田（上越）につれてくるのにもことに都合のいい適切なプランだった。新入会員が初の参加に十人あまりの人間を連れていって良いのかどうか気になさったが、皆さんが温かく受け入れてくださったことにあらためて感謝を申し上げた。

一緒にさせていただいた方のなかには、瀬尾家のことをご存知で代がかわって私ともとは疎遠になってしまった親類縁者の消息を教えて下さった方もあった。

期待する桜の開花が間に合わなかったことは残念だったが、春日山は疎開中、母が弁当を作った妹と私をよく連れて行ってくれたので当時の母の心情を想ってあらためて懐かしさを味わった。

た。

また、高田の古い映画館の建物で、まったく忘れていたジョニー・ワイズミューラー主演の「ターザンの逆襲」を学校から見に行ったことを突然思い出した。まさに終戦直後のあの時期になぜ学校がと考えらとまったわけがわからぬのだが、私にとっては間違いない初めに洋画に触れた経験だった。今回案内してもらった先には初めてのところも多かつたが、「くわどりゆつたり村」のように新しい上越市の姿を垣間見られるところもあって上越市の二日間は貴重で楽しい経験になった。

墓参りと法要を兼ねた初めての従兄弟姉妹会として便乗させていただいたのだが、ネットワイクの皆さんのお心遣いで従兄弟姉妹の何人かには話に聞いた瀬尾家の墓と菩提寺を初めて参る思い出深いものになったに違いない。

帰りの列車のなかでも、ゆつたり村での朝食メニューの話や父母が親しんでいたはずの南蛮エビやげんげや塩イカ、刻み味噌漬や翁飴などについて話が弾みそれぞれに上越の旅を楽しんでいたようだ。

わが従兄弟姉妹会にとって思わぬ収穫もあった。これまで何回か皆で寄って食事をしたり、旅行をしたりはしてきたが、今回のように初めてお目にかかる方々と親睦を深める会に参加

したお陰で初めて見る（聴く）カラオケ姿の従兄弟姉妹を知ることができた。これはまったく想定外の出来事だったが従兄弟姉妹会の絆を深めてくれたように感じている。多分交流会を企画された方にはわかっていただことに違いないが……

自分でも何を言いたかつたのか良くわからない駄文になってしまったが、交流会に参加するものななかにはこういう人間もいるということを読み捨てただければ幸いである。◆



金谷山でのお墓参り

八王子いちよう祭り

八王子市 小島 賢次（上越市栄町出身）

高田高校を卒業して依頼、武蔵野界隈を転々としておりましたが、縁があつて一九七七年に現在の八王子市長房町にお世話になりました。この地に何があるか・も判らないまま町内会の子ども会のお世話や諸事に係わることになりました。

まもなく、この地域内に大正天皇御陵があることを知りました。そして、一九八一年にメイン通りで第一回「いちよう祭り」が開催されることを知りました。当時は朝一番で、このイベントに行くとは北海道の新巻鮭が廉価で購入できたことなど、楽しみなイベントという印象を持つ程度でした。が、後にこのイベントの手伝いをするようになるなど、まさに想定外であったことは言うまでもありません。

八王子には、大きなイベント（お祭り）がそれぞれの地域を中心に三つあります。一つは南大沢地区の「フラワーフェスティバル」、二つ目は八王子中心

市街地区の古事伝統にちなんだ「八王子まつり」、三つ目が西八王子から高尾に至る街道の「いちよう祭り」です。この「いちよう祭り」は、社寺の伝統行事などではなく、「地域市民が始めた、市民のためのイベント」なのです。



いちよう並木

この地に御陵があることは前述の通りですが、江戸時代には、今の御陵入口前には、江戸から甲府に至る甲州街道（現国道二十号線）が通り、小仏峠の手前に関所があり、八王子は江戸幕府の防衛拠点であり、同時に人々が往来するにぎやかな宿場でもありました。

昭和二年に多摩陵が、この街道の現JR西八王子駅から同高尾駅の中ほどに建設され、大喪儀には、新宿駅からの霊柩車の到着駅となりました。そしてこの鉄路と並行する甲州街道の追分交差点から高尾駅に至る約四キロメートルに亘り、七百七十本の銀杏の木が植樹され、大勢の参拝者をお迎える為に路面電車が設置されていきました。（昭和十四年撤去）



関所での焼印

現在では、銀杏も成育し、晩秋の街道は黄金色一色となります。「いちよう祭り」は、この見事な環境を皆で楽しもうと、行政の支援を頂きながら、地域の町内会をはじめ、各種の市民活動団体、学生会、企業、商店街などの団体が参加し、自由な発想とアイデアで企画し実施しています。また、警察当局の交通指導も頂き、安全で楽しいイベントを目指しております。主なイベントは、沿道の十二町内会の「関所」の宿場焼印を押しながら黄金街道を散策し、終点の「代官所」で完歩賞を獲得する「通行手形ラリー」です。地元ファンの方から提供頂き、第一回目からの完歩焼印手形の記念品が本部に陳列されています。



ふるさとパズル会場



クラシックカーパレード

更に主会場には「ふるさとパザール」が開催され、近隣地域をはじめ長野、新潟、山形、静岡、石川、島根、鹿児島、福島、宮城などの物産には、故郷を偲ぶ懐かしさで大人気です。イベント開催期間に実施されるクラシックカー1三百余台のパレードは圧巻と言うべきものです。

近年では、三十万人を超える賑わいとなりました。また、昨年は「がんばれ東日本」をテーマに、また新潟震災の時には、会場で募金をするなど、少しでも社会貢献になれば・・・との活動も行っております。

私は、このイベントで、郷里の方にお会いしました。その後、年に二〜三回は会って懐かしい田舎話で飲み会などを楽しんでいます。そして、この「イベント」に、地域の皆さんや故郷上

越のお役に立てば・・・、との思いで、お手伝い（副会長）をしております。

今年も十一月十七〜十八日は第三十三回目が開催されます。内容も吟味しながらの検討会を重ねているところです。ホームページ「八王子いちよう祭り」でもご覧になれます。またパンフレットなどもご用意頂ければ郵送致します。

今年も多数のお出でをお待ちし、新しい出会いを楽しみにしております。



小島賢次さん

750万人が愛した街づくり・夢おこし
HACHIOUJI ICHYOU FESTA
第33回 八王子いちよう祭り

開催日
2012年11月17日(土)
2012年11月18日(日)



【時間】 17日(土)9:00~17:00まで 18日(日)9:00~16:30まで
【会場】 追分町交差点~小仏関跡 ※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

33rd みらいみつめて
発信! 八王子の地から

HACHIOUJI ICHYOU FESTA 2012

1日甲州街道 三國の結び 武蔵の國 相模の國 甲斐の國

通行手形 三國の結び

第33回八王子いちよう祭り
通行手形
デザイン決定しました!!

三國の結び
八王子の地から
発信! 八王子の地から
通行手形

第33回八王子いちよう祭り
市民ボランティア登録のご案内.pdf
本部・設営・誘導・企画や関係ご案内など
詳しくはこちらをご覧ください

○「いちよう祭り」ホームページ (www.ichou-festa.org/) より抜粋。

朝の散歩

杉並区 榎野利介(本町四丁目)

私の散歩コース、善福寺池の近くに「Jネット」運動に熱心な内藤さんの住まいがあり、朝五時過ぎに家を出ると善福寺池周辺を犬を抱いて散歩する内藤さんにお会いすることがある。親しい友人とこんなかたちでお会いするのは楽しい。

さて、週に平均して五日ほど早朝四時余を歩いている。それは歩かない雨の日もあるからで、いつ頃から歩くようになったらどうか。現在七十七歳だから二十五年も前から始めたことになる。

当時、私も五十歳の働き盛り、毎晩の如く呑む機会があり自身も嫌いではなく深酒も度々であった。

ある時、自覚はなかったが健康診断で肝臓がひどいですよ。と医者に言われてしまった。よくなる薬は？？。肝臓に効く薬などはありません。回復の為に先ず酒を慎みなさい。そして適度な運動をすることです。それ以外にありません。ときつぱり断言されてしまった。

スポーツと名の付く運動は職に就いて以来経験はなかったが散歩がジョギングが良いとのアドバイスであった。妻は中野にあるアスレチッククラブの熱心な会員で、私も家族会員として登録されていたが利用はゼロだった。妻に「それ見たことか」と大はしゃぎされてクラブに連行された。

クラブでスポーツ担当の医師に体型や病状をきかれ腹の具合などを写真に撮られて指導が始まった。

メニューは軽いジョギングからであった。初日に一周百円のコースを五周しました。百円を四十五秒くらいで結構です。

ところが、こんなに遅いスピードかと思いつながら五周が終わったところで息があがつてしまった、情けないと意気消沈であった。

コーチ曰く、毎日続ければ二、三ヶ月で二、三キロは楽ですよ。と励まされた。その他に自転車こぎ、ストレッチ体操など一時間ほどの日課であった。確かに二、三ヶ月後は二キロは楽に走れるようになった。

ところどころが会社終業後の毎晩の日課では無理になり回数も減ってしまった。これではいけないと思案の末、家の近所を走れば良いではないかと考えを変えた。

家から善福寺公園回復で丁度四、五、良い距離、良い方法だと雨の日以外は走ることにした。

ところが六十歳を過ぎ体重七十キロを超えると膝に無理がきて走れなくなりました。それ以降はウォーキング教に宗旨を変えて今日に至っている。

ところで、ウォーキングの効用であるが、確かに健康によいことは確かである。その他、歩くコースの季節の変化が楽しい。春、桜が咲き満開の善福寺池公園の華やかさは最高である。

次に池の睡蓮に花が咲き、季節毎にいろいろな草木が楽しませてくれる。

毎年ではないが池に薄氷が張る厳冬の光景なども自然のしとなみに気持ち引き締まる。なにしろ朝飯のうまさも格別である。

中でも一番の効用は、早朝の散歩は気持ち明るくなることである。前日につつまらないことがあっても無心に歩けばじまらぬと気持ちがあつてくる前向で積極的な気分になる。これは歩き始めて実感した大きな効果であった。

また、ウォーキングとは関係ないが、歳を取ることで脈拍数が一定以上はあがらなくなる。脈拍数を計る器具に通つていた頃、脈拍数を計る器具を付け負荷を掛けながら自転車をこぐと次第に脈拍数があがり、息も上がる。まだ体力があるからとさらに厳しく自

転車を漕いでも一定の脈拍以上にならずこれは「老」に近づいた証で私の場合一二〇余が限界だ。コーチの説明では若い選手は一八〇以上にもなるそうだ。五十歳を過ぎたら脈拍以上の無理な運動は控えてほしいと云われ、これなどもジムに通つて知った健康維持の大切な知恵であった。

Jネットの古い会員で亡くなられた野口春雄さんがおられ、野口さんが主宰する「東京六華会」がある。「ふる里の青少年スポーツ選手を励ます」を目的にした会で私も古いメンバーである。会では親睦の為にスキーツアーや旅行会を行っている。君もスキーをやれ、野口さんに厳命され数十年ぶりにスキーを再開した。

「君のスキーはまだまだだなあ」と云われながらも妻もスキーに誘い今日まで続けている。妻もスキーに夢中になり十数年前からカナダにまで遠征するファンになった。

スキーの話を書いたのは、今では毎朝のウォーキングがスキーを続ける為の大きな目的になっているからである。毎朝四時を歩いて以来、慎んでいた飲酒もはじめた。

美酒は美味しく健康も上々「ウォーキング」は最高の喜びである。



善福寺公園

私の散歩道

府中市 金澤 一男 (大町出身)

天候が、雨の日以外は、毎日ウォーキングをしています。

各地で開催されるウォーキング例会に参加した場合は、雨の日でも歩きます。台風と雪の場合は中止となります。

私の住んでいるのは、府中市で多摩川と鎌倉街道の交差する多摩川にかかる橋、関戸橋の近くに住んでおります。

この地に住んで四十年になりました。私のウォーキングコースの拠点は関戸橋で、ここを中心にウォーキングをしています。コースは一定しておりませんが関戸橋から上流に向かって、府中四ツ谷橋と多摩川西側土手近くの周回コースで一周約四、五キロメートルのコースをよく歩きます。

周辺は日本電気中河原技術センター、キュービーマヨネーズ中河原工場、京王百貨店聖跡桜ヶ丘があります。

朝夕天候がよければ富士山が見えます。冬の雪をよければ富士山が夕陽にかがやく時は美しいです。この付近は過去において砂利工場が沢山あ

りました。現在も所在しておりますが、多くはマンションになり多摩川べりに建っています。

ウォーキングコースは、関戸橋を拠点として次の四コースは時々歩きます。

- 関戸橋を渡って鎌倉街道から多摩川を渡る方面永山駅へ
- 多摩川を下流土手へ読売新聞府中別館前へ府中郷土の森公園へサントリビル(株)武蔵野工場へJR府中本町駅へ大國魂神社へ京王線府中駅へ

- 関戸橋から京王線中河原駅前へ分倍河原古戦場跡へ新田義貞銅像(分倍河原駅前)へ高安寺へ大國魂神社へ京王線府中駅へ

- 多摩川の上流土手へ府中四ツ谷橋へ中央高速道路下へ甲州街道日野橋へ

家の周りだけではなく、気が向けば都心に出て少々長い距離を歩きます。例えば次のようなコースになります。

新宿駅へ靖国通りへ防衛省前へ市ヶ谷見附前へ靖国神社前へ北の丸公園(田安門から入場)へ日本武道館前へ科学技術館前外散策して皇居東御苑(北枯橋門入場)へ江戸城天守台へ松の廊下等散策へ大手門退場)へゴール大手町交差点

私は、毎日一万歩以上を歩くことを目標にしてウォーキング(散歩)しております。これはもっぱら体力増進、健康、生活習慣病の改善のためです。

ただし、各地で開催される大会に参加した際は二十キロメートル以上歩きます。毎日元気で、健康が許す限り歩き続けたいと思います。

最後に府中市のカルタに私の散歩コースが出てきますので披露します。

〔せ〕関戸を渡る鎌倉街道
〔ほ〕北条と新田の分倍古戦場

分倍河原の戦い(鎌倉時代)

元弘三年(一二三三年)五月十五日、新田義貞軍は北条高時の弟北条泰家を大将とする幕府軍と分倍河原で戦ったが士気の高まっていた幕府軍が新田軍を撃破。新田軍は堀金(狭山市堀金)まで敗走。翌十六日に援軍を得て未明に幕府軍を急襲。幕府軍は関戸にて壊滅的打撃を被った。府中市分梅町の新田川分梅公園に分倍河原古戦場碑が、分倍河原駅前に新田義貞像がある。



関戸橋から多摩川上流の府中四ツ谷橋方向を望む



分倍河原駅前の新田義貞像

ふるさと便り

「上越タイムス」の記事より

「越ノ浪」三段目定着目指す

(一月七日)

上越出身唯一の現役力士。越ノ浪友弥さん(二十歳)は故郷を離れ三年目の今年、三段目の定着を目指し初場所に挑む。

柿崎小四年の時に柿崎国技会で相撲に取組み、柿崎中では柔道部に所属しながら相撲を続けた。進学した高田農業高ではチームの主将を務め、国体県少年選抜にも選ばれた。

三年時の大会で立浪部屋のスカウトから声がかかり、プロ行きを決意、平成二十二年一月に初土俵を踏んだ。

これまでの戦績は十二場所で三十八勝三十二敗。昨年の九月場所、序二段東二十七枚目で五勝二敗と勝ち越し、初めて三段目に昇進。「やっと上がったのもつかの間、十一月の九州場所でも勝五敗と負け越してしまつた。

場所後、立浪親方から「頭から行け」との教えを受けた。胸からではなく頭から激しく当たり、押し相撲での短期

勝負を目指している。

大部屋に十人で暮らす生活は「最初はとどろいた」が、厳しく優しい親方と尊敬できる先輩、気の合う後輩に囲まれアットホームに過ごす。ちゃんこ当番も手慣れてきたという。楽しみは自由時間の外出と「寝ることが好き」。



飯山スキー発祥百周年滑走

(一月二四日)

上越市の翌年にスキーがつかえられ、今年で百周年になる長野県飯山市で二十三日、「長野県スキー発祥の地」記念滑走」のイベントが開かれた。同市

のスキー関係者、職員、飯山小の子供等約五十人が参加。百年前の同日の偉業に思いをよせ、スキー伝承・発展の願いを込めた。



ゲンギョを天日干し

(二月二八日)

名立区小泊の民宿「魚喜」でゲンギョ(和名ノロゲンゲ)の天日干しが始まっている。三浦初美さん(七六)が四十年ほど前から、名立や能生漁港で水揚げされたゲンギョを串に刺して縄に吊るしていく。日本海から吹き付ける冷たい潮風にさらされ、うまみも増していく。

ゲンギョは「幻魚」とも書く深海魚。体長二〇―三〇センチで、水圧に耐えられるようゼラチン質に覆われている。甘エビ漁の底引き網と一緒に捕れ、地元

では古くから珍味として食べられてきたという。軽くあぶるのが主流だが、てんぷらや昆布巻きにしても。大寒から三月ごろまでが一番おいしい時期。



二十六年ぶり積雪三日(高田)

(二月十一日)

上越市高田の積雪が十日、二日を超えた。昭和五十九年から続いた「三年豪雪」時の昭和六十一年以来、二十六年ぶりになる。今後も降雪が予想されていることから警戒が必要だ。

同地区の積雪量観測点は同市大手町の旧高田測候所。十日正午から午後一時にかけて積雪二〇四センチを記録。近年最も多いとされていた平成十八年の「十八年豪雪」時の一六二センチを上回っている。



同市の高田市街地は八日までに一斉雪降ろしと排雪作業を終えたばかり。十三区の観測点のうち牧区棚広新田で十日午前九時までの積雪量が五三二センチと今冬最高を観測。ほかの四カ所でも積雪四〇センチを超えている。

豪雪被害把握のため五日に平野辰男防災担当大臣(当時)が来県。泉田裕彦県知事や村山秀幸上越市長、入村明妙高市長、米田徹糸魚川市長ら十二市町長が除排雪経費の財政支援、空き家対策、災害救助法適用期間の延長などを要望した。



レルヒ祭一〇二年目のにぎわい

(二月十四日)

日本にスキーを伝えたオーストリア・ハンガリー帝国の軍人、レルヒ少佐の偉業を顕彰する「日本スキー発祥百一周年レルヒ祭」が十一、十二の両日、上越市の金谷山スキー場と本町商店街で行われた。幸い二日間とも荒天にならず、合わせて一万余五千人が訪れ、にぎわった。



上越—東京は一時間四十八分

(二月二十九日)

国土交通省は二十七日の交通政策審議会陸上交通分科会鉄道部会第四回整備新幹線小委員会(委員長・家田仁東京大学大学院教授)で、敦賀延伸分も含めた北陸新幹線各駅間の所要時間や料金などを初めて公表した。(仮称)上越駅は「速達型」に位置付けられ、

東京まで一時間四十八分、「各駅停車型」の糸魚川駅は同二時間二十九分とそれぞれ試算された。現行の特急「はくたか」と上越新幹線を乗り継ぐ場合に比べ、東京まで十四分短縮される。上越から長野までは十八分、糸魚川までは十二分、金沢までは四十八分で到着する。

県文化財に指定へ

(三月六日)

県文化保護審議会(伊藤義博会長)が五日に開かれ、県文化財指定などの答申が出された。上越市からは榊原家資料と裏山遺跡出土品が選ばれた。

裏山遺跡(同市岩木)は弥生時代後期の高地性の環濠集落跡で標高九十二メートル。視野の開けた険しい台地に立地し、堀が発見されていることから居住地より砦としての性格が考えられる。四千点以上の出土品から土器、石器、鉄器など二百二点が指定されることになった。

榊原家資料は高田藩最後の

■(仮)上越、糸魚川駅からの所要時間と特急料金

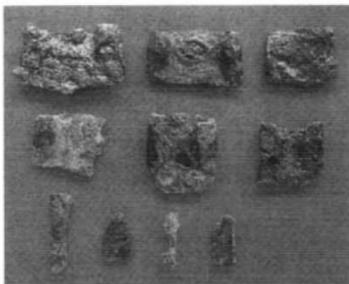
	東京	高崎	長野	飯山(飯上)	糸魚川	富山	金沢	敦賀	伊賀
1時間48分	57分	18分				30分	48分	1時間32分	
(仮)上越	2時間16分	1時間17分	22分	11分	12分	38分	1時間	1時間55分	
	4,080円	3,030円	2,300円	840円	840円	3,030円	3,030円	3,880円	
糸魚川	2時間29分	1時間30分	35分	24分	12分	25分	47分	1時間42分	
	4,810円	3,880円	2,300円	2,300円	840円	2,300円	3,030円	3,880円	

※(仮)上越の上越駅発着。途中駅と糸魚川は各駅停車型での計算。点線下は最新特急料金

藩主、榊原家に伝来した資料群
一万六千三百六十八点。総合博物館と
高田図書館に納められている。藩政日
記や藩士の家の文書などを中心とし
た「榊原家文書」、藩校修道館が所蔵し
ていた「修道館文庫」、榊原家由来の資料
などの「榊原家資料」からなる。各地
を転封した譜代大名の資料として充実
しており注目されている。



榊原家資料



裏山遺跡から出土した鉄器

板倉区國川 地すべり拡大

(三月十日)

板倉区國川で七日午後確認された
地すべりは八日、二十一世帯八十人に
避難勧告が出され、その規模が拡大し
ている。夜が明けた九日、雪を巻き込
んだ土砂の波は徐々に民家近くまで迫
り、土砂雪を押しとどめる大きな土の
うを積み警戒を強化。地元住民は避難
体制を整え、不安と驚きをもって行方
を見守っている。土砂で埋まったほ場
は春耕への影響が危惧されている。同
日、村山秀幸市長が現地入りした。



山が幅150m、長さ500mにわたり崩れ落ちた。(9日早朝に上空から撮影。写真提供)



板倉区國川の地すべり現場周辺図

「北国」「日本海」ラストラン

(三月十八日)

利用者の減少や車両の老朽化に伴い
十六日発で定期運行を終えたJR寝台
特急「日本海(大阪-青森)」と急行「き
たらん」(大阪-新潟)が、十六日夜
から十七日未明にかけてJR直江津駅に
停車した。これまで両列車が同時に同
駅に停車することはなかったが、ダイ
ヤ調整の関係で二分三十秒という短い
時間ながら、ラストランと並んでの停
車が可能。この姿を記録しようと二百
人を超す鉄道ファンが訪れた。

青森行きの「日本海」が十六日午後
十一時五十七分に到着すると、車内か



大阪へ向かう最終列車と、青森へ向かう最終列車が直江津駅で並んだ。ダイヤ調整のためだが、ファンにとっては「珠玉の時間」だったという

ら続々と乗客が降り立った。

大阪行きの「きたぐに」が十七日午
前零時五十五分に到着し、「日本海」
と並ぶと、待ち構えていたファンが写
真やビデオに収めていた。

同駅の小池裕明駅長は「これだけ名
残を惜しんでいたが、いろいろな思
い出がある人が多いと感じました。二
分三十秒のランデブーを楽しんでいた
だけたのでは」と話していた。

陽光浴び早春の風物詩

(三月三十一日)

好天にめぐまれた三十日、上越市有
間川町内会(高橋誠一町内会長)の住
民が桑取川河口で特産のカタノリを採
集した。午前八時三十分の合図で参加
者が一斉に早春の海へ。中腰で、岩に
ついてはいるノリを慣れた手つきで摘み
取っていた。

高橋フミさん(七二)は「今日は暖
かくて良かったし、いっぱい採れた。
カタノリはみそ汁で食べるのがおいし
い」と笑顔で話していた。有間川産の
カタノリは人気があり、ほとんどが知
り合いなどに販売されている。



直江津高校卒業式 最後の学びや後に

(三月四日)

県立直江津高(山岸克夫校長)は三日、第六十二回卒業式を開いた。同校は三月をもって百年の歴史に幕を閉じる。最後の卒業生となる百二十二人が晴れやかな表情で式に臨み、友と母校との別れを惜しんだ。

山岸校長は式辞で、ステイブ・ジョブス氏の言葉「Stay hungry, stay foolish」を引用。卒業証書を手にした卒業生は、中等吹奏楽部の演奏による「蛍の光」に送られて学びやを後にした。



見える？見えない？タヌキの顔

(四月五日)

「今の季節、尾神岳にはタヌキの横顔が出てくるんですよ。雪型とは言えないけれど、杉の生え方なんだね。行けば分かりますよ」と吉川区に住む会社員Iさんからの情報提供。思いがけない電話をくれたIさんは田んぼの地方増強にレンゲを育て、花畑でコンサートを開く夢多き人だ。

半信半疑で尾神岳に向かうと…「なるほど」。視界に大きくそれが飛び込んできた。二十年来、尾神岳のふもとで仕事をしていたなぜ気付かなかったのか。不思議だ。

意気揚々、会社に帰る。吉川区に住む上司に写真を見せると「見えないね」と二つもない。ほかの記者達に見せる。連続十五人が「何も見えない」という。これまた不思議である。



見える人には見えるのだが…

第八十七回高田城百万人観桜会 桜満開

(四月二十二日)

寒すぎた冬。春の大嵐。いつにも増して待ち遠しかった今年の観桜会。満開から花吹雪まで、これからの一週刊。切ないまでに美しい季節は今。人々は心を開き、体の力を抜いて、花に人に酔いしれる。



芳澤謙吉ゆかりの茶室 「米南荘」をお披露目

(四月二十六日)

上越市の芳澤謙吉顕彰会(古川正美会長)と諏訪の里づくり協議会(川上義人会長)は二十二日、同市諏訪の

芳澤記念公園で「米南茶会」を開き、地域活動支援事業により昨年移設、改修した謙吉ゆかりの茶室「米南荘」をお披露目した。

外務大臣や外交官を歴任した郷土の偉人をより多くの人に知ってほしいと初めて企画した。強風の中、市民が続々と集まり満開の桜とお茶を楽しみながら謙吉の功績を再認識した。謙吉の孫で芳澤家の当主の芳澤忠雄さんと元ニユージランド大使の井口武夫さんから親族七人も訪れた。忠雄さんは孫の一人で国連難民高等弁務官を務めた緒方貞子さんのメッセージも届けた。



上杉おもてなし武将隊 活動一年もてなし進化

(四月二十六日)

上越市を訪れる観光客をもてなし、上越市や春日山などを全国にPRしている「越後上越 上杉おもてなし武将隊」は、同市大豆の春日山神社境内でおもてなし演武を再開した。春日山を訪れる多くの人をもてなしている。活動を開始してからもうすぐ一年。上杉謙信、春日山城などに関するクイズに加え、出演者によって変わるなど演武の内容も一新。上杉謙信役は「越後の諸將たちを紹介し、生き方、思いを伝えられたら。組み合わせも色々あるので楽しんでもらえるとおも。」と。



陸前高田高校を訪問

(五月二日)

新潟県立高田高校校友会（大島精次会長）の高館徹夫幹事長と東京支部の樫野利介副支部長、上野邦治幹事長ら六人がこのほど、岩手県の陸前高田高校を訪ね、大震災の見舞いと復興の願いを伝えた。校友会は同じ校名の縁から復興を支援したいと、二度の募金活動をを行い、計百八十三万円を図書館の充実にと同校に送った。



百歳の日野原さん登壇 軽妙な語りにも重み

(五月十三日)

上越市本町二の石田眼科病院（石田誠夫院長）の新築移転を記念した講演会が十二日、同市の上越文化会館で開かれた。聖路加国際病院理事長の日野原重明さん（百歳）が講師に招かれ、自身の体験も織り交ぜつつ、健康長寿は「日ごろの生活習慣から」と力説した。

大ホールを埋めた入場者から万雷の拍手を浴び、力強い足取りで登壇した日野原さんは、「私の生涯の歩みが、みなさんの衝撃となれば」と切り出し講演を始めた。

高齢化の進展著しい中で、多くの人が感じる幸せは「健康」とする調査結果を示しながら、がんや心疾患、脳血管疾患など死因の六割は生活習慣が起因と指摘。日常生活からの健康に対する意識を求めた。また、おろそかにされがちな公衆道德の重要性も示し、折に触れて紹介しているという自身の格言「習慣が作るからだも心も」を披露。心身の健康へ意を用いるよう呼び掛けた。



上越でも部分日食

(五月二十二日)

日本列島各地で金環日食が見られた二十一日、上越市内でも部分日食が観測された。絶好の青空が広がった早朝、清里区の星のふるさと館はリージョンプラザ上越前で観察会を実施。珍しい天体賞を見ようと約百五十人が集まり、神秘の瞬間に立ち会った。

同市で部分日食が観測されるのは平成二十一年七月以来、約二年十カ月ぶり。午前六時二十一分に日食が始まり、同七時三十六分頃ピークを迎え、太陽の約九割が隠れた。星のふるさと館の天文指導員、細谷一さん（七〇）は「前回はガスがかかって駄目だった。今回のコンディションは今までの中で一番」と笑顔。倍率二十倍のレンズで日食の変化を撮影し続けていた。



第十三回高田城ロードレース 沿道市民が熱い声援

(六月四日)

第十三回高田城ロードレース大会(上越市、上越市教育委員会、上越市体育協会主催)は三日、雁木通りプラザ前を発着点に行われた。全国から集まった選手は昨年を四百三十六人上回る二千九百九十四人。沿道で待つ市民のあたたかい声援にこたえながら、初夏の上越市内を快走した。



ツチノコ大捜査 全国から六十人が参加

(六月十二日)

伝説の生物、ツチノコの発見、捕獲を目指す「つちのこ探検隊(丸山隆志隊長)が十日、目撃情報のある糸魚川

市能生地域のシャルマン火打スキー場付近で行われた。あいにくの雨天となったが、参加者は元気がいっばいに大捜査を繰り広げた。捜査は目撃情報のある二カ所を中心を実施。ぬかるんだ斜面に足を取られて悪戦苦闘しながらツチノコを探した。

全国から捜査隊員が集まる同催し、七回目の今年は約六十人が参加。



泥が出て西にぬれる斜面を徹底的にさがった。

人気力士と「真剣勝負」

(六月十八日)

運動で親子のコミュニケーションや体力の向上を図る「父子チャレンジアカデミー」(NPO法人幼児教育従業者



研究開発機構主催)が父の日の十七日、上越市高田スポーツセンターで開かれた。東関部屋の東関大五郎親方(元幕内・潮丸)、十兩・高見盛関ら四人を講師に、約二百人が相撲の魅力と運動の楽しさを味わった。



巨大な高世相手に、幼・保育園児が集団で挑戦。会場

上越沖に油田、ガス田か 国内最大級の可能性 来年四月から試掘

(六月二十日)

経済産業省資源エネルギー庁は十八日、来年四月から六月にかけて、上越市沖の日本海で石油・天然ガス試掘調査を行うと発表した。試掘を手がけるJX日鉱日石開発(東京都)によると、埋蔵が予想される区域は百平方メートル以上で、柿崎区と大潟区を合わせた面積を上回る。国内最大級の油田、ガス田となる可能性を秘めている。

試掘を行う海域は佐渡南西沖約三十キロ。上越市の沖五十キロ地点で、日本の

排他的経済水域内。平成二十年に行った三次元物理探査船「資源」による当該海域調査の結果、石油またはガス田の存在が有望視されている。JX日鉱日石開発によると、水深一〇〇メートルある海底から約二千七百メートル掘り下げて調査する。事業管理は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(東京都)が行う。資源エネルギー庁によると、地元漁業者との調整や試掘に向けた準備作業を進めているという。

試掘実施を受け、県新エネルギー資源開発室の松田英世室長は「(国内)数カ所の中で(上越沖が)選ばれたと聞いている。今でも本県は石油・ガスを全国的に見ても多く算出しているが、うまく調査が進み、国内最大級といわれる規模であればますます期待される。埋蔵量やコストは不明だが、今後有望となれば大きな希望が持てる」と話した。



山崎元審判員が講義

(六月二十一日)

上越市南本町小(熊本泰広校長)は十八日、五、六年生百二十三人の総合学習として、同校OBの元プロ野球審判員で、現在日本野球機構(NPB)審判技術委員の山崎夏生さん(五六)を講師に招き、生き方を学ぶ講義を受けた。



審判員の道具を説明する山崎さん

日本海ひすいライン
妙高はねうまライン

「えちごときめき鉄道」に決定

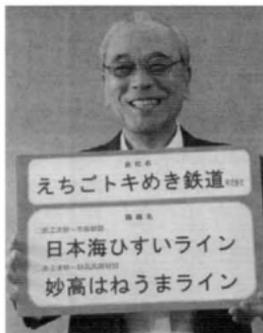
(六月二十三日)

平成二十七年春の北陸新幹線開業とともにJRから並行在来線の経営を引き継ぐ新潟県並行在来線株式会社(嶋津忠裕社長)は二十二日、県庁で記者会見し、新社名と二つの新路線名の候補を示した。

新社名は「えちごときめき鉄道株式会社」。新路線名は、現JR北陸本線・直江津駅―市振駅間の「日本海ひすいライン」と現JR信越本線・直江津駅―妙高高原駅間の「妙高はねうまライン」。二十九日の株主総会決議を経て七月一日に社名を変更する。

昨年十二月から今年二月まで公募し

集まった二千二百十五通をもとに、学識経験者や沿線市商工会議所などで構成する検討委員会、株主アンケートから選定。商標登録の可否を検討した上で社名案六件、路線名案各九件に絞り込み、二十日の取締役会で全国への発信力や名称間のバランスを考慮して決定した。



並行在来線となる鉄路で妙高方面に走り出す電車。

谷浜海水浴場海開き

(六月二十五日)

上越市内にある四海水浴場の先陣を切つて二十四日、谷浜海水浴場が海開きした。この日は快晴に恵まれてさわやかな潮風が吹き渡り、波打ち際は早速、子供たちがはしゃぐ姿が見られた。

午前は神事が行われ、関係者が玉ぐしをささげて一夏の安全と千客万来を願つた。

同海水浴場は来年で百周年を迎える事もあり、谷浜観光協会の田中弘邦会長は「かつてこの海水浴場は北陸随一と言われたが、時代とともにだいたいぶ変わってきた。協会として大に宣伝し、大勢のお客様に来ていただいで昔にぎわいを取り戻したい」と話した。



安全とにぎわい願い

先陣切り海開き

上越火力が本格稼働

(七月一日)

中部電力は、上越市八千浦地区に建設を進める上越火力発電所の一―一―号機について、きょう一日に営業運転を開始する。着工から五年、市内初の火力発電所がいよいよ本格稼働する。

長野市にある新北信変電所まで約六十二キロの送電線で電力を送る。

今後は一―二―号機が平成二十五年一月、二―一―号機が同七月、二―二―号機が二十六年五月に営業運転を始める予定。全て稼働すると出力は二―三―七―万―ワットとなり、停止中の浜岡原発三、四、五号機の総出力三六一万キロワットの六割以上になる。



高田公園北堀のハス 東洋一咲き始め

(七月四日)

上越市の高田公園北堀のハスが咲き始めた。東洋一といわれる同公園のハスを楽しむ上越ハスマつりは、二十七日から始まる。



海水浴場大にぎわい

(八月六日)

連日、うだるような暑さが続き、上越市内の各海水浴場は長野や群馬など県外客を中心ににぎわいを現せている。

八月最初の日曜日となった五日、たにはま海水浴場は色とりどりのパラソルやテントの花が咲き、家族連れなど



大勢の海水浴客で込み合った。高田で最高気温三四・五度の酷暑となる中、気持ちよさそうに泳ぎ、水遊びしてはしやく子どもたちの歓声が響いた。毎年、谷浜に来ているという長野県の家族の団体は「遠浅で子どもが遊ぶにはちょうどいい」と、すっかりとりにこに。谷浜観光協会のスタッフは「晴天が続いて入り込みはいいけど、ちょっと暑すぎるね」と連日の暑さに外出を控える動きも心配していた。

海浜管理所前のビーチでは約三百人参加のスイカ割り大会やカニ汁、おにぎりの販売イベントが行われた。

ヒマワリ十二万本咲きました

(八月八日)

上越地域で病院や福祉施設、専門学校を手がける「和・道グループ」は十日前十時三十分から、上越市南新保の「つくしファームひまわり畑」で、越後ひまわり祭り」を聞く。夏の日差しに揺れるヒマワリの中でコンサートが行われ、クッキーの無料配布もある。入場無料。

昨年続き、同グループで休耕田を借り受け、約五平方メートルに約十二万本のヒマワリを植えた。



岩の原が「金メダル」

(八月九日)

七月末に山梨県で開かれた国産ワインコンクールの国内改良等品種・白部門で、岩の原葡萄酒(上越市北方)の白ワイン「レッド・ミルレニウム2011」が最高賞となる金賞・部門最高賞を受賞した。同社の坂田敏社長(六三)は「何と言っても金賞、金メダルは特別にうれしい」と満面の笑みを浮かべた。

同コンクールは十回目。日本ワインリ協会や山梨県ワイン酒造組合などが実行委員会となって国産ワインの品質と認知度向上を図るために開いている。欧州系品種、北米系等品種、ロゼワインなど十三の部門があり、今年は計六百九十品がエントリーした。



ニュービジネス研究会 十二社合作で野菜工場

(八月十一日)

上越市内の民間企業が共同開発し、三和区の多能鉱泉に置いた野菜工場実験棟で十日、野菜の初収穫が行われた。装置は風力、太陽光といった自然エネルギーを利用して照明を点灯させており、室温二五度程度の実験棟内で水と

光を利用してタス数種を育てている。取り組むのは上越商工会議所加盟の十二社で構成する「ニュービジネス研究会」（会長・小林清作ウエカツ工業社長）。



三和区鳥倉の谷内池 十数年ぶりオニバス咲く

（八月十八日）

三和区鳥倉の谷内池でこのほど、絶滅危惧（きぐ）種で本県が自然分布の北限といわれるオニバスが十数年ぶりに開花した。

名前の「鬼」の由来というトゲの生えた茎から、鮮やかな紫色の花が咲き、見る者を魅了する。再生に尽力した地元住民らの熱意が実った。



パラグライダー・スチュUDENT杯 原風景見渡し飛行

（八月二十四日）

吉川区の尾神岳（七五七）で二十三日までの三日間、パラグライダー大会「スチュUDENTトカップ2012」（実行委員会主催）が行われた。大学生が、色鮮やかな凧形の翼を広げ、原風景を見下ろしながら飛行していた。

主な競技方法は、周回して速さを競う「パイロンレース」と滞空時間の長さを競う「デュレーション」で、離陸場と着陸場の標高差は三百五十。そのほかオープンクラスが設けられ、首都圏や東北地方の八大学から二十七人が出場した。



春日山に戦国絵巻 出陣行列に十七代当主

（八月二十七日）

郷土の英雄、上杉謙信公の遺徳をたたえる「第八十七回謙信公祭」は二十六日祭りのハイライトとなる「出陣行列」（謙信公銅像前・春日山城史跡広場）と「川中島合戦の再現」（春日山城史跡広場）を行った。今年は上杉家十七代当主の上杉邦憲さん（六九）が上杉謙信役で出陣行列に登場した。

武者姿の上杉軍、武田軍約五百人が青天の下、堂々の出陣。

大役を終えた上杉さんは「謙信公が出陣する時はこうだったのかと思うと感慨深い。豊臣秀吉によって会津に移封されてから、四百十四年ぶりに帰ってきたので感無量です」と話していた。



新幹線新駅に併設へ 四十億円投じ脇野田駅移設

（八月二十九日）

平成二十七年春開業の北陸新幹線本越駅（仮称）に併設されるJR信越本線脇野田駅の移設工事が、九月から本格化する。二十八日、上越市大和五の建設予定地で安全祈願祭が行われ、新幹線駅工事などと同時進行する工程の無事故無災害を願った。駅舎は二十六年中に完成。JRの経営で開業を予定。新幹線開業とともに「越後トキめき鉄道」（嶋津忠裕社長）が経営を引き継ぐ。



『肝機能をしっかりと高めるコツがわかる本』

Jネット会員で栗原クリニック院長で慶應義塾大学特任教授の栗原毅医学博士がわかりやすい肝臓に関する本を出版されました。

越後吟醸酒を世に広めるべく日頃よりせっせと杯を傾けている酒徒の端くれとしては、Y-GTPが高いと言われてもそれがどれほど悪くどうすればいいのか理解できず、相変わらずの日々を過ごしてきた。

この本にはそれらの計測値の見方や対応の方法が非常に分かりやすく解説してある。そしてこの手の本に良くみられる「酒はダメ、はダメ」というような禁止事項のオンパレードではなく、「肝炎でも適量の酒なら飲んだ方がよい」というような記述がみられる。この辺がこの本の信頼性を高めているのではないかとと思う。第三章の見出しだけを紹介しますと左記のようになる。

「アルコールと上手につき合おう」

アルコールと肝臓の関係

アルコールの九十％は肝臓で処理される

適度な飲酒量を守れば百薬の長に

原因 症状によっては禁酒の必要が無い場合も

健康診断で、毎年肝機能障害を指摘されているにもかかわらず「自分だけは大丈夫」と放置している人がなんと多いことでしょう。肝臓は、「沈黙の臓器」と言われるように、なかなか立言をいけません。ところが、じわじわ肝臓の機能が低下して、気づいたと

肝臓に負担をかけないですむ」

お酒の「適量」とは？

肝臓を休ませるため週に二日の休肝日を

肝臓をいたわる飲み方をしよう

食べながらゆっくりと楽しむのがコツ

お酒を飲むときには食べる順序にも注意して

肝臓にやさしいおつまみ（一品目）

たっぷり野菜で食物繊維とビタミンを

タイミングや量に気をつけて食べたいもの

肝臓にやさしいおつまみ（メイン）

メイン料理でたんぱく質を補給

お酒のおつまみでも塩分控えめがベスト

節酒・禁酒が守れない場合は

家飲みでも宴会でも飲みすぎ防止策を講じよう

どうしてもやめられない人は専門の機関に相談を

（編集部）

「はじめに」(転載)

健康診断で、毎年肝機能障害を指摘されているにもかかわらず「自分だけは大丈夫」と放置している人がなんと多いことでしょう。肝臓は、「沈黙の臓器」と言われるように、なかなか立言をいけません。ところが、じわじわ肝臓の機能が低下して、気づいたと

きには肝硬変や肝臓がんになっていることもしばしばです。

さらに、健康診断すら受けておらず、B型肝炎やC型肝炎であることに気がついていない人は、なんと全国で百五十万人もいると推定されています。B型肝炎やC型肝炎も早期に治療さえすれば怖い病気ではありません。たとにインターフェロン療法は、飛躍的に進歩しています。ぜひ、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスをもっていないことを確かめておきたいものです。

一方、やっかいなのが脂肪肝。そう、フォアグラです。ご自分の肝機能検査値を思い出し、ALT（GPT）に着目してください。私はALTが二〇〇U/l以上であれば脂肪肝を疑います。以前は、こわい病気との認識がされていきましたが、肝硬変や肝が

んに進展することもあるのです。さらに、動脈硬化や糖尿病の原因にもなります。意外なことに、アルコールを飲まない人のほうが危険とされます。ご飯、めん、パン、果物などの糖質のとりすぎがいちばんの原因です。信じられないかもしれませんが、アルコールが脂肪肝の予防・治療になりそうと、何ともうれしいことも明らかにされています。

本書は、みなさまが驚くような新常識を豊富に盛り込みました。とくに、食事療法は、糖質を少し減らすことがいかに重要かを強調しています。肝臓病の早期発見、生活習慣や食事内容の改善策を具体的にやさしく書いてみました。黙々と働いているご自分の肝臓をいたわってあげてください。

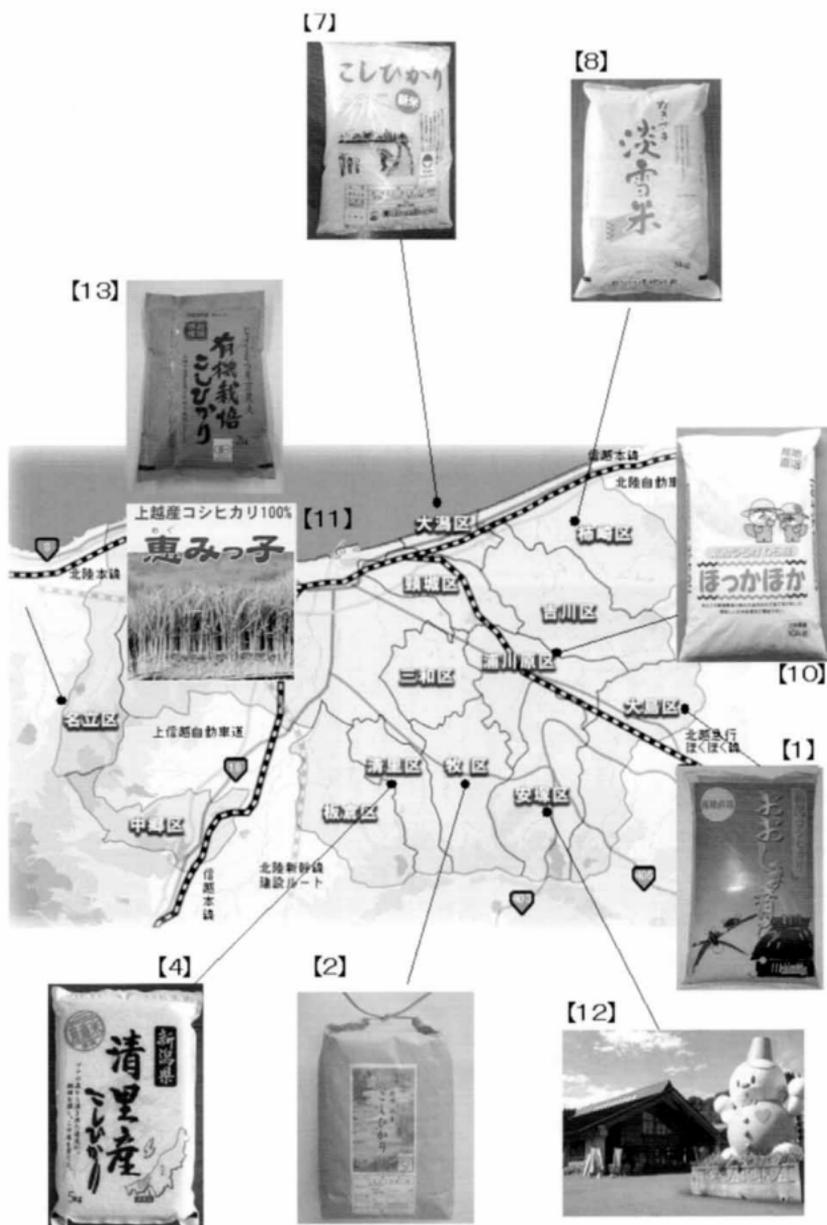


栗原クリニッ
ック東京・
日本橋院長
慶應義塾大
学特任教授
栗原 毅

ふるさと市場

☆会員は送料無料です。

Jネットが負担します。



■ご注文は下記へお願いします。(直接業者さんに注文すると送料の補助が出ません。)

「ふるさと上越ネットワーク」事務局

電話：03-6415-6277

FAX：03-6415-6299

上越米

通信販売カタログ(平成23年秋号)

おいしい新米をどうぞ!

米山山地、東頸城丘陵、関田山脈、南葉山地、西頸城山地など、上越市をとり囲む山々からの雪解け水で育まれた上越のお米。上越地域では、米を栽培するにあたって、農薬や化学肥料を減らす取組に、地域一丸となって取り組んでいます。上越のお米は、ふるさとかからお送りする安全・安心なお米です。



【1】(財)大島農業振興公社(大島区)

代表者 中條勝夫

住所上越市大島区牛ヶ鼻 2649 (〒942-1215)

電話 025-594-2856 F A X 025-594-2860



商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
①	おおしま育ち 白米	5kg	2,800円
②	おおしま育ち 白米	10kg	5,600円

- 1 品種 コシヒカリ(100%)
- 2 栽培方法 3割減農薬・3割減化学肥料・除草剤使用1回
- 3 品質 一等級
- 4 食味 食味良好
冷めてもおいしく、お弁当に最適
- 5 その他 栽培の履歴有り

【2】(財)牧農林業振興公社(牧区)

理事長 中川耕平

住所 上越市牧区柳島 482-1 (〒943-0647)

電話 025-533-6763 F A X 025-533-6805



商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
①	牧産コシヒカリ 100% 農薬・化学肥料を3割減らして栽培されたお米	5kg	2,800円
②	牧産コシヒカリ 100% [7分づき] 玄米の栄養分が残っている米 (ビタミンB1/E、ミネラル等)	5kg	2,800円
③	牧産こがねもち 100% 腰が強く、餅にするとヨーク伸びる【もち米】	5kg	2,800円

◇商品①及び②

- 1 品種 コシヒカリ(100%)
- 2 栽培方法 3割減農薬・3割減化学肥料・
除草剤使用1回
- 3 品質 一等級
- 4 食味 香りが良く、食味良好
- 5 その他 栽培の履歴有り

◇商品③

- 1 品種 こがねもち(100%)
- 2 栽培方法 慣行栽培 除草剤1回使用
- 3 品質 一等級
- 4 食味 こしが強く、食味良好
- 5 その他 栽培履歴あり<限定10個販売>

【4】(有)グリーンファーム清里(清里区)

代表取締役 保坂一八

住所 上越市清里区上田島 122 (〒943-0504)

電話 025-528-4270 F A X 025-520-7339

商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
①	清里産コシヒカリ	5kg	2,400円
②	新潟県認証 特別栽培米 清里産コシヒカリ	5kg	2,800円

- 1 品種 コシヒカリ(100%)
- 2 栽培方法 慣行米・5割減農薬・減肥料米
- 3 品質 一等級
- 4 食味 最良
- 5 その他 J G A P (生産管理工程) 認証取得により栽培の履歴有り



【7】(有)朝日池総合農場(大潟区)

代表取締役 平沢栄一

住所 上越市大潟区内雁子 252-1 (〒949-3135)

電話 025-534-5955 F A X 025-534-5956

商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
①	N P O法人 赤トンボ認証 J A S・有機栽培米コシヒカリ 100%	5kg	3,500円
②	新潟県認証栽培米コシヒカリ 100%	5kg	2,900円

- 1 品種 コシヒカリ(100%)
- 2 栽培方法 有機米・除草剤未使用
- 3 品質 一等級 N P O法人 赤トンボ認証 J A S 認証
- 4 食味 良食味

- 1 品種 コシヒカリ(100%)
- 2 栽培方法 減化学肥料・減農薬・除草剤使用1回
- 3 品質 一等級 新潟県認証
- 4 食味 良食味



【8】柿崎雪むろ利用組合(柿崎区)

代表者 楡井辰雄

住所 上越市柿崎区馬正面 1012-乙 (〒949-3214)

電話 025-536-4453 F A X 025-536-6116

商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
①	新潟県認証 コシヒカリ	5kg	3,200円
②	新潟県認証 コシヒカリ(雪中貯蔵米)	5kg	3,450円
③	新潟県認証 コシヒカリ(雪中貯蔵・無洗米)	5kg	3,500円
④※	慣行栽培 コシヒカリ	5kg	2,500円
⑤※	慣行栽培 コシヒカリ(無洗米)	5kg	2,550円

- 1 品種 コシヒカリ(100%)
- 2 栽培方法 減化学肥料・減農薬
- 3 品質 一等級 新潟県認証
- 4 食味 良
- 5 その他 栽培の履歴有り
雪中貯蔵・無洗米(商品により一部異なります)

- ※ 1 品種 コシヒカリ(100%)
- 2 栽培方法 慣行米
- 3 品質 一等級
- 4 食味 良
- 5 その他 栽培の履歴有り(商品により一部異なります)



【10】(財)浦川原農業振興公社(浦川原区)

理事長 西山 知太郎

住所 上越市浦川原区顕聖寺 382-1 (〒942-0314)

電話 025-599-3882 F A X 025-599-2870



商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
①	浦川原産コシヒカリ	5kg	2,500円
②	浦川原産コシヒカリ	10kg	5,000円

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 品種 コシヒカリ(100%) | 4 食味 良食味 |
| 2 栽培方法 慣行米・除草剤使用1回 | 5 その他 栽培の履歴有り |
| 3 品質 一等級 | |

【11】正善寺工房(NPO法人食の工房ネットワーク)(合併前の上越市)

代表者 小林 元

住所 上越市下正善寺 1027-2 (〒943-0813)

電話 025-523-0621 F A X 025-523-0621



商品番号	商品名(品種・認証等)	栽培方法	内容量	価格(税込)
①	センター認証 J A S・有機栽培米 合鴨コシヒカリ 100%	無化学肥料 除草剤未使用	5kg	5,775円
②	センター認証 J A S・有機栽培米 コシヒカリ 100%	無化学肥料 除草剤未使用	5kg	4,620円
③	センター認証 特別栽培米 コシヒカリ 100%	無化学肥料 除草剤使用1回	5kg	3,675円
④	新潟県認証 特別栽培米 コシヒカリ 100%	減化学肥料 除草剤使用1回	5kg	3,255円
⑤	慣行栽培米 コシヒカリ 100%	慣行米 除草剤使用1回	5kg	3,045円
⑥	無洗米 慣行栽培米 コシヒカリ 100%	慣行米 除草剤使用1回	5kg	3,150円
⑦	センター認証 J A S・有機栽培米 紫黒米(もち米)	有機米・無化学肥料 除草剤未使用	1kg	1,750円
⑧	センター認証 特別栽培米 こがねもち(もち米)	無化学肥料 除草剤使用1回	2kg	1,575円
⑨	センター認証 特別栽培米 こがねもち(もち米)	無化学肥料 除草剤使用1回	5kg	3,935円
⑩	センター認証 特別栽培米 低タンパク米(春陽)	減化学肥料 除草剤使用2回	5kg	4,050円
⑪	ふるさと便(大)	白餅 350g × 4 豆餅 350g × 2 草餅 350g × 1 しそ餅 350g × 1	一式	4,100円
⑫	ふるさと便(小)	白餅 350g × 2 豆餅 350g × 2 草餅 350g × 1 しそ餅 350g × 1	一式	3,200円
⑬	白餅 5袋セット	白餅 470g × 5	一式	3,000円

- | | |
|-------------------|--|
| 1 品質 一等級 | |
| 2 食味 良食味・5つ星★★★★★ | |
| 3 その他 栽培の履歴有り | |

(株)アファス認証センター認証は、センター認証と略してあります。

【12】手づくり百人協同組合（安塚区）

代表者 増野 いつ子

住所 上越市安塚区榑田 140 雪だるま物産館（〒 942-0531）

電話 025-595-1010 F A X 025-595-1026

商品番号	商品名	内容量	価格（税込）
①	榑田百選米（雪中貯蔵）	2kg	1,200 円
②	榑田百選米（雪中貯蔵）	3kg	1,800 円
③	榑田百選米（雪中貯蔵）	5kg	3,000 円
④	榑田百選米（雪中貯蔵）	10kg	6,000 円
⑤※	榑田のはさかけ米（雪中貯蔵）	5kg	3,500 円
⑥※	榑田のはさかけ米（雪中貯蔵）	10kg	7,000 円

1 品 種 コシヒカリ（100%）

2 栽培方法 慣行米

3 品質 一等級

4 食味 良好

◆ 2kg、3kgはナイロン袋、5kg、10kgは紙袋入りです

※ 1 品 種 コシヒカリ（100%）

2 栽培方法 慣行米

3 品質 一等級

4 食味 香り好し、冷めても美味し

※ 袋は市販の紙袋になります。



【13】(株)じょうえつ東京農大

ホームページ <http://www.jnodai.co.jp>

代表取締役 藤本彰三

《上越農場》 住所：〒 949-1705 新潟県上越市大字吉浦字梨子平 1821-1

電話：025-531-5450 FAX：025-531-5455

《本 店》 住所：〒 156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1 東京農業大学内

電話 / FAX：03-5477-2721

商品番号	商品名（品種・認証等）		内容量	価格（税込）
①	JAS 認証 有機栽培こしひかり	遠赤乾燥	精米	2 kg 1,360 円
②				3 kg 2,040 円
③				5 kg 3,400 円
④			玄米	2 kg 1,360 円
⑤				3 kg 2,040 円
⑥				5 kg 3,400 円
⑦	JAS 認証 有機栽培こしひかり	天日乾燥	精米	2 kg 2,400 円
⑧				3 kg 3,600 円
⑨				5 kg 6,000 円
⑩			玄米	2 kg 2,400 円
⑪				3 kg 3,600 円
⑫				5 kg 6,000 円

①～⑥：当社の主力商品です。紙マルチによって初期雑草を抑制し、学生がヒエ抜きしました。

適度な粘りとつや、上品な甘さを持ったおいしいお米です。毎日の食卓に最適。

世田谷区が推薦する「世田谷みやげ」に 2009 年度から連続で選ばれております。

⑦～⑫：有機 JAS 認証米を日本海の風を利用して伝統的なハサで天日乾燥しました。当社の特上米で限定品です。

天日乾燥の風味と口の中いっぱい奥深い甘さが広がる逸品。ご贈答品に最適なお米です。

新米発売時にすぐ完売してしまう商品なので、是非お見逃しなく。



上越後ふるさと市場

上越商業サービス公社取扱商品

ご注文は「ふるさと上越ネットワーク」事務局まで直接お願いします。
 Jネットでご受け付けたものについては送料はJネットが負担します。
 FAX：03-6415-6299 または電話：03-6415-6277 でご注文下さい。
 FAX でのご注文ではJネットの注文書をご利用ください。
 「お問い合わせ」「商品に対する苦情」等も事務局へお寄せ下さい。

魚住かまぼこ店

上越市春日新田5丁目19番18号



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
021	昆布巻蒲鉾	250g	670円	原料スリミのたら・いとよりも最高ランクSA級。昆布は道産真昆布の1等級を使用。
	かまぼこの生身を幅広のだし昆布で巻いた蒸し蒲鉾、真空包装			
022	板なし明太子入り蒲鉾	250g	560円	蒲鉾の旨みと明太子の味がマッチ。チョッピリ辛めで、ビールの肴に最高。
	蒲鉾の生身に辛子明太子を混ぜて練り、蒲鉾型に整形した蒸し蒲鉾、真空包装			
023	板なし蟹入り蒲鉾	250g	650円	かにの旨味、かまぼこの歯ざわりのよさ。美味。評価高い。
	蒲鉾の生身にズワイガニのほぐし身を混ぜた虫蒲鉾、真空包装			

平八

上越市木田3丁目8番48号



注文番号	商品	数量	金額(税込)	商品解説
012	塩するめ	L5枚	2,850円	厳選したイカを天日塩を使い、丁寧に作りしました。
013	塩するめ	L2枚	800円	そのまま焼いたり、天ぷらにして楽しんでください。
031	きくらげ小板	220g	546円	独自に味付けしたきくらげと蒲鉾の食感が良く合います。
032	鮭小板	220g	945円	天然銀鮭を下ごしらえし五目蒲鉾の上にせた板付蒲鉾
033	穴子巻	250g	1,155円	活メ穴子を、たれ焼きにして五目風蒲鉾の身にのせ、す巻にした手巻き蒲鉾

岩の原葡萄園

上越市北方 1223 番地



注文番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
041	深雪花セット	720ml 各 1 本	4,551 円	フレンチオーク樽でじっくり熟成させたまろやかな赤ワインと、自然清澄と低温発酵で爽やかに仕上げた白ワイン。
	深雪花 (赤)、深雪花 (白)、化粧箱入り			
042	スベリユールセット	720ml 各 1 本	3,479 円	豊かな果実味と深みのある味わいの赤ワインと、はちみつを想わせる香りと豊かな酸が織り成すキレのある口当たりの白ワイン。
	スベリユール (赤)、スベリユール (白)、化粧箱入り			
043	岩の原ワイン (赤)	720ml	1,100 円	
044	岩の原ワイン (白)	720ml	1,100 円	

田中酒造

上越市大字長浜 129 番地 1



商品番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
051	大吟醸 能鷹	720ml	2,624 円	[原料米: 山田錦 精白 40%、日本酒度 +4、アルコール度数 16.5、酸度 1.2] [吟醸] 吟醸酒の香りを楽しむ爽やかな酔い心地の酒
	2 本入セット		各 720ml	
052	特別本醸造	各 720ml	2,963 円	[特別本醸造] 最高の技術で丁寧に仕上げた淡麗うま口の酒
	[吟醸] 原料米: 山田錦・五百万石 精白 50%、日本酒度 +5、アルコール度数 16.4、酸度 1.3			
053	特別純米・上撰黒松	各 720ml	2,476 円	[特別純米] 越後杜氏の本格仕込みによる芳醇な風味とすっきりした口当たりの良い酒
	[上撰黒松] 魅力溢れる本醸造りでひとクラス上を感じさせてくれる、すっきりした辛口の酒			
	[特別純米] 原料米: 五百万石、雪の精 精白 55%、日本酒度 +6、アルコール度数 17.3、酸度 1.7			
	[上撰黒松] 原料米: 五百万石、新潟早生 精白 60%、日本酒度 +8、アルコール度数 15.6、酸度 1.3			

武蔵野酒造

上越市西城町 4 丁目 7 番 46 号



商品番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
061	スキー正宗 特別本醸造	720ml	1,050 円	越後高田、日本スキー発祥地にちなみ命名。やや甘口に感じる旨味のある特別本醸造酒です。全てのお料理に合う食中酒として、冷やから熱燗まで美味しくお召し上がり頂けます。
062	春日山 天と地 辛口 本醸造	720ml	1,050 円	上杉謙信公の居城があった春日山にちなみ命名。やや辛口で飲みやすいスッキリとした味わいが特徴の純米酒。冷やから熱燗まで美味しくお召し上がり頂けます。
063	華 (はな) 大吟醸	1,000ml	4,100 円	原料米に五百万石を使用し、長期低温発酵により醸し出された大吟醸です。大吟醸特有のフルーティな香りをお楽しみ下さい。 冷やまたは常温で美味しくお召し上がり頂けます。

えちご上越農業協同組合

上越市藤巻 5 番 30 号



商品番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
091	きんしゃり コシヒカリ米 100% ※相場により変動あり。	5kg	3,150 円	えちご上越管内で育ったおいしいお米です。一粒一粒に安心安全を込めてお届けします。
092	こがね姫 (切り餅) 水稲モチ米「こがねもち 100%」使用	40 枚	2,500 円	えちご上越管内で育った水稲モチ米「こがねもち 100%」使用。衛生的なクリーンルームで添加物を使用せずに製造しています。使いやすい個包装タイプです。
093	越後みそ 味噌路 赤みそ	1kg × 4	2,200 円	えちご上越管内で育った大豆を原料に熟成させた、ここのある味噌です。

J A えちご上越 米酒センター

上越市春日新田 5 丁目 3 番 11 号



注文番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
071	雁木通り	2kg	1,240 円	上越産コシヒカリ米 100%
072	雁木通り	5kg	3,000 円	
073	雁木通り	10kg	6,000 円	

◎相場により変動あり。

かんずり

妙高市西条 438 番地 1



注文番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
101	かんずりセット # 20	各 1 個	2,100 円	かんずりの定番商品セットです。 三年間ゆっくり熟成・発酵させて造る、日本で唯一の 醸酵香辛料です。
	かんずり (大) 80g、かんずり漬山菜 80g、かんずり漬えのき茸 80g			
102	かんずり (大)	80g/1 個	630 円	
103	かんずり漬えのき茸	80g/1 個	630 円	

山本味噌酒造場

上越市中央 1 丁目 13 番 4 号



注文番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
111	コシヒカリみそ	1kg	1,103 円	特別栽培新潟コシヒカリ米と特別栽培北海道大豆及び 天日塩を原料とし塩分 11% にひかえた長期熟成天然醸造 手造り味噌です。
112	越の淡雪	1kg	772 円	国産大豆と国産丸米を主原料に新潟県の特許技術による 製造法で塩分を 8.5% にひかえ、天然発酵でじっくりと 熟成させた手造り味噌です。
113	みそ漬け (6 品入)	320g	735 円	手造り味噌に長期間漬け込んだ越後風味のみそやのみそ 漬けです。
	大根、茄子、胡瓜、生姜、昆布、山芋等			

石田弥菓子店

上越市中央1丁目5番1号



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
121	謙信の城	10ヶ入	1,260円	皮は乳菓で中餡は赤と白のミックスで生クリームを入れて造っています。
122	謙信銘菓 十三夜	10ヶ入	1,260円	ホイル焼きで、中の餡は黄餡で大納言を入れて造っています。
123	笹だんご	10ヶ入	1,365円	越後平野に取れるお米と餅草を主原料にした当店独自の製法によるものです。

囲炉裏庵

上越市中通町6番17号



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
131	寒椿	個包装 90g	368円	新潟産水稲モチ米を使用した昔ながらのしょう油味のおかき。
132	寒椿マヨネーズ	個包装 82g	368円	新潟産水稲モチ米を使用したマヨネーズ味のおかき。
133	日輪ごま	9枚	368円	新潟産のコシヒカリを使用したゴマせんべい。

大杉屋惣兵衛

上越市本町5丁目3番31号



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
141	翁飴	20ヶ入	1,365円	江戸時代からの越後銘菓。もち米、飴を角にかためたもの。
142	おぐらようかん 春日山	460g	1,365円	大納言の風味を生かした羊羹。(題字は上杉謙信公)
143	くろようかん 第一義	480g	1,365円	丹精こめて練り上げた黒砂糖羊羹。(題字は上杉謙信公)

菓子処 くさのや

上越市中央1丁目4番1号



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
161	笹だんご	10ヶかご入	1,390円	越後の上質米を原料に風味豊かなよもぎを加えた餅でつぶあんを包み、熊笹でくるんだものです。 (※地域によりクール便)
162	笹だんご	1ヶ	136円	
	数量に応じ、サービス袋・箱にお入れします。			
163	ちまき	5ヶ入	630円	香り豊かな笹の葉でおいしい越後のもち米をくすみ、ゆで上げたものです。 (※地域によりクール便)

小竹製菓

上越市南高田町3番1号



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
171	小竹のサンドパン	5ヶ	630円	特製ホワイトクリームを付けた昔なつかしいコッペパンです。
172	小竹のサンドパン	10ヶ	1,260円	
173	小竹のサンドパン	15ヶ	1,890円	

十四代高橋孫左衛門

上越市南本町3丁目7番2号



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
181	翁飴	12ヶ	798円	江戸時代より続く、高田の銘菓です。
182	粟飴	2ヶ	1,733円	日本で初めて創製された、もち米の水飴です。
183	詰合せ(翁飴12ヶ、粟飴1ヶ、りり飴6ヶ)		2,310円	贈り物に最適な詰合せです。
184	笹飴	20枚入	525円	

関のや製菓

上越市上曽根 399 番地の 1



注文番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
191	久比岐野銘菓 八社五社 (やしやごしや)		1,365 円	上越一門で広く歌われ踊り継がれる民謡「八社五社」。昭和 49 年に上越市無形文化財第一号に指定され、記念として造られたお菓子です。じっくりと練り込んだ小豆餡とクリーム餡の二種類があり、うす皮でしっとり焼き上げました。
	※夏季のみクール便 小豆 5 ケ、クリームあん (白) 5 ケ			
192	岩野原ワインゼリー		2,037 円	日本の葡萄とワインの父、川上善兵衛の情熱により生まれた 100 余年の歴史を持つ伝統の味、岩の原ワインをたっぷり使用したワインゼリーです。味と香りで 100 余年のロマンを感じてください。
	赤ワインゼリー 6 ケ、白ワインゼリー 3 ケ			
193	岩の原オリジナルケーキ アーモンド、紅茶、チーズ、チョコレートの 4 種類 でお好みのものをご指定下さい。	1 本	1,365 円	岩の原ホワイトブランデーを使用した当店オリジナルケーキです。四種類の味が有り、それぞれの味を十分に楽しんでいただけるケーキです。

紅屋

上越市仲町 4 丁目 5 番 4 号



注文番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
211	塩羊羹	1 本	525 円	昔ながらの製法で作られた義の塩を使用し、さっぱりとした塩味の風味を大切に塩羊羹を仕上げました。
212	笹だんご (化粧箱入)	10 ケ入	1,413 円	越後高田を代表する故郷の味。笹の葉に包まれたよもぎだんごの野趣豊かな風味は何時も新鮮な郷愁をたたえています。 ※ 1 ケ (45g) 136 円
213	笹だんご (化粧箱入)	20 ケ入	2,825 円	

マール市原

上越市大学前 204



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
221	雪中梅入り酒ケーキ	1本	1,200円	[雪中梅入り酒ケーキ] 地元の雪中梅を使用した、しっとりとした酒ケーキです。
222	雪中梅入り酒ケーキと 春日山謙信流陣太鼓		2,300円	[春日山謙信流陣太鼓] 高田公園をイメージし桜の花と蓮の実をお菓子にのせ焼き上げました
223	雪中梅入り酒ケーキ1本、春日山謙信流陣太鼓6ヶ入 笹だんご	20ヶ入	2,750円	中には白アンと小倉アンがそれぞれ入っています。 手作りの笹だんご。できたてをお届けします。

三野屋菓子店

上越市中央1丁目1番11号



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
231	継続だんご	8本入	1,260円	林美子の名作「放浪記」にも登場する当地の名物です。白餡を丸めて串にさし、一本一本ていねいに焼き色をつけるように焼きあげる。100年間変わらぬ手作りにて、味と歴史を伝え続けています。
232	笹だんご	20ヶ入	2,940円	新潟県を代表するお土産の一つです。餡が美味しい事が自慢の当店の笹だんご。ぜひともご賞味下さい。
233	桜サブレ	10枚入	1,050円	日本三大夜桜を誇る上越市の木は「桜」です。桜の花の塩漬けを一輪咲かせて、焼き上げてあります。

(有)わかみなみ

上越市板倉区高野 1351

注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
261	姫あられ		368円	

杉田味噌醸造所

上越市本町 4 丁目 3 番 16 号



注文番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
251	雪の花みそ 中辛	4kg 朱樽	3,675 円	
252	雪の花みそ 中辛 [贈答用、化粧箱入]	1kg×5	3,413 円	
256	雪の花みそ 中辛 [自家用、簡易包装]	1kg	724 円	
257	雪の花みそ 甘口 [自家用、簡易包装]	1kg	778 円	
253	越後味噌漬け 昔づくり辛口	1kg	2,100 円	
254	越後高田 甘口味噌漬け	1kg	2,468 円	
255	みそ・みそ漬けセット		3,896 円	中辛 3kg、甘口みそ漬け 700g

(有)町田醤油味噌醸造所

上越市東本町 3 丁目 2 番 24 号

注文番号	商品名	数量	金額 (税込)	商品解説
271	濃い口あぜみち醤油	1 本	630 円	
272	越後味噌はさぎ [つぶ味噌]	1 kg	760 円	
273	越後味噌ふるさと [つぶ味噌]	1 kg	530 円	
274	越後味噌ふるさと [こし味噌]	1 kg	530 円	

地元に着したタウン誌

月刊 JACK LAND

上越エリア情報誌 ジャックランド

350円

毎月25日発売

毎月購読承ります

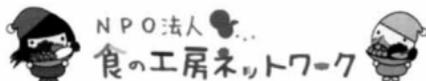
株式会社 ジャック

〒943-0165 新潟県上越市上島464-1 エリート2F
TEL.025-524-4275 FAX.025-524-4451
e-mail hensyuubu@jack-land.com

ジャックランド

会の運営に
ご協力いただいている
特別賛助会員
の皆様です。

- ・ 特別賛助会員の皆様とJネットはお互いに協力しながら良い街づくりを目指します。
- ・ Jネットでは会の運営に協力して頂ける特別賛助会員の方を募集しています。
- ・ 会員の皆様の御存知の企業・団体で特別賛助会員をお願いできるようなところがありましたら事務局までご紹介下さい。



NPO法人
食の工房ネットワーク

NPO 法人食の工房ネットワークは、私たちが目指す「食べる側」と「作る側」を本来の姿につなぐ活動を中心に、お互いの立場から結びつきを大切に、畑から食卓までの流れの中で、安全性や品質に「透明性」を求めることを共通の目的として設立いたしました。消費者と生産者がお互いに通じながら、安全な地場の生産品を、安心して食べることが出来るように「食に関するプラットフォームづくり」を進めています。



23年度 収穫祭

〒943-0813新潟県上越市大字下正善寺1027-2正善寺工房内
TEL・FAX 025-523-0621



(有)上越商業サービス公社

上越観光物産センター内
上越市藤野新田175-1 〒943-0171
TEL 025-545-0123 FAX 025-545-1113
営業時間 9時～18時
休館日 月曜日、祝日の翌日

上越の名産・特産品を一堂に取り揃えています。
お土産選びにぜひご利用ください。

取扱商品例
塩するめ、かまぼこ、ワイン、日本酒、米、そば、
ちまき、おかき、笹だんご、各種銘菓

通信販売も行っています。Jネット会員の皆様が利用される場合は、送料は不要です（送料は、Jネットが負担します）。ご贈答等にもご利用ください。

介護付有料老人ホーム

ツクイ・サンシャイン上越

介護は
ツクイに任せて安心!

全国に「つくい」ネットワーク
ツクイ

一人ひとりの「人生」が違いうように「介護」も違います。
お客様の「幸せ」とご家族の「思い」
私たちの目指す「介護」はその全てを追い続けます。
笑顔のため、その幸せな笑顔のために。

ツクイは
2011年度 JCSI
（日本介護サービス協会）
※2年連続
第1位
介護サービス賞

お問い合わせ・資料請求・入居に関するご相談はお気軽に

介護付有料老人ホーム

ツクイ・サンシャイン上越

〒942-0081 上越市五智2-1-1

☎025-531-0883

受付時間 / 9:00-17:30 [365日年中受付]

職員 90名 (法定配置) 職人員比率 割合

〈事業主体〉 本社
株式会社ツクイ

〒233-0002 横浜市港南区上大岡西1-6-1
TEL: 045-842-4115 (代表)

http://www.tsukui.net
ツクイ

東証一部
上場企業

会の運営に
ご協力いただいている
特別賛助会員
の皆様です。

- 特別賛助会員の皆様とJネットはお互いに協力しながら良い街づくりを目指します。
- Jネットでは会の運営に協力して頂ける特別賛助会員の方を募集しています。
- 会員の皆様の御存知の企業・団体で特別賛助会員をお願いできるようなところがありましたら事務局までご紹介下さい。

熟年世代をどう生きますか? ふるさと上越 高田で暮らす決断



自館は、多目的ホール・シアター
ルーム・売店・健康相談室・美容室
などが館内に揃った「まち・空間です」

住宅型ホーム「響」に入居の場合 ◆1人入居の場合の料金◆

	入居一時金		月額利用料
	短期プラン(3年更新型)		
1DK	Aプラン	217.0万円	151,000円(食費別)
	Bプラン	470.2万円	89,000円(食費別)
1LDK	Aプラン	298.4万円	184,000円(食費別)
	Bプラン	646.5万円	99,000円(食費別)

食費について 住宅型「響」にご入居の方:0円~56,700円かかります。
※自然などレストランご利用でない場合、食費の請求はございません。

上越初の本格的なシニアレジデンス

住宅型・介護付有料老人ホーム
サンクス高田自在館
〒943-0892 新潟県上越市寺町3-10-15 (高田駅西側)

TEL:025-521-2264 (受付時間9:00~18:00)土、日・OK

TEL:025-521-2264

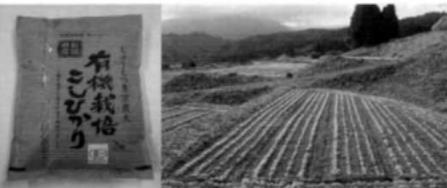
FAX:025-521-2733

24時間受付 上越 自在館

(株)じょうえつ東京農大

http://www.jnodai.co.jp

東京農業大学が地元関係者と一緒平成20年4月に設立した会社です。桑牧谷浜地区で有機農場を経営 (JAS 認証取得)。農業・化学肥料を一切使用しないでコメと野菜を栽培。大根踊りシリーズ (漬物・切干し等)、調味料 (ポン酢・ドレッシング等) も生産。第3回耕作放棄地発生防止・解消活動表彰事業において『全国農業会議所会長賞』を受賞。



【本店】 〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1

電話 / FAX : 03-5477-2721

【上越農場】 〒949-1706 上越市大字吉浦字梨平1821-1

電話 : 025-531-5450 FAX : 025-531-5455

【ショッピングページ】 http://www.jnodai.co.jp

創業1890年(明治23年) 伝統のおいしさ

岩の原ワイン



お酒は20歳をすぎしてから

希望小売価格 720ml 各 2,118 円
360ml 各 1,164 円

(株)岩の原葡萄園

新潟県上越市北方1223番地 In025-528-4002
(HP) <http://www.iwanohara.sgn.ne.jp/>

会の運営に
ご協力いただいている
特別賛助会員
の皆様です。

- ・ 特別賛助会員の皆様とJネットはお互いに協力しながら良い街づくりを目指します。
- ・ Jネットでは会の運営に協力して頂ける特別賛助会員の方を募集しています。
- ・ 会員の皆様の御存知の企業・団体で特別賛助会員をお願いできるようなところがありましたら事務局までご紹介下さい。

地域の応援団!!

上越タイムス 糸西タイムス

上越タイムス 検索

各種お問い合わせは

☎ 025-525-6666

購読料は1ヶ月 2,875円(税別送料込)
※お支払いは郵便振替となります

株式会社 上越タイムス社

〒943-0823 新潟県上越市高士町2-4-6
本社 TEL 025-525-6666 FAX 025-525-0061
URL www.j-times.jp

上越タイムスのfacebookページ始めました。
www.facebook.com/jtimesinfo

携帯メールニュース 好評定購中!

ほっとタイムス

QRコードを読み込むか、times@hain.jp に空メールを送信

ご登録メールを
送って
下さるようお願い!

ふるさとへの愛 毎日お届けします

山里のすべてが湯ったり村です。

寂 静	瀬 音	風 鳴	花 薫	紫 昏	月 明
星 雨	狭 霧	伝 説	豊 饒	叢 雲	蒼 穹

上越市湯たり村
TEL 541-2611 FAX 541-2616

理想の照明がLEDというのは間違いです。

照明の新知識

小平市 寺沢 実 (旧高田市出身)

LED照明の台頭

今、新しい照明としてLEDが脚光をあびています。白熱電球に比べほとんど熱を発生しないので、低電力で強力な発光が可能であり、懐中電灯や自動車のヘッドライト、信号機、工場や家庭用照明などがLEDに変わつつあります。

LEDの歴史は古く、赤色のLEDはかなり前から色々使用されてきました。白色でないため照明としては向きでしたがデスブレイ等では使用されてきました。

ところが近年、青色LEDの発明で赤、青、緑の三色を合わせることでよりフルカラーの光源としての使用が可能になりました。このため、照明器具のみならず、TVまでがLED化され、このTVが主流になったため我が国の液晶TVは苦戦を強いられることになってしまいました。

新蛍光灯CCFLの出現

従来の蛍光灯 (FL) は発光させるため電極を加熱することにより、エミッタと呼ばれる電子放出物質から電子を放出するのに対し、CCFLは加熱せずに電子を放出します。これは電極構造に起因しており、両者の最も大きな違いです。CCFLはエミッタ (フィラメント) が無く断線が無いため長寿命です。その上低排熱なので電気代は蛍光灯の三〇%です。寿命は四万時間 (一日十時間使用の場合) と蛍光灯の約六倍持ちます。

一般に使われている蛍光灯は Hot Cathode Fluorescent Lamp (熱陰極蛍光ランプ) と言います。これに対し Cold Cathode Fluorescent Lamp (冷陰極蛍光ランプ) の頭文字をとって CCFL と呼んでいます。光の特性は蛍光灯と全く同じです。

一方、LEDは蛍光灯同様白色に見えますが、一般には三色のLEDが出す混合光であり、蛍光灯の白色とは全く異なります。ですから思わぬトラブルもあります。先日、友人がホテルのパーティ会場で取ってきたスナップ写真の発色が悪いことに気が付きました。色々調べた結果、その会場の照明がLEDに変わったためデジカメの反応が変わってしまったためだと判りました。

CCFLは基本的な構造が蛍光灯と同様ですので価格も安く、普及すれば蛍光灯の価格に近づくことになりま

CCFLが東北福島を救う

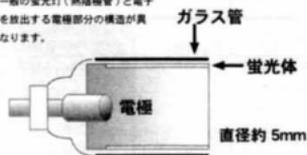
二本松市の電子機器メーカーの「デンカイ㈱」は滋賀県の日本ガラストロンクス㈱の技術提供を受けCCFL製品の生産を開始しました。そしてこのCCFLの売上金の一部を(社)経済同友会を通じ義援金として復興に協力することとなっています。

私が役員をしている㈱クリエイティブランド(埼玉県戸田市)ではその販売を受け持っています。家庭のCCFL化の工事等お気軽にご相談下さい。

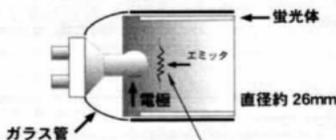
(「ネット」の事務所にもカタログが置いてありますので、必要な方は事務局までご連絡下さい)

CCFL構造図

一般の蛍光灯(熱陰極管)と電子を放出する電極部分の構造が異なります。



蛍光灯構造図



CCFLはエミッタ(フィラメントコイル)がなく断線がないため長持ち。そのうえ低排熱。

上越市の主な催し

イベント・大会名	開催日時	会場	実施内容	申込み・料金	問合せ先
第42回上越市美術 展覧会	9月30日(日)～ 10月8日(月)(祝) 10:00～18:00	上越市教育プラ ザ体育館	日本画、洋画・版画、彫刻・立体造形、工芸、書道、 写真、平面デザイン・CGの7部門の公募作品を展示 します。	無料	市生涯学習推進課 Tel.025-545-9245
第14回城下町 高 田花ロード	10月6日(土)～8 日(月)(祝)	高田地区市街 地一帯	「まちなか・アート・ピクニック♪」と題して、園芸家の 柳生真吾さんのトークショーや花カフェ、オープン ガーデンなどを開催します。アートと緑の3日間をお 楽しみください！ 詳細はホームページ http://hanaroad.honcho.jp/ を ご覧ください。	不要	城下町高田花ロ ード実行委員会(本町 4丁目商店街振興 組合) Tel.025-523-2517
越後高田町家三味 秋ノ巻	10月6日(土)～8 日(月)(祝)	町家交流館高 田小町、旧今井 染物屋、旧金津 憲太郎桶店ほ か	城下町高田花ロードに合わせて、江戸時代の旧家 から昭和初期の商店まで、日本一の雁木通りを散 策しながら町家の魅力を楽しむイベントを開催しま す。	不要・無料	市文化振興課 Tel.025-526-6903
小川未明文学館特 別展「小川未明作 品絵本原画展(仮)」	10月6日(土)～ 11月11日(日)	小川未明文学 館	小川未明作の絵本原画の展示や未明文学を紹介す る展示を行います。	不要・無料	市文化振興課 Tel.025-526-6903
高田歴史回廊2012 —お城から見たわ が町の歴史展—	10月6日(土)～ 4月30日(火) (予定)	(メイン会場) 旧第四銀行高 田支店 (サブ会場) 高田城三重櫓 ほか高田市街 地周辺	春日山城、福島城、そして高田城へ。私たちの町や 暮らしの歴史等をパネルで紹介します。	高田城三重 櫓のみ入館 料300円 その他の施 設は無料	市文化振興課 Tel.025-526-6903
花ときのこの秋ま つり	10月7日(日)	安塚区・石橋地 内	130万本の柳葉ひまわりが色鮮やかに咲く中で行な う石橋町内会主催の秋祭り。芸能発表やたくさんの 屋台が並びます。	申込み・不要 料金等・無料 (物産品等有 料)	NPO雪のふるさと 安塚 Tel.025-592-2004
くびき牛炭火焼フェ ア—	10月7日(日) 10:00～15:00 (予定)	牧区・牧ふるさ と村自然と憩の 森	自然豊かな牧区で肥育された和牛を炭火焼きで堪能 していただける恒例のイベントです。	定員350名(要 予約)お一人 3,500円(予定)	まちづくり実行委員 会事務局 Tel.025-533-5151
姉妹都市と上越市 の観光と物産展	10月7日(日) 9:40～17:00 8日(月)(祝) 10:00～16:00	上越観光物産 センター	全国各地にある上越市の姉妹都市と上越市内のう んまいもんを会場いっぱい集めた物産展「食欲の 秋」においしいものをとお祝いっばいに味わってみま せんか。この他にも姉妹都市による観光PRをはじめ とするイベントもあり、子どもからお年寄りまで楽し んでいただけます。	入場は無料	(社)上越観光コン ベンション協会 Tel.025-543-2777
第15回越後よしか わ酒まつり	10月7日(日)	道の駅よしかわ 社氏の郷周辺	全国200銘酒きき酒会、特産物品試飲会、ステー ジイベントのほか、お祭り広場、商工・農産物などの 出店が盛りたくさんあります。	申込不要 利き酒会500 円	越後よしかわ酒ま つり実行委員会事 務局(まちづくり吉 川内) Tel.025-548-2311
里山田舎体験『稲 刈りと収穫祭』	10月上旬 (未定)	名立区・不動地 域 (水田・不動牧 場跡地)	昔ながらの手刈りによる稲刈りや、さつま芋などの 畑作物の収穫を行い、収穫の秋を楽しんでいただき ます。	事前申込み、 有料	不動森あげ米かい 事務局 久保登 藤一 Tel.025-538-2432

イベント・大会名	開催日時	会場	実施内容	申込み・料金	問合せ先
第5回森と緑の感謝祭in吉川	10月13日(土)	吉川中学校周辺・吉川区園田地内	記念式典や記念植樹を行います。また、午後からは森林整備を実施し、森林について理解を深めます。 (予定) ・記念式典：緑化功労者表彰、感謝祭宣言等 ・体験活動：森林整備	申込み：必要 参加費：無料	上越地域森と緑の感謝祭実行委員会事務局(市農林水産整備課) TEL025-526-5111
水族博物館おまつり広場	10月13日(土)・14日(日)	水族博物館	ザリガニ釣り、ドクターフィッシュコーナー、フェイスベインティングコーナー、折り紙コーナー、スタンラリーなどを用意し、お祭りのような雰囲気参加体験型イベントを行います。	一般 900円 小中学校 400円 幼児 200円	水族博物館 TEL025-543-2449
鶴の浜温泉軽トラック市	10月14日(日) 9:00～12:00(予定)	大潟区・頸城自動車駐車場	地元の新鮮な魚や野菜など多くの商品をそろえて、軽トラック等に載せて販売する鶴の浜温泉で開催される市。	不要	大潟観光協会 TEL025-534-4465
第5回直江津さかな・やさい祭り	10月中旬頃	直江津駅周辺	海の幸・山の幸に恵まれた、この地区ならではの豊かな資源や歴史を生かしたイベント。鮮魚の解体の実演や直売等を行います。	不要	直江津さかな・やさい祭り実行委員会(上越商工会議所内) TEL025-522-1185
信越トレイルトレッキング	10月20日(土)	牧区・牧瀬の里深山荘、信越トレイル	信越トレイルやアプローチトレイルを歩きます。トレイル終了後は、深山荘で入浴・休憩できます。(昼食付)	定員20名(要予約) お一人2,500円(予定)	牧瀬の里深山荘 TEL025-533-6785
町家見学会(SAKEまつり)	10月27日(土)・28日(日)10時～17時	旧今井染物屋、旧金津憲太郎桶店	町家スタッフが高田の町家の魅力について説明します。	不要・無料	市文化振興課 TEL025-526-6903
新米まつり	10月中旬(予定)	安塚区・道の駅雪だるま物産館	新米コシヒカリの販売や新米もちでの餅つき、お米の重量あてゲームなどを行います。	申込み：不要 料金等：無料(物産品等有料)	雪だるま物産館 TEL025-595-1010
紅葉のスーパー林道散策ツアー	10月中旬～下旬(予定)	板倉区・板倉保養センター(やすらぎ荘)	紅葉に色づいた、素晴らしい山々の絶景を楽しみます。 コース：やすらぎ荘～ヨシ八池～平丸ふれあいの森を散策～やすらぎ荘	大人2,500円 小人1,800円	板倉保養センター(やすらぎ荘) TEL0255-78-4833
くびき野レールパーク公開イベント	10月20日(土)・21日(日) 9時～16時	旧頸城鉄道機関庫(上越市頸城区百間町)	軽便主役たちの走行乗車体験や乗車記念切符発行、コッペル号の方向転換実地体験のほか、歴史資料館の公開やくびきの特産品と軽便グッズ販売、わいわいちびっ子広場、地元特産品の販売、つきたて久比岐もちの無料振舞いなど多彩なイベントが行われます。	不要	NPO法人くびきのお宝のこす会事務局 TEL025-530-2156
平成24年度上越市シニア作品展	10月25日(木)～28日(日)	市民プラザ	60歳以上のシニア世代の趣味活動の成果を一堂に集めた作品展を開催し、広く市民の敬老意識の高揚を図るとともに創作活動の奨励と生きがいづくり推進を図ります。水墨画、絵画、書道、盆栽、編物、陶芸など例年500点以上の作品を展示しています。	入場、出展とも無料 出展者は出展申込書(広報で案内)を上越市高齢者支援課へ提出	市高齢者支援課 TEL025-526-5111
シンポジウム「御所参内・聚楽第行幸図屏風」	10月27日(土)	リージョンプラザ大ホール	「御所参内・聚楽第行幸図屏風」学術調査委員会の検討の結果をうけて、屏風の持つ意味や制作の背景などについて市民に報告する。	10月2日(火)から聴講申込み受付開始。 電話で総合博物館へ申込み。 聴講無料。	総合博物館 TEL025-524-3120

イベント・大会名	開催日時	会場	実施内容	申込み・料金	問合せ先
越後・謙信SAKEまつり2012	10月27日(土) 11:00~20:00 10月28日(日) 10:00~16:00	高田本町3・4・5 丁目商店街	上越地域の酒造で造られる日本酒を始め、ワイン、どぶろく等のSAKEを一堂に集めて試飲・販売を行います。1000円で試飲グラスを購入すると、16酒造、ワインの試飲が可能。また、地元の旬の食材を利用して「食」のブースも多数出展。特設ステージでは頸城杜氏伝統の酒づくり唄の披露や謙信公武者行列等も行い、上越の酒と酒文化が堪能できるイベントです。	申込不要 試飲代1,000円	越後・謙信SAKEまつり実行委員会事務局 (市産業振興課内) Tel.025-526-5111
新潟県知事杯争奪尾神岳スカイランプリ(PG大会)	10月27日(土)・ 28日(日)	吉川区・尾神岳 スカイスポーツ エリア	レースtoゴールやスピードランを行う、ジャパンリーグ対象のパラグライダー大会です。	観覧無料 大会参加有料	吉川区総合事務所 教育・文化グループ Tel.025-548-2311
特別公開<<御所参内・聚楽第行幸囃子回屏風>>ふたたび	10月27日(土) ~12月9日(日)	総合博物館	平成21年度に初めて公開し、大きな反響があった「御所参内・聚楽第行幸囃子回屏風」について、専門家によるあらたな見解を加えて、改めて公開を行う。	一般300円、 小中高生150円(小林古径 記念美術館との 共通入館券) ※市内の学校に通う小 中学生は無料	総合博物館 Tel.025-524-3120
企画展Ⅳ 新収蔵品展 平成20~23年度	10月27日(土) ~12月9日(日)	総合博物館	平成20年度から平成23年度の間、新たに収蔵した歴史資料、民俗資料、美術資料を紹介する。	一般300円、 小中高生150円(小林古径 記念美術館との 共通入館券) ※市内の学校に通う小 中学生は無料	総合博物館 Tel.025-524-3120
越後国域確定1300年-新潟県のかたちを求めて-「リレー講演会」	平成24年10月 27日(土)13時 ~16時30分	上越市埋蔵文化財センター	越後国域確定1300年を記念して、新潟県教育委員会が主催となり県内各地で、県の成り立ちを考え、魅力を見つける「リレー講演会」を開催しています。その第6回が上越市で開催されます。「ヤマト政権の越後進出について-神の斎・弥彦神社-」鈴木景二氏(富山大学人文学部教授)と「古代の頸城」野村忠司(上越市埋蔵文化財センター主任)の2つの講演を行い、上越市の歴史について理解を深めます。	・申込必要 (定員200人)・参加費 無料	上越市教育委員会 文化行政課 Tel. 025-545- 9269
寺野だいごぜまつり	10月下旬	板倉区・板倉保養センター(やすらぎ荘)	寺野地区が主催する秋の収穫祭、当日はだいごぜ汁(大根汁)のサービスや地元グループによるアトラクション、舞台の出演、地元特産物や秋野菜の販売などが催されます。	不要	板倉保養センター (やすらぎ荘) Tel.0255-78-4833
葦里(ひしさと)そばまつり	10月下旬 (予定)	安塚区・道の駅雪だるま物産館	葦里(ひしさと)地区の皆さんが開催するそばまつりです。	1杯300円程度	安塚区総合事務所 Tel.025-592-2003
芋煮会	10月28日(日)	柿崎総合体育館前	かきざきスポーツフェスティバルと同時に開催されるイベント。大きな鍋で150食分の芋煮を作り、販売します。	申込不要 芋煮1杯:300円	柿崎観光協会 Tel.025-536-6712
朝市感謝祭	10月11日(木) ~14日(日)	各朝市会場(大町3・4・5、中央2・3、柿崎区第3・4区)	青果、塩乾物等の特売、小学生の皆さんが育てた野菜の販売を行う予定です。	特売などは有料	市観光振興課 Tel.025-526-5111
新そばまつり	11月上旬	吉川区・見はらし荘	新そばの試食のほか、野菜など秋の味覚の直売もあります。スーパースライダーが半額で楽しめます。	申込不要	スカイトピア遊ランド Tel.025-547-2221

イベント・大会名	開催日時	会場	実施内容	申込み・料金	問合せ先
正善寺工房収穫祭	11月3日(土)祝	正善寺工房	秋の味覚を満喫していただくため、収穫祭を開催します。地元の秋野菜や惣菜の販売、新米を使った餅つき、きのこ汁の販売、各種ミニイベントを行います。(予定)	不要	正善寺工房 TEL025-523-0621
産業まつり	11月3日(土)祝	JAえちご上越はまなす支店前広場(上越市柿崎区柿崎)	農産品を中心とした地場産品の展示・即売や収穫の感謝を込めた飲食物のふるまいなどが行われます。また、農業機械の試乗会、しいたけのコマ打ち体験など楽しいイベントも実施されます。	不要	上越市柿崎区産業まつり実行委員会 TEL025-536-6709
牧っこ秋まつり	11月3日(土)祝(予定)	牧区・牧コミュニティプラザ前広場	毎年恒例の秋まつり。住民による美味しい出店や地域の特性を活かした参加型ゲームを行い、秋の一日を楽しんでいただきます。	不要	まちづくり実行委員会事務局 TEL025-533-5151
板倉ふれあいまつり	11月3日(土)祝・4日(日)	板倉区・農村環境改善センター	「暮らし」「学び」「遊・食」をテーマに活動組織の発表や農産物品評会、大ピンゴ大会など楽しいイベント盛り沢山です。多くの屋台も出店しますので、お腹を空かせて遊びに来てください。	不要	板倉ふれあいまつり実行委員会事務局 TEL0255-78-4905
上越菊まつり	11月3日(土)祝～11月11日(日)	上越市福祉交流プラザ体育館	上越市の秋を彩る風物詩として親しまれているイベント。丹精に育てられたさまざまな菊を展示しています。	無料	上越菊まつり実行委員会事務局(市観光振興課) TEL025-526-5111
イルミネーションin 鶴の浜温泉	11月3日(土)祝～12月25日(火)	大潟区・鶴の浜温泉街	鶴の浜人魚館前の自然公園をメイン会場に、温泉街の宿などの玄関前をイルミネーションで飾ります。	不要	大潟観光協会 TEL025-534-4465
新潟県知事杯争奪尾神岳スカイランプリ(HG大会)	11月3日(土)祝	吉川区・尾神岳スカイスポーツエリア	県内愛好者によるハングライダー競技を行います。	観覧無料	吉川区総合事務所教育・文化グループ TEL025-548-2311
にいがた・技のにぎわいフェスタ2012	11月4日(日)	リージョンプラザ上越	技能体験教室・技能展(展示・実演・即売)を通じ、技能の重要性、必要性及びその魅力を、次代を担う若者(特に小・中・高校生)を中心として広く県民に周知するものとし、新潟県技能士会連合会、認定職業訓練校及び事業所等、関係組織の協力を得て開催します。	不要	新潟県職業能力開発協会 TEL025-283-2155
きのこまつり(予定)	11月上旬(予定)	安塚区・道の駅雪だるま物産館	採れたてのきのこの販売やきのこ汁を販売します。	申込み・不要料金等・無料(物産品等有料)	雪だるま物産館 TEL025-595-1010
牧区新そばまつり	11月10日(土)11:00～14:00(予定)	牧区・牧ふるさと村自然と憩の森	牧区で「そば」を提供している施設(木草庵・牧湯の里深山荘)それぞれの「そば」を持ち寄り、当日に限り2種類を1セットとしてお召し上がりいただけます。	限定150食 お一人(1セット)1,000円	牧ふるさと村自然と憩の森 TEL025-533-5603
雪太郎大根いっぺごとまつり	11月11日(日)11:00～14:00(予定)	牧区・牧湯の里深山荘(ゲートボール場)	夏の暑い時期に種を蒔き、手塩にかけて育て上げた雪太郎大根。その雪太郎大根をいっぺごと(たくさん)使ってもてなすのが、「雪太郎いっぺごとまつり」です。雪太郎大根粕汁、とろろ大根、大根餃子、大根飯など自慢の料理が食べ放題です。また、歌謡ショーや抽選会もあります。	参加申込不要 料金大人1,500円 小学生1,000円(予定)	(農)雪太郎の郷代表理事宅 TEL025-533-6588
くわどり秋の収穫祭	11月11日(日)	くわどり湯つり村	「地産即食」(その土地で採れた物を、その場で、土地の風や香りを感じながら食べる)をテーマに、「くわどり秋の収穫祭」を開催します。 桑取の採れたて秋野菜や名物の笹餅、漬物、その他加工品などの出店販売をはじめ、餅つきやそば打ち実演など、楽しいイベントが盛りだくさんです。	不要	NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部事務局内 TEL025-541-2602

イベント・大会名	開催日時	会場	実施内容	申込み・料金	問合せ先
林富永邸一般公開	11月16日(金) ～18日(日)	林富永邸	上越市指定文化財林富永邸の一般公開をおこないます。 近代初頭の豪農の母屋が住時の姿そのままに残され、茅葺屋根が落ち着いたたずまいを見せています。	申込・不要 協力金:500 円	三和区振興会 Tel.025-529-2345
新そばまつり	11月中旬	板倉区・板倉そば打ち体験交流施設いたくら亭	今年採りたての香ばしい新そばを堪能していただく催しです。	不要	糸しんの里記念館 Tel.0255-81-4541 板倉そば打ち体験交流施設いたくら亭
雪恋まつり	11月中旬 (予定)	安塚区・キュービットバレイスキー場	スキーシーズンが待ち遠しい皆さんへシーズン券の販売や大抽選会。スキーシーズンのランチメニューの一早い試食も楽しめます。 ※東頸城の新そばまつりも同日開催。	申込み・不要 料金等・無料 (物産品等有料)	キュービットバレイ Tel.025-593-2041
清里そばまつり	11月中旬 (予定)	清里区・山荘京ヶ岳	清里産の新そば粉「とよむすめ」を自然薯でつないだ「自然薯そば」が食べれます。自然薯や野菜の直売も行われます。	各種そば600 円～	清里区総合事務所 産業建設グループ Tel.025-528-3111
伏野(ぶすの)そばまつり(予定)	11月中旬 (予定)	安塚区・そばとやすらぎの里(旧伏野小学校)	おじいちゃんおばあちゃんばかりの集落といわれるけど元気いっぱいです。自然薯つなぎの手打ちそばと郷土料理を召し上がってください。	必要(詳細未 定)	NPO雪のふるさと安塚 Tel.025-592-2004
上越そばまつり(仮称)	11月18日(日) (予定)	未定	市内各地の手打ちそばが一堂に集まるイベントです。小盛りサイズで販売するので地域ごとに特色のあるそばの食べ比べが楽しめます。 市内の農産物や農産加工品の販売も行います。	出店する場合は事前申込みが必要 手打ちそば販売 200円(予定)	上越そばまつり(仮称)実行委員会事務局(市農業振興課内) Tel.025-526-5111
吉川新そばまつり	11月下旬	道の駅よしかわ杜氏の郷	吉川の新そば提供店(4店)の手打ちそばの食べくらべ会を行います。	申込不要 有 料	吉川観光協会(スカイヒブ遊ランド内) Tel.025-547-2221
紅葉の瀧本邸公開	11月18日(日) 10時～15時	上越市頸城区百間町(瀧本邸内)	広い敷地は黒塙に囲まれ、中央には堂々たる表門(薬門)、歴史・文化的価値の高い書院造「懐徳亭」、素晴らしい回遊式日本庭園(池、滝、東屋、腰掛待合、茶室)を一般公開するほか、茶会、庭園コンサート(琴、尺八、ギターなどの演奏会)詩吟詠、公開演武、きのこ汁の無料振舞いなど多彩な催しを行います。	不要	NPO法人くびきのお宝のこす事務局 Tel.025-530-2156
深山荘秋の味覚を楽しむ会	11月23日 (金)(祝) (予定)	牧区・牧湯の里深山荘	牧区の秋の味覚、きのこや秋野菜など盛り沢山の料理をお召し上がりいただけます。	定員40名(要 予約) お一人2,000 円(予定)	牧湯の里深山荘 Tel.025-533-6785
青少年のための科学の祭典 上越大会	11月23日(金) ～24日(土)	上越科学館	上越地域の実験名人たちが科学館に集結。面白くて楽しい実験や工作・体験を通じて、理科や科学に親しむことができます。	無料 (一部有料設備あり)	上越科学館 Tel.025-544-2122
第42回上越市民芸能祭「ハワイアンフラ フェスティバル2012」, 「越後よさこいフェスティバル2012」	11月25日(日)	上越文化会館大ホール	上越市内のフラダンス、よさこいの団体が、午前と午後の部に分かれ、それぞれ演舞を披露します。年5回開催される上越市民芸能祭の最後を締めくくる行事です。	無料	市生涯学習推進課 Tel.025-545-9245
鮭のつかみ取り大会	11月25日(日)	名立区・名立川河口江野せせらぎ広場	県内有数の遡上数を誇る名立川の鮭を豪快につかみとりませんか。鮭のつかみ取りのほか、鮭汁や特産品販売をお楽しみいただけます。	事前申込み、 有料	名立観光協会 Tel.025-537-2203 名立川さけ漁業生産組合 Tel.025-537-2545

上越市の施設

上越市の施設の利用料金が割引になります。
利用の際には「Jネットの会員証」を提示して
下さい。



施設名	住 所	電話番号	料金 (一般・個人料金)	減免後料金 (一般・個人料金)
リージョンプラザ上越 (アイスアリーナの貸靴料を除く)	下門前446-2	025-544-2122	レジャーブール 400円 アイスアリーナ 800円 インドアスタジアム 100円 市民ブール 300円	レジャーブール 200円 アイスアリーナ 400円 インドアスタジアム 50円 市民ブール 150円
高田城三重櫓	本城町6-1	025-526-5915	200円	100円
日本スキー発祥記念館	大貫1453-1	025-523-3766	300円	150円
坂口記念館	頸城区鶴ノ木148	025-530-3100	200円	100円
くるみ家族園	東中島2487	025-544-7440	浴場400円	浴場200円
市民いこいの家	石橋1-1-3	025-545-5270	浴場250円	浴場120円
金谷山スキーリフト スーパーボブスレー	大貫595-2	025-525-4295	リフト100円 ボブスレー100円	リフト50円 ボブスレー50円
浦川原霧ヶ岳温泉ゆあみ	浦川原区小谷島1217-1	025-599-3810	500円	250円
吉川緑地等利用施設	吉川区尾神588-1	025-547-2545	スライダー400円	スライダー200円
吉川スカイトピア遊ランド	吉川区坪野1458-2	025-547-2221	入館料(入浴)400円	入館料(入浴)200円
三和米と酒の謎蔵	三和区大867-1	025-532-4189	300円	150円
シーサイドパーク名立	名立区名立小泊798-1	025-537-2121	ビッグボブスレー200円	ビッグボブスレー100円
海洋フィッシングセンター (えさ代を除く)	虫生岩戸719地先	025-544-2475	使用料100円 貸し竿200円	使用料50円 貸し竿100円
上越科学館	下門前446-2	025-544-2122	400円 (特別展期間は600円)	200円 (特別展期間は300円)
かやぶき美術館	安塚区安塚804-4	025-592-2048	300円	150円
上越清里星のふるさと館	清里区青柳3436-2	025-528-7227	入館料300円 プラネタリウム料金300円	入館料150円 プラネタリウム料金150円
水族博物館	西本町4-19-27	025-543-2449	900円(イルカショー期間は1,200円)	450円(イルカショー期間は600円)
総合博物館 小林古径記念美術館	本城町7-7	025-524-3120 (博物館) 025-523-8680 (美術館)	300円	150円
牧歴史民俗資料館	牧区宮口1483-1	025-533-5117	200円	100円
板倉郷土館	板倉区針842-1	025-578-4354	100円	50円
清里歴史民俗資料館	清里区岡野町1580	025-528-3111	100円	50円
小林古径邸	本城町7番1号	025-525-2429	200円	100円

松坂市出身の越後人による不思議発見・お宝発見

「上越だより」

上越市本城町 下西 隆子（三重県松坂市出身）

榊原文書と榊原温泉

お正月の初詣を兼ねて、「射山神社」(津市榊原町) に行ってきました。帰省先の松阪の実家から、車で四十分ほどの榊原温泉郷の中に、この神社はあります。

一月五日は、とても寒い日で、乾いた風に吹かれ、気温以上に寒さを感じながら参拝しました。雪国の湿った空気になれた身には、乾燥した寒風は、肌に刺さります。

榊原温泉郷に向かっていくと、北西方面に見える布引山地には風車が林立していました。背後に二千餘級の山がある上越市の風景と異なり、布引山地は七百餘から八百餘の山々が十餘くらい衝立のように連なっています。このあたり(青山高原)は風の道があるとかで、二つの風車施設(久居榊原風力発電施設・青山高原ウインドファーム)があり、設置さ

れている風車は二十基を越え、新しい風景を作っています。

「射山神社」は式内社(平安時代の延喜式に記載された神社)ですが、そのわりにごちんまりしていました。神社の「縁起」によると、温泉大明神として射山(貝石山)をご神体とし山中に社がありました。天正十六年(一五八八年)に現在の地に移されたとのこと。不思議なことに、新しい神社の近くにも温泉が出るようになったとか。境内の看板には、次のようなことが書かれていました。

榊原温泉の湧出については太古であったことだけで、だれにもわからないでしょう。ただ一五〇〇年前には神宮の湯垢離に使われ、伊勢の地に入ったところで身を清めて神宮に向かわれていたようです。奈良の都から東に向かうと伊賀に入り、現在風車が立ち並ぶ笠取山を越えたところが伊勢で、

榊原のいちばん西の集落はカリキド(仮木戸)入り口」といいます。神宮の「湯垢離」を榊原温泉「ななくりの湯」を使ったことで都人たちにその名が知れわたり、「ななくり」を題材にした和歌が数多く詠われ、清少納言『枕草子』では、「湯はななくりの湯、有馬の湯、玉造の湯」と讃えています。

一志なる ななくりの湯も 君が為
恋しやまずと 聞けばものうし

(源経信)

榊原温泉が恋の病をいやす「恋のパワースポット」ということで、境内にはハート型の絵馬がたくさん飾られていました。

なぜこの神社を訪ねたか、それは榊原藩の藩祖「榊原康政」の父祖の地であるからです。

平成二十二年七月から「榊原文書」藩政日記の解説ボランティアを始めて、一年半ほど経ちました。二グループ四人で、『ぐずし辞典』を練りながら、以前の

記事を振り返りながら、またインターネットで江戸時代の事象を調べながら、ネット(活字化)を進めています。初心者の私はまだまだ、たどたどしい読みですが、おもしろさが募ってきました。こんな状態を「はまる」というのでしょうか。公的な日記ではありませんが、江戸時代の



榊原氏ゆかりの射山神社

年中行事や藩士の生活(当時の上越の様子も)の一部がわかります。殿様同士の交友関係や殿様と家来の関係が伺えます。将軍様と殿様たちの関わり合い：など、生の資料は、飾り気のない内容であっても、興味深いことが大いにあります。

昨年(宝暦二年(一七五二年))の『高田御用留』(読了)と『江戸日記』(十月まで読了)を読んでいます。「御用留」とは、殿様が不在の場所での藩の記録のことです。宝暦二年は、殿様は江戸にいて、高田は留守宅でした。宝暦二年は、九代将軍徳川家重の時(吉宗は前年に亡くなっている)、

高田藩は九代藩主榊原政永（当時十六歳）が治めていました。

藩主政永は、昨年来、体調不良により江戸城への登城を控えておりました。『江戸日記』によると、五月七日に「今朝明け七時御出駕、御病氣御全快遊ばされ、御出勤…」とあり、全快し登城しています。

『高田御用留』では、五月十一日の項に「殿様御病氣御快然、去ル七日被遊御出勤之旨…」と書かれています。江戸から高田への連絡は五日ほどかかっていることになりません。四百キ里から五百キ里の道のりを。

ところが、八月末殿様（政永）の弟（豊三郎）が、病気で亡くなりました。『高田御用留』九月二日の項に「豊三郎様御儀、御病氣御養生不被為叶、去月二十七日被遊御遠行旨、今明け七時申来、…新島伊右衛門儀、道中四日切りにて…到着…」とあります。

『江戸日記』では八月二十七日の項に「…豊三郎様御容体御指重被成候、付…」とあり、居合わせた役人や近習の人たちは、御大中老詰所に様子をうかがいに来ます。そして、八月二十八日に豊三郎様死去の記事とともに、幕府に喪に服する旨の届けを出しています。

江戸へ高田の往來は通常はどのくらいかかるのか、高田の町人が藩士に伴

われて江戸へ向かう例では、『高田御用留』の八月二十五日に高田を出発したとあり、『江戸日記』九月四日に到着と書かれています。九日から十日が、普通の旅程だったのでしょうか。

『榊原家史料目録・研究』（上越市立博物館）の「榊原家略系図」によると、藩主政永の兄弟は七名ですが、四名も早世しています。その中には、政永（幼名・富次郎）の一歳年上の兄（幼名・小平太・政純）も含まれます。たった七歳で九代藩主になった政永は、十歳で急死してしまいます。跡継ぎのないまま当主が死亡すると、「お家取り潰



榊原藩日記

し」になることが多いのですが、一歳違いの弟（富次郎）を身代わりに据えることに成功（もちろん幕府も黙認）、藩お取り潰しの危機を回避したそうです。

『高田御用留』『江戸日記』は、藩の公式記録ではありませんが、また、榊原家の人々の記録でもあります。殿様の病気が治ったとか、お姫様の縁組みが調ったとか、殿様の子供が生まれたとか。そして、その内容に一喜一憂させられています。

榊原温泉郷は、伊勢神宮の祭祀に使われる上質の「榊枝」がとれたことから榊原の地名になり、またこの一帯に住んだ豪族・仁木氏が榊原氏を名乗るようになったとのこと。

空き箱から、鬼がでた！！

「混ぜればごみ 分ければ資源」をキャッチフレーズに、上越市でも家庭ごみの分別が行われています。平成二十年からはごみ収集が有料化（ゴミ袋などが有料）されました。「燃やせるごみ」と「生ごみ」（週三回収集）、「燃やせないごみ」（月二回収集）・資源物（週一回収集）の、大きく三つの区分です。

資源物は、ガラス瓶・スチール缶・アルミ缶・ペットボトル・乾電池・蛍光灯・プラスチック容器包装・紙製容器包装・新聞紙・雑誌類・段ボールと細分され、種類別にそれぞれ回収されます。

一月二十八日、「NPO法人エコネット上越」主催の「パッケージクラフト講座」が、上越市市民プラザ（上越市土橋）にて開かれました。「ごみ問題を考えよう・ごみの量を減らそう」という啓発事業の一環として。

市民プラザは、市民活動の推進拠点となるセンターと、市民が催し物や学習・趣味など独自に参加できる場所が提供される、半官半民の多機能複合施設です。市のセンターとしては、NPOボランティアセンター・男女共同参画推進センター・国際交流センター・環境情報センター・こどもセンターの五機関が入っています。

私がかつてここを利用したケースは、①書道の展示会を見に来た、②NHKのアナウンサーによる朗読の研修会に参加した、③小山芙美子さんの独演会（童話の朗読）を聞きに来た、④国際交流協会のお手伝い（外国人の生活ガイドを作る）をした、⑤臨時税務署になり確定申告に来た、⑥ランチを食べに来た、などです。この施設のユニークな所は、事業の内

容ばかりではありません。建物にもいえます。移転のため閉店した商業施設（ジャスコ）をリフォームした点です（BELCA賞をベストリフォーム部門で受賞）。

この日（一月二十八日）、ブルボン製のバタークッキーの空箱を使って、「鬼のお面」を作りました。赤い空箱でしたので、赤鬼のお面です。受講者は十一名で、小学生が四名・五歳のお子さんとお父さん・私のようなおばさん五名です。バタークッキーは、未開封で、慎重に箱を開ける所から作業は始まりました。箱を丁寧に展開し、はさみで切り分けたり、折り目を付けたりした部品を、両面テープを使って組み立てます。講師の高橋和真先生の懇切な指



クッキーの箱から鬼の面

導により約二時間で、バタークッキーの鬼の面ができあがりしました。

「パッケージクラフト作家」高橋和真さんは、上越市在住（生まれ）で、主な活動は、紙製の空き箱（パッケージ）を使っての作品作りです。「パッケージクラフト」という言葉も高橋さんが作りました。高橋さんは、パッケージクラフトを作るにあたって、独自のルールを持っています。『親子でつくるパッケージクラフト』（高橋和真 著・ロコモーションパブリッシング 発行）によると、

- ①一つの作品に使う材料は空き箱一つだけとする。
 - ②材料はできるだけ使い切り、ごみを出さないようにする。
 - ③文字部分を途中で切断しない。（一文字一文字を切り離すのはOK）
 - ④作品完成した後でもすべての文字が読める状態にする。
- 守るルールが多いほど難易度が上がりますが、制約の中でアイデアをひねり出すことで思いもかけない造形が生まれます。完成度が高くなると、この作品を作るために箱がデザインされたかのような錯覚さえ起こさせます。
- 高橋さんの作品例を紹介すると、ハウス食品の「パーモントカレー」から

「熊（パーモントベア）」、ネスレの「キットカット」から「蛙（キットかえる）」、ロッテのチョコ・「霧の浮舟」から「カブトムシ（きりのかぶとむし）」、マルボロライト（たばこ）から「ロボット（マルロボ）」、ハウス食品の「生わさび」から「わに（わさびわに）」など。

二月六日、高橋さんのスタジオ「空のおもちゃ箱」（妙高市朝日町・平成二十一年から）を訪ねました。スタジオのドアの前には、巨大なポカリスエットの「ロボット（ポカリロボ）」が看板代わりに立っていました。室内にはこれまでの作品がずらりと並んでおり、片隅に作業机がありました。高橋さんは、現在三十九歳。彼は子供のころから折紙や工作の好きだったとのこと。東北芸術工科大学時代から手がけた、空き箱を使った「工作」の趣味が高じて、今の仕事につながったそうです。展覧会に出品したり、学校に向いて指導したり、催し物でのワークショップを



パッケージクラフト作家の高橋さん

ごみ問題を考える場に、リフォームでよみがえった「市民プラザ」を使い、また、ごみになる運命の空き箱を「パッケージクラフト」でよみがえらせるとは、三題嚙のようで、まことにもしろい企画で、まことに楽しいひとときでした。

「雪国の歩き方」

雪道を歩くことが、いつまで経っても上手になりません。そして、慣れるよりも

先に、足の筋力が衰えてきて、雪の上を歩くのがおっくうになってきました。今年のような豪雪で、歩道と車道の間「雪の壁」ができる、いつそう注意深く歩かなければなりません。

雪道を歩くには、コツがいるようです。足指を開いて歩くイメージと説明してくれた人がいました。圧雪になった道を歩くときは、スケートをやるかのようにすべらせながら歩くと転ばないと、教えてくれた人もいました。深い積雪の道は、なるべく人の歩いた靴跡に足を乗せるように歩きます。しかし、その歩幅が、自分の歩幅より長いときはちよつとこっけいなことになります。もちろん、靴はゴム製の深い溝のあるもの。おしゃれば二の次です。

上越在住の児童文学作家・杉みき子さんの『小さな雪の町の物語』（童心社）には、十五の掌編がありますが、「雪道を歩く」をテーマにさがしていくと、いくつかの物語に出会います。その一つ「走れ 老人」の冒頭に、雪道を歩くルールが簡潔に述べてあります。

雪の一本道を通るには、むかしからかわらぬやくそくがある。いきあつたら、どちうかがひと足雪の中へ踏みこんで、道避けること。避けてもらつたら、なるべく待たせないで通りぬけること。

うしろから人のくるときは、急いで歩か、さもなければ、うしろの人をさきに通すこと。

「ゆず」という短編は、夜の雪道を舞台にしていて、おばあさんと少女の交流が柚の残り香というニクイ演出で表現されています。雪が降るとなにもかも非効率になり、「歩くこと」さえもしんどくなりますが、「ゆず」の世界に免じて、我慢しましょう。

二月十一日の地元新聞「上越タイムス」の一面に、「二十六年ぶり積雪二日 上越市高田」の見出しが大きく出ました。

上越市高田の積雪が十日、二日を超えた。昭和五十九年から続いた「三年豪雪」時の昭和六十一年以来、二十六年ぶりになる。今後も降雪が予想されることから警戒が必要だ。

上越市大手町に「高田測候所」がありました。ここでは、昭和二十年二月二十六日、最深積雪三七七センチを観測し、これが国内の気象台の測候所における最深記録となっています。全国の測候所は、機械による測定機能の向上と、人員削減のため、そのほとんどが二〇一〇年（平成二十二年）までに廃止されました。高田測候所も二〇〇七

年に廃止されました。（三重県では、同年、尾鷲測候所が廃止）この高田測候所は、上越市の市街地にあり、私が住んでいるエリアです。そして、新聞記事の「高田」というのは、「旧高田測候所」のデータを意味しています。

新聞記事にある「三年豪雪」を私は経験しておりませんが、いろいろの話が伝えられています。もつとも身近な例では、私が住んでいる三階建ての鉄筋コンクリートのアパートでさえも、屋上の雪下ろしをしたとのこと（耐雪二五〇cm）。一階のベランダにはベニヤ板などを張り巡らせて、雪の侵入を防いだとのこと（二階は埋まった？）。朝、玄関先の雪かきをしないと外にも

出られなかったとのこと。

雪の降り方は、年によって異なります。インターネット上で「高田測候所の積雪記録」（気象庁のアメダス値を利用した）を見つけました。①最大積雪深 ②積雪日数 ③累積積雪深のデータがあり、昨冬（平成二十二年秋～二十三年春）は、①一五三cm ②九九日 ③六四八〇cm でした。昨冬の雪は、一月末から二月に大雪になりましたが、二月中旬から暖かくなって、雪解けが早かったかな。

では、「三年豪雪」のときはどうだったのでしょうか。

昭和五十八年～五十九年の冬は
①二九二cm ②一四〇日 ③二九四一cm
昭和五十九年～六十年の冬は
①二九八cm ②一一七日 ③二〇七二七cm

昭和六十年～六十一年の冬は
①三二四cm ②一三二日 ③一九七五九cm

昭和五十八年～五十九年の冬は、降雪期間が長かったようで、また、昭和六十年～六十一年の冬は、短期間にどさつと降つたらしいことが数字からわかります。ちなみに、私が上越市に来て最初の冬は、昭和六十三年～平成元年ですが、
①一五cm ②三七日 ③二六八cm
というまれにみる暖冬の年でした。うれしい「肩すかしをくつた」のでした。



南本町一斉雪おろし

上越市はスキー発祥の地でもあり、今年（2023年）はスキー発祥一〇一周年になります。スキーを教えたレルヒ少佐の名前を冠した「レルヒ祭」は、二月十一日（前夜祭）十二日（本祭）に開催され、スキー場でのイベント（火花・たいまつ滑走・音楽ライブ）のほか、商店街でも冬の味覚を楽しむメニューがあり、一万五千人もの参加者がありました。一月から三月にかけて「レルヒマンス」と銘打って、関連のイベントがいろいろ計画されています。その一つ「雪の高田城雪行燈めぐり」が、二月十九日に高田公園であり、参加しました。雪で作った灯籠や行燈に、夕方（午後五時）から灯りを点すと、雪の公園全体が神秘的な空間になり、辺りが暗くなるにつれて、見慣れているはずの三重櫓が、おめかししたよう。「雪には灯りがよく似合う」と、公園内を楽しんで歩き、その雰囲気陶醉しました。

三月三日、私が勤務する中学校の卒業式でした。当日、校庭はまだ雪で埋まっています（積雪約一四〇cm）、保護者のための駐車場を確保するのに苦慮する状態でした。その卒業式の舞台上には卒業生の門出を祝うかのように、桜の花が見事に咲いていました。花咲か



高田公園の雪風景

じいさんならぬ、花咲かおねえさん（？）がいたのです。一月末の降雪で、中学校の周りの桜の木の枝がずいぶん折れました。その桜の枝を拾ってきて、学校の図書室で室温を調節しながら、四十日ほど大事に見守った結果だったのです。「音の春」という季語があるそうです。雪国にいますと、それを実感することが出来ます。路面の雪はなくなり、歩きやすくなりました。歩いていると、野鳥のさえずりが聞こえます。そして、雪解けにともなうかすかな水（桃花水）の音がします。

「時空を紡ぐ さきおり」

娘の幼稚園時代のママ友に松原恵子さん（上越市南城町在住）がいます。彼女は「裂き織り」の作家です。彼女は、昭和六十三年（一九八八年）、ご主人の転勤で佐渡に在住のさいに、佐渡の伝統工芸である裂き織り「サッコリ」に出会います。佐渡の相川町技能伝承館にて、講習を受け（一年間）、自前の「機」（ネマリバタ）ともにも上越の自宅に戻ってからも作品作りに励まれました。裂き織りをはじめ二年後の平成二年（一九九〇年）に、上越市美術展に初出品・初入選を果たし、七年後には無監査となります。また、新潟県美術展・現代工芸新潟会展にも入選を果たしています。県内ばかりではなく、全国裂き織展においても、入選を果たしています。



裂き織り作家松原恵子さん

「裂き織り」とは、経糸に木綿糸、緯糸に古布を細く裂いてリボン状にしたものを使った織物です。緯糸に裂いた布を使うことで、とても丈夫な物になります。もちろん古くなった布も再生できます。なぜ、裂き織りが考え出されたのでしょうか。『ものと人間の文化史 裂き織』（佐藤利夫著・法政大学出版社）によると、

「布」とは本来は麻布を指していた。北陸より北では、寒冷なために綿花の栽培には適していないので、衣料繊維の中心は麻であった。（中略）木綿の導入が衣生活にどれほど大きな影響を与えたか、日本列島の南北の気候条件によつて、ワタの栽培地とこれに適さない寒冷地とでは、木綿織りによつて生活を豊かにした地域と、なお麻が主要な繊維として残っている地域の差になって色分けされた。佐渡はワタのできる温暖地と寒冷地の中間にあり、衣生活においても、文化と同じような南北両方の要素が入って共存している所である。

とあり、木綿が貴重であり、布が貴重であり、古くなくても弱くなくても破れても、とことん使い切った時代があったことがうかがい知れます。

佐渡といえ、民話「鶴の恩返し」



ネマリ機

の舞台の一つでもあります。この民話をもとに、木下順二は戯曲『夕鶴』を書きました。人間の姿に身を変えた鶴・つうは、命の恩人・与ひょうのために布を織ります。「羽を抜き取って織る」姿を見られないように、つまり鶴であることを知られないために「織っている所を見ないで。」と言いついて、作業場にこもりませす。鶴が織っている姿は、挿絵では「夕チバタ」(高機・いすのよな物に座って織る織機)だったと思いますが、松原さんの織り機は、座つてするものでした。

三月七日、松原さんの展覧会を見に、

上越市板倉区の「アトリエやま」に行つてきました。辺りは、道路沿いに背丈ほどの雪の壁が残るものの、春のひざしが暖かく感じられる日でした。この展覧会は、平成六年(一九九四年)より恒例になつており、ギャラリーには、タペストリーをはじめ、バッグやペンケース・コースターなど展示即売されておりました。私を含め常連の裂き織りファンが、作品を鑑賞したり、コーヒーを飲みながら談笑したり、ゆったりとした時間を過ごしていました。そう昨年は、三月十一日の二時ころここを訪れており、ここで東日本大震災の揺れを経験し、津波の惨状をテレビで見たのでした。

松阪は、江戸時代の豪商三井家発祥の地です。江戸の元禄時代ころから、

越後屋の屋号で「松阪もめん」を商い、その後の「三越」の礎を築きます。江戸の町で二百軒ほどあった呉服屋の七割は松阪商人だったとか。(三井家のほか、小津家・太田家・長谷川家など)。

なぜ、このように松阪商人が活躍できたのか、いくつかの理由や時代背景があるようです。

十六世紀初頭・室町時代の後期に「ワタ」の種が伝来し、栽培に適した三河(愛知)・河内(大阪)・伊勢(三重)などで、

「もめん」の原料が生産されはじめます。舶来の高級な木綿ではなく、国産の木綿(生産者)と、「機殿はたどの」の地名に由来する織りの伝統(技術者)と、「江戸」(消費者)をつなぐ役目を松阪商人が行つたようです。

昭和五十九年(一九八四年)、三井家跡地(松阪市魚町)に「松阪もめん手織りセンター」が開設されました。ここでは手織り体験ができ、また、「松阪もめん」製の商品が販売されています。江戸で大流行した「松阪もめん」も、明治以降急激に生産が減少し、その技術を守る必要性がでてきたからでしょう。江戸時代の「粋」を代表するといわれた縞模様は、現代でも充分ハイカラだと思えますし、残していつてもらいたいとも思います。

「織物」というものになぜか惹かれます。染織家・志村ふくみさんは「染め」と「織り」の第一人者ですが、すばらしい随筆家でもあります。その著書『語りかける花』(人文書院)の「平織り」の項に次のような文章があります。

織物の中で、平織りは最も平易である。空気や水の如きであり、始めであり、終わりである。何十年やっても、今はじ

めたかのように新鮮である。(中略) 糸はすでに空間に張られた動かしがたい存在である。そこへ今日の自分の千々に乱れた感情が往来する。色彩はその日によって刻々微妙に、メタモルフォーゼして様々に彩なす今日を織り上げてゆく。或る時は、平穏な情緒と、安定したリズムを奏で、或る時は、強靱な意志の力で経糸に秘められた想いを構築していくこともできる。

我が家には、松原さんの裂き織りの「額絵」があります。縦十八cm・横二十五cmで、経糸に黒い木綿糸を使い、緯糸に藍色を中心しながら、何種類もの布が層をなし、海から見た「佐渡島」が描かれています。

海は、藍の無地の濃淡で表現され、岸辺は白と藍の混じった布で、波打ち際や建物の気配が表現されています。山の中腹には、藍色に黄や緑や茶の色が混じり草木が感じられます。空は、白っぽい布を多く使い山の稜線のくつきりと浮かび上がらせています。

「裂き織り」は、実用ばかりではなく、「織る」ことで、また素材や色を「組み合わせる」ことで発生する「偶然性」と「デザイン性」にも注目が集まっています。

御祝

永六輔、落語界にうといわけではない。

生家の寺の門を出て、左の突き当りは寄席の「鈴本」、右へ行けば「浅草演芸ホール」、途中の白鷗高校は、生徒全員に三味線が用意されている。近所の銭湯の昼下がり、売れない芸人さん達が噂話をしている。そんな町で育った。永六輔、落語界にうといわけではない。

寄席好きの父に連れられて、時には須田町や、人形町に出かけ、可楽や三木助に間に合った。岡本文弥の一言、「戦争はいやでございます、あれは散らかしますから。」は忘れられない。談志の小ゑん、小三治のさん治もおぼえている。

好江姐さんに頼まれて、柳昇師匠から「アタシを師匠にさせて下さい。」と云われ、その後弟子入り。昇太を「あにさん」と呼ぶ破目にもなった。だから落語にうといわけではない。父が憧れていた「席亭」を実現して、親孝行も出来た。沢山の前座が真打に育っていった。だから落語にうといわけではない。

その永六輔が「瀧川鯉橋」を知らなかった。この頃落語に興味を持ち始めた姪がいるので聞いた。「鯉橋師とは、昨日よりもおとつい。明日よりはあさつて」という時間枠に居そうな人。レコードというならB面の気配を持つひと。今度紹介します「僕が実家へ帰った時、その男は住職のように出迎えた。たしかにB面の風情だった。

一方、永六輔は転倒が続いてパーキンソン病。早くリハビリから卒業して、パーティーにも参加したい。リハビリ仲間野坂昭如サンから云われたことがある。「時代が怪しい。これからは、米どころに親戚があることが大切だ。」鯉橋に出身を聞くと「越後・直江津」なんという目出たい結論。やれ目出たい。メデタイ。永六輔、落語界にうとい。

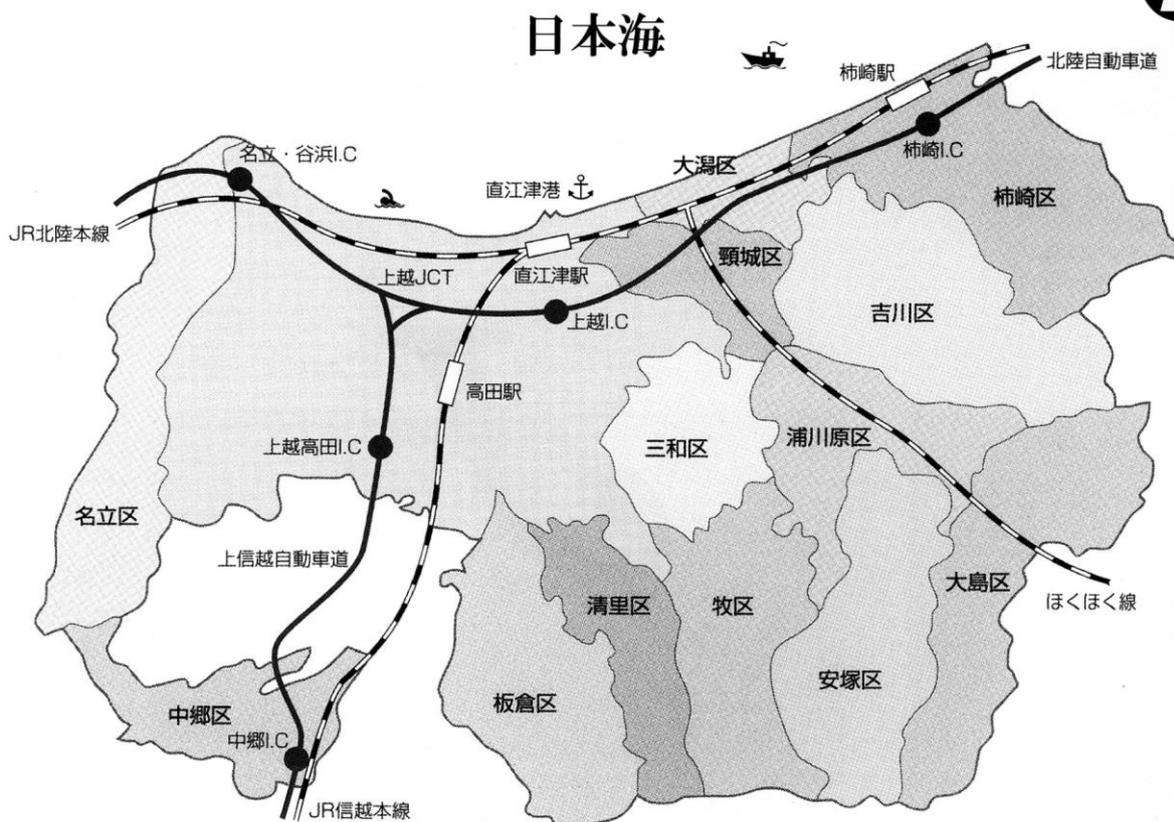
平成二十四年 三月吉日

永六輔



Jネットより贈った楽屋暖簾の染色「謙信褐紅紫」について解説する理事の藤田香代さん

上越市マップ



面積 973.54km² (シンガポールの1.4倍)

人口 203,899人

世帯 71,477世帯

(平成22年国勢調査)

編集後記

遅くなりましたが会報33号をお届けします。

会報制作に皆さまから写真をお借りしていますが、きれいなものが多く白黒では申し訳ないといつも思っていました。しかし、カラー印刷になると倍近い費用が掛かってしまいます。

いつも印刷をお願いしている会社は一度に8ページ分の紙に印刷しています。つまり裏表16ページが同時印刷となります。会報の表紙は何時もカラーですから、用紙を表紙の紙と同一のものにすると頭8ページと後ろ8ページ(一台分)はカラーにしてもそれほどお金はかからないこととなります。

そこで、今回は試みに16ページのみ部分カラーとし、カラー写真の多い記事を配置しました。

そんな訳でこれまで岡村さんが苦勞して完成したページ配置が大きく変わってしまいました。

どんな感じになるか不安半分で出来上がりを待っています。

今回、編集長の岡村博巳さんは肺と腎臓にガンが見つかり入院中です。今回会報の発行が遅れたのは岡村さんの入院もその一因です。岡村さんは既に2か月抗がん剤治療をしていますが、元気でほとんど毎日電話で話をしています。一日も早く復帰してくれることを心待ちにしています。

和久井 博



●発行

ふるさと上越ネットワーク事務局
〒150-0043
東京都渋谷区道玄坂1-16-6 二葉ビル6階-6B号
TEL:03-6415-6277 FAX:03-6415-6299
E-mail:jnet_tokyo@albatros.co.jp
URL:<http://www.joetu.gr.jp/>

本庁担当(自治・市民環境部 共生まちづくり課)
〒943-8601
新潟県上越市木田1-1-3
TEL:025-526-5111(内1406) FAX:025-526-8363
E-mail:j-net@city.joetu.lg.jp

【皆様からの情報をお待ちしています】 TEL:03-6415-6277 (Jネット事務局)
